

目 次

調査の概要

1	調査の目的	(3)
2	調査項目	(3)
3	調査設計	(3)
4	回収結果	(3)
5	地域別回収状況	(4)
6	調査回答者の属性	(5)

調査結果の概要

第1章 人権尊重社会に対する感じ方

1	人権尊重社会に対する感じ方	(6)
2	人権が尊重されていないと感じる理由	(8)

第2章 風習・慣習に対する意識

1	風習・慣習に対する意識	(11)
---	-------------	--------

第3章 人権の知識・認識

1	差別や人権侵害を受けた経験	(24)
2	差別や人権侵害を受けた相手	(26)
3	受けた差別や人権侵害の内容	(29)
4	差別や人権侵害を受けたときの対応	(32)
5	人権課題への関心	(35)

第4章 女性の人権について

1	女性に関する人権上の問題	(41)
---	--------------	--------

第5章 子どもの人権について

1	子どもに関する人権上の問題	(44)
---	---------------	--------

第6章 高齢者の人権について

1	高齢者に関する人権上の問題	(47)
---	---------------	--------

第7章 障がいのある人の人権について

1	障がいのある人に関する人権上の問題	(51)
---	-------------------	--------

第8章 同和問題について

1	同和問題の認知経路	(54)
2	同和問題に関する人権上の問題	(58)
3	子どもの同和地区出身者との結婚	(61)
4	同和地区出身者との結婚	(63)
5	同和地区にある家（住宅）の購入	(65)
6	身近な人が差別的な言動をしたときの対応	(67)
7	同和問題の解決に対する考え	(69)
8	同和問題の解決に必要なこと	(71)

第9章 外国人の人権について	
1 外国人に関する人権上の問題……………	(74)
第10章 性的少数者(同性愛、性同一性障がいなど)の人権について	
1 性的少数者(同性愛、性同一性障がいなど)に関する人権上の問題……………	(77)
第11章 患者及び感染者等の人権について	
1 HIV(エイズの原因ウイルス)感染者、肝炎ウイルス感染者および 新型コロナウイルス感染症感染者等に関する人権上の問題……………	(80)
2 ハンセン病回復者に関する人権上の問題……………	(83)
第12章 インターネットによる人権侵害について	
1 インターネットによる人権侵害が起こっている原因……………	(85)
第13章 犯罪被害者とその家族の人権について	
1 犯罪被害者とその家族に関する人権上の問題……………	(88)
第14章 刑を終えて出所した人の人権について	
1 刑を終えて出所した人に関する人権上の問題……………	(91)
第15章 ヘイトスピーチ(差別をあおる憎悪表現)について	
1 ヘイトスピーチがなくなる原因……………	(94)
第16章 研修の参加状況について	
1 過去3年間における研修会等の参加回数……………	(97)
2 参加しなかった理由……………	(99)
第17章 人権が尊重される社会に向けての取組について	
1 人権が尊重される社会に向けた行政の取組……………	(102)
付録：調査に利用した依頼状および調査票……………	(105)

調 査 の 概 要

1. 調査の目的

本調査は、市民のさまざまな人権に関する意識の現状を調査・分析し、今後の人権施策のあり方・方向性等を考える基礎資料を得ることを目的とした。なお、この調査に当たっては、「県の人権問題に関する県民意識調査」（平成 28 年 9 月調査）に基本的には準拠し、さらにいくつかの人権課題に関する調査を加えた。

2. 調査項目

- (1) 人権尊重社会に対する感じ方
- (2) 風習・慣習に対する意識
- (3) 人権の知識・認識
- (4) 女性の人権について
- (5) 子どもの人権について
- (6) 高齢者の人権について
- (7) 障がいのある人の人権について
- (8) 同和問題について
- (9) 外国人の人権について
- (10) 性的少数者（同性愛、性同一性障がいなど）の人権について
- (11) 患者及び感染者等の人権について
- (12) インターネットによる人権侵害について
- (13) 犯罪被害者とその家族の人権について
- (14) 刑を終えて出所した人の人権について
- (15) ヘイトスピーチ（差別をあおる憎悪表現）について
- (16) 研修の参加状況について
- (17) 人権が尊重される社会に向けての取組について

3. 調査設計

- (1) 調査地域 市内全域
- (2) 調査対象 18 歳以上の男女個人
- (3) 標本数 2,000 人
- (4) 標本抽出法 無作為抽出
(平成 27 年国勢調査の人口構成比を基に、旧 6 町村ごと、男女別、年代別に、ほぼ均等に無作為に抽出)
- (5) 調査方法 郵送法
- (6) 調査期間 令和 2（2020）年 7 月 8 日～7 月 31 日
- (7) 調査機関 雲南市人権センター

4. 回収結果

標本数	有効回収数（率）
2,000	780（39.0％）

※ただし、回答をすべて有効としているため、回答率の合計が 100％にならない場合がある。

5. 地域別回収状況

(1) 割当標本数と有効回収調査票数

	割当標本数	有効回収調査票数	割当標本数に対する 回収率 (%)
総 数	2,000	780	39.0
大 東	636	227	35.7
加 茂	309	120	38.8
木 次	445	172	38.7
三 刀 屋	368	145	39.4
吉 田	92	46	50.0
掛 合	150	66	44.0
地域無回答		4	
平成 27 年度調査	2,000	849	42.5
平成 22 年度調査	2,000	859	43.0
平成 17 年度調査	2,000	840	42.0

(2) 地域別の特徴

各地域の性別・年齢・職業別の構成比は下表のとおりである。

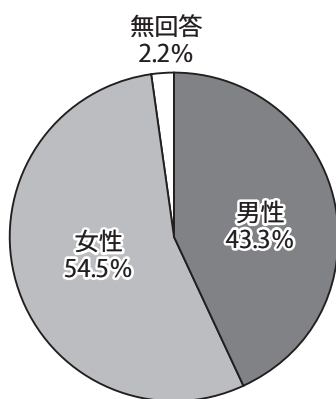
		回答者数 (人)	性別（％）			年齢（％）							
			男性	女性	無回答	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答
総 数		780	43.3	54.5	2.2	5.5	5.4	6.0	10.5	14.1	23.8	34.2	0.4
地域別	大東	227	44.9	53.7	1.3	7.0	4.0	7.5	15.0	14.1	23.8	28.6	0.0
	加茂	120	44.2	53.3	2.5	6.7	5.0	5.8	12.5	11.7	28.3	30.0	0.0
	木次	172	43.6	55.2	1.2	2.9	8.1	7.0	8.7	15.7	20.9	36.6	0.0
	三刀屋	145	42.1	56.6	1.4	5.5	5.5	5.5	6.9	17.2	21.4	37.9	0.0
	吉田	46	37.0	58.7	4.3	4.3	4.3	4.3	6.5	13.0	32.6	34.8	0.0
	掛合	66	43.9	53.0	3.0	6.1	4.5	1.5	7.6	7.6	24.2	48.5	0.0
	地域無回答	4	25.0	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	75.0

6. 調査回答者の属性

本調査の回答者（有効回収標本）780 人の基本属性は次のとおりである。

（１）性別

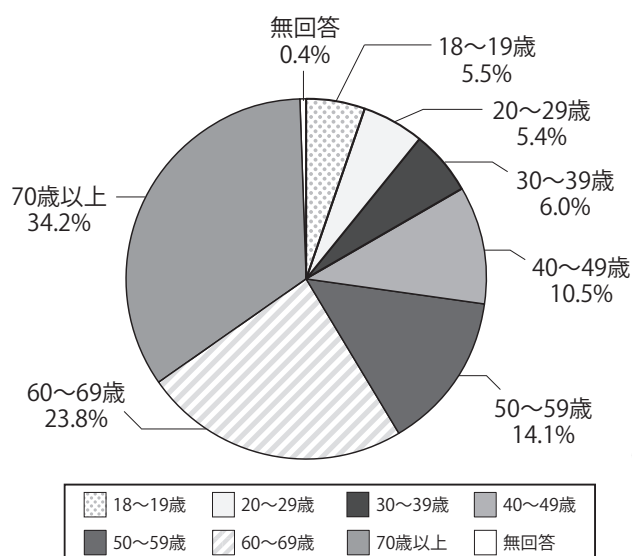
本調査回答者の性別構成は、男性 43.3%、女性 54.5%となっている。



（総数 780 人）

（２）年齢

年齢構成をみると、18～19 歳 5.5%、20～29 歳 5.4%、30～39 歳 6.0%、40～49 歳 10.5%、50～59 歳 14.1%、60～69 歳 23.8%、70 歳以上 34.2%となっている。

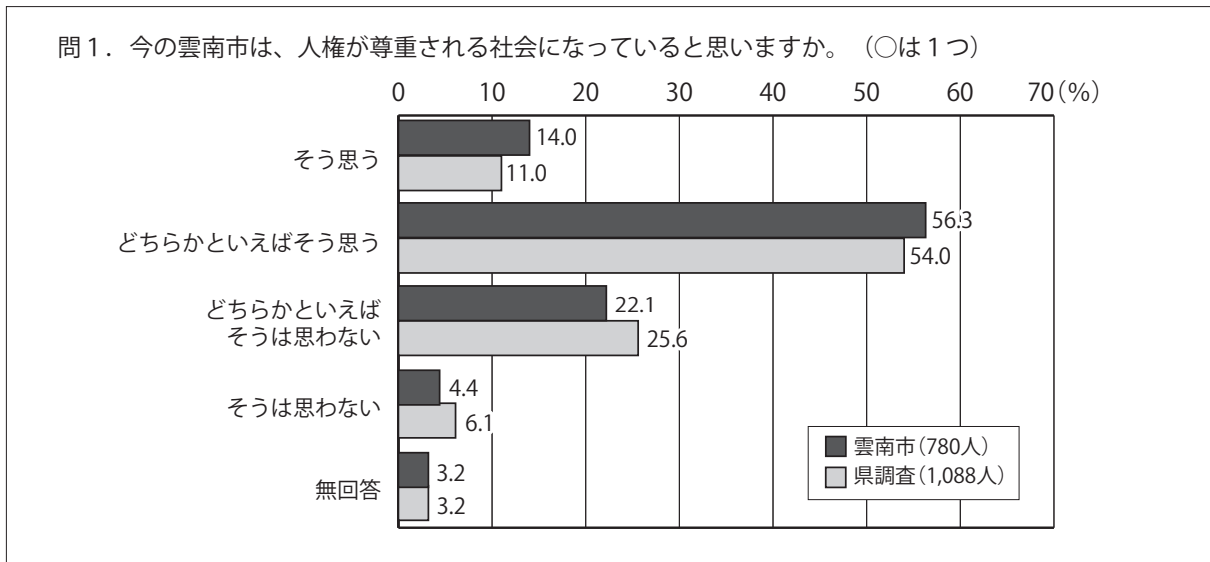


（総数 780 人）



第1章 人権尊重社会に対する感じ方

1. 人権尊重社会に対する感じ方



■約7割が人権尊重社会と感じている

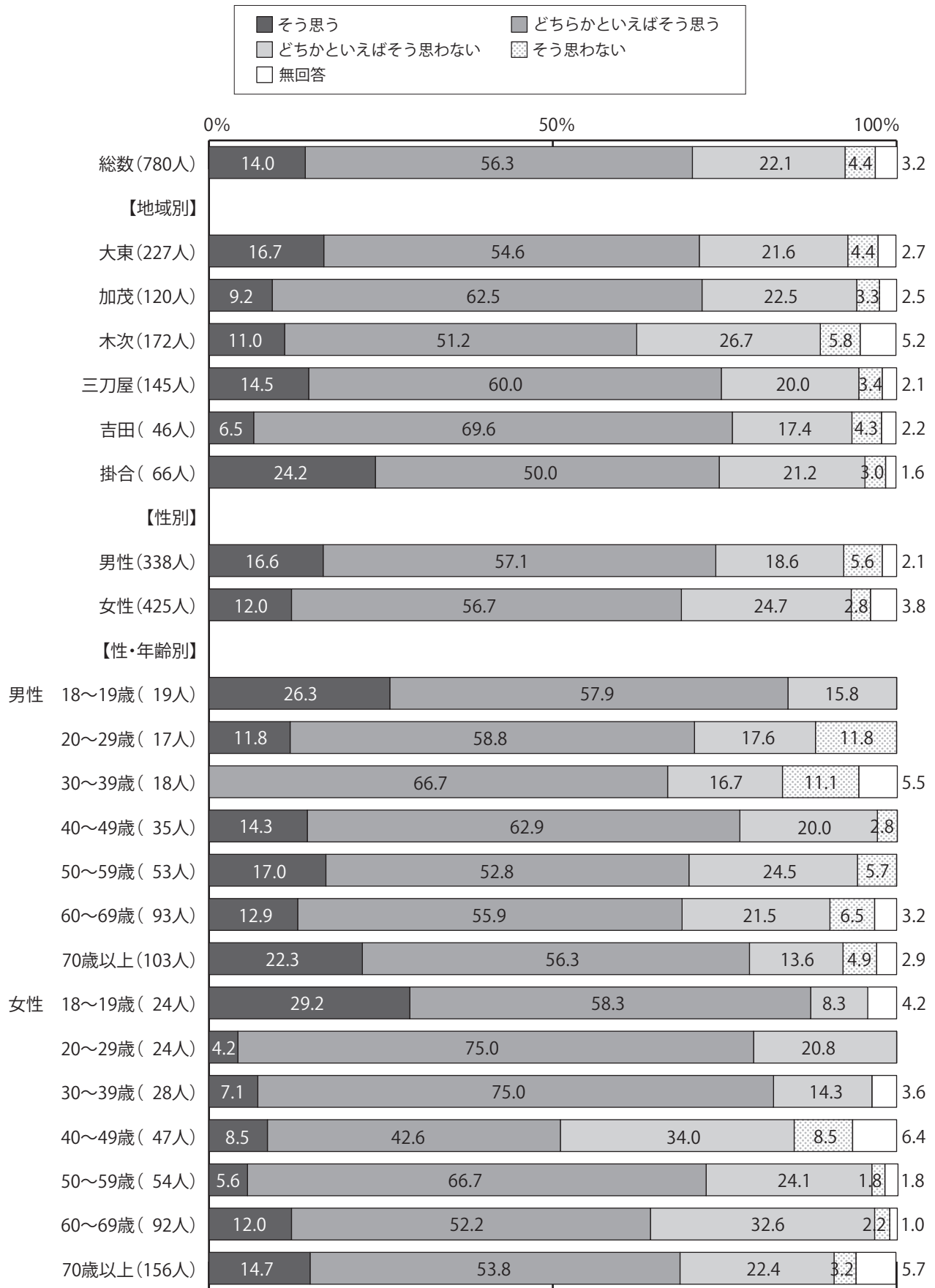
今の雲南市は、人権が尊重される社会になっているかについては、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）は70.3%、『そうは思わない』（「どちらかといえばそうは思わない」と「そうは思わない」を合わせた割合）は26.5%である。

地域別でみると、『そう思う』は、いずれの地域でも6割以上で、吉田町（76.1%）が最も高くなっている。

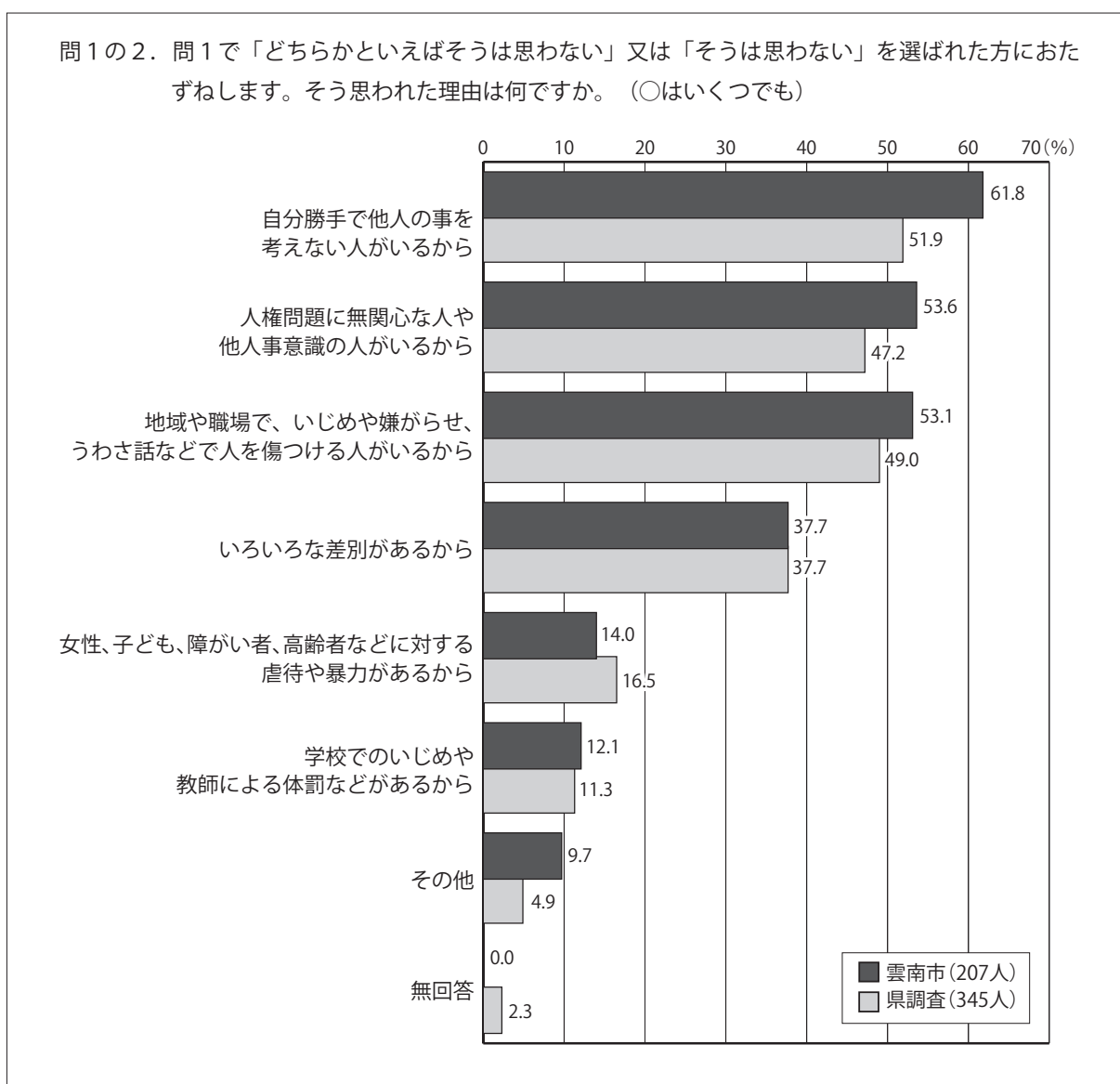
性別でみると、『そう思う』は、男性（73.7%）が女性（68.7%）よりも高くなっている。

性・年齢別でみると、『そう思う』は、女性の40歳代（51.1%）が最も低くなっている。

人権尊重社会に対する感じ方（特性別）



2. 人権が尊重されていないと感じる理由



■「自分勝手に他人の事を考えない人があるから」が6割超

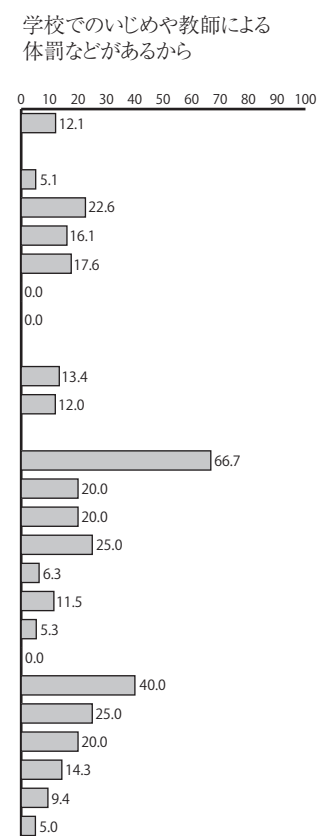
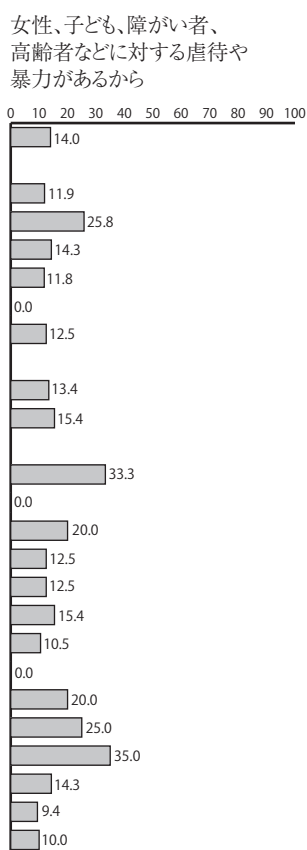
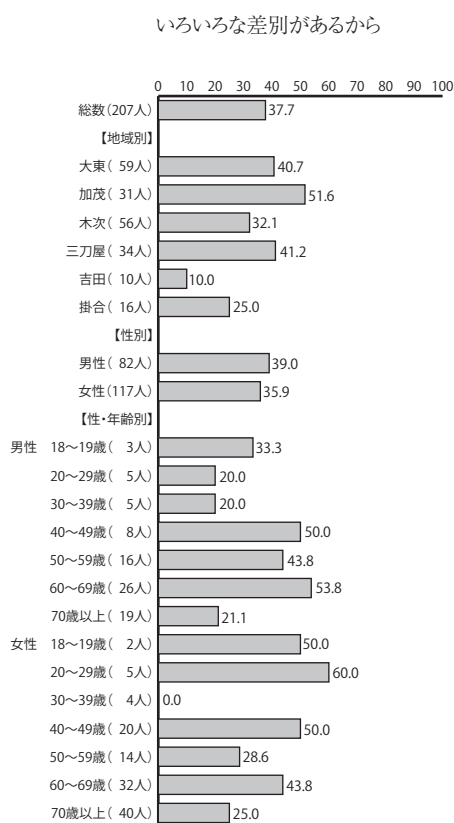
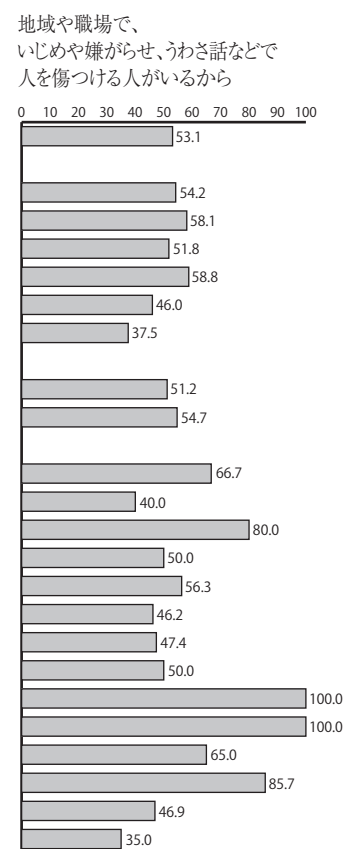
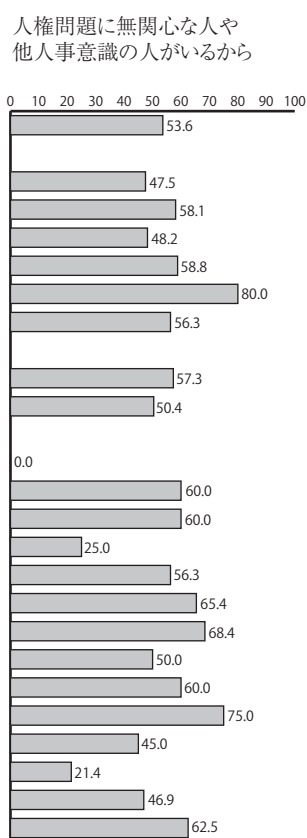
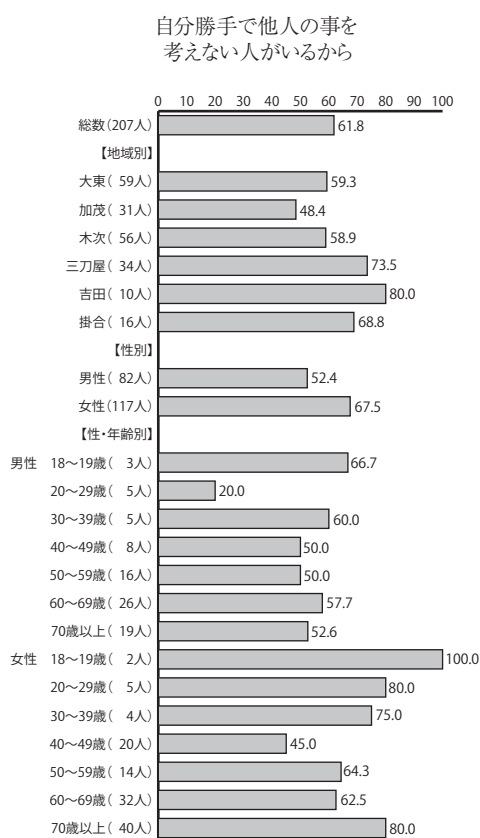
今の雲南市は、人権が尊重される社会になっていないと感じる理由については、「自分勝手に他人の事を考えない人があるから」が61.8%と最も高く、次いで「人権問題に無関心な人や他人意識の人があるから」が53.6%、「地域や職場で、いじめや嫌がらせ、うわさ話などで人を傷つける人があるから」が53.1%となっている。

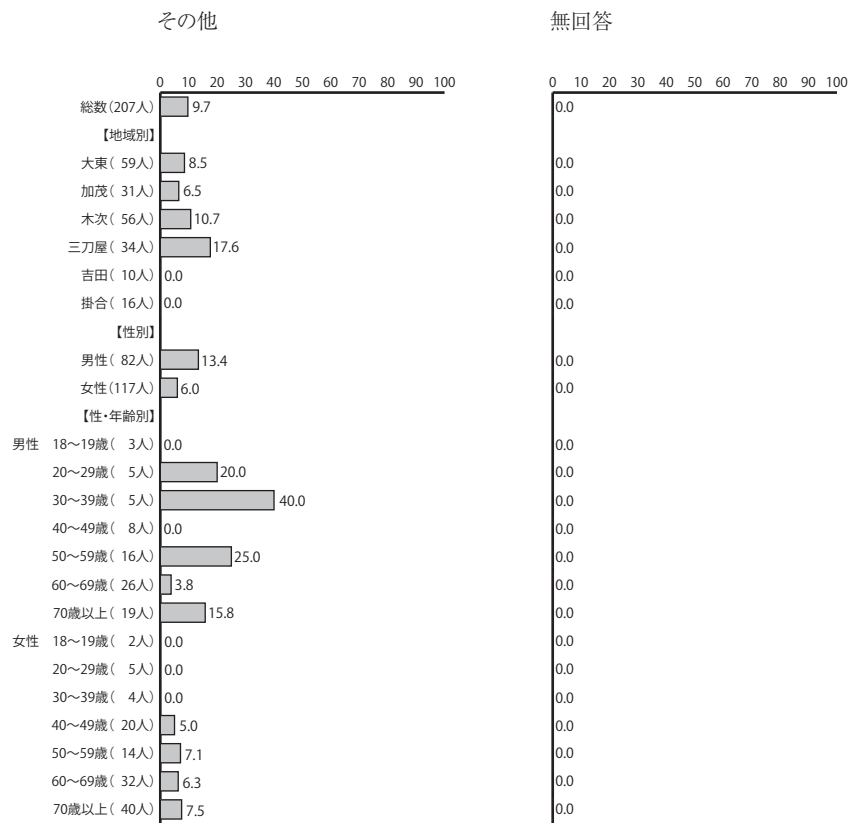
地域別でみると、「自分勝手に他人の事を考えない人があるから」は吉田町（80.0%）で最も高くなっている。

性別でみると、「自分勝手に他人の事を考えない人があるから」は女性（67.5%）が男性（52.4%）よりも高くなっている。

性・年齢別でみると、女性の18・19歳では「自分勝手に他人の事を考えない人があるから」（100%）、女性の20・30歳代では「地域や職場で、いじめや嫌がらせ、うわさ話などで人を傷つける人があるから」（100%）が最も高くなっている。

人権が尊重されていないと感じる理由（特性別）

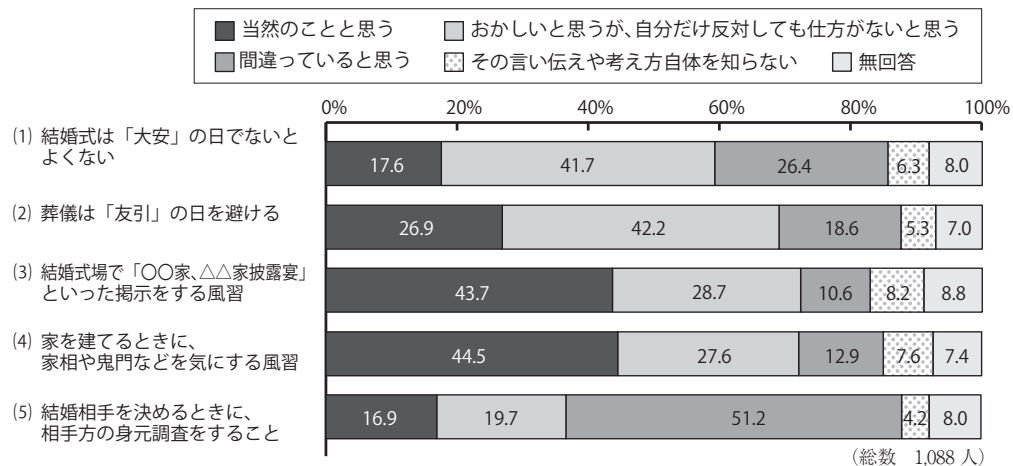




第2章 風習・慣習に対する意識

1. 風習・慣習に対する意識

問2. 日本には古くからの言い伝えや考え方がありますが、次の(1)～(5)について、あなたはどのように思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)



■「結婚式は「大安」の日でないとよくない」、「葬儀は「友引」の日を避ける」、「結婚式場で家名を掲示する風習」、「家を建てるときに、家相や鬼門を気にする風習」は5割超が容認的な考え方。「相手方の身元調査をする」は「間違っていると思う」が5割超で批判的な考え方。

「差別」に対する意識との関連という見地から、古くからの風習・慣習について、5項目を取り上げ、意見を聞いた。

- (1)「結婚式は「大安」の日でないとよくない」という考え方については、「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」が41.7%と最も高く、次いで「間違っていると思う」が26.4%、「当然のことと思う」が17.6%となっている。
- (2)「葬儀は「友引」の日を避ける」という考え方については、「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」が42.2%と最も高く、次いで「当然のことと思う」が26.9%、「間違っていると思う」が18.6%となっている。
- (3)「結婚式場で「〇〇家、△△家披露宴」といった掲示をする風習」については、「当然のことと思う」が43.7%と最も高く、次いで「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」が28.7%、「間違っていると思う」が10.6%となっている。
- (4)「家を建てるときに、家相や鬼門を気にする風習」については、「当然のことと思う」が44.5%と最も高く、次いで「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」が27.6%、「間違っていると思う」が12.9%となっている。
- (5)「結婚相手を決めるときに、相手方の身元調査をすること」については、「間違っていると思う」が51.2%と最も高く、次いで「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」が19.7%、「当然のことと思う」が16.9%となっている。

(1)「大安」と結婚式

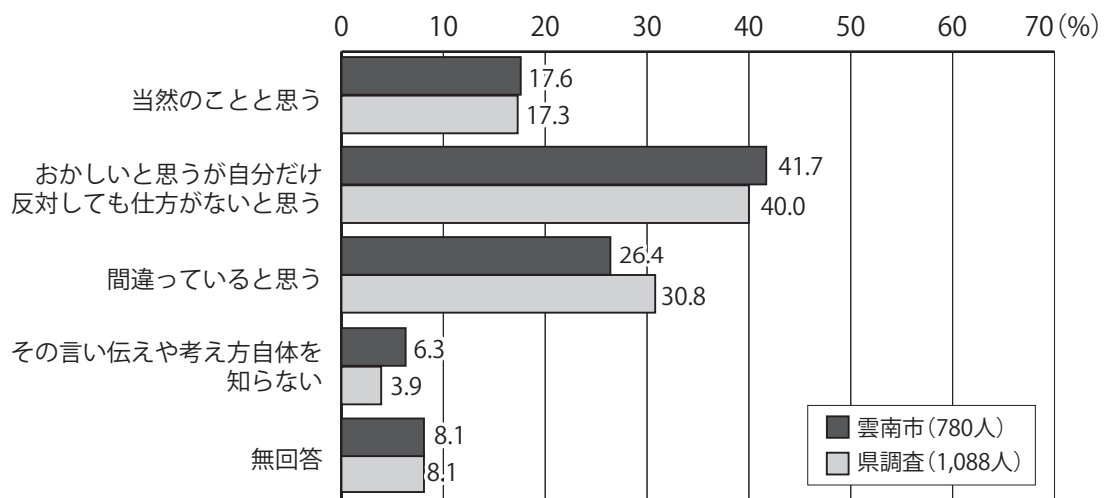
「結婚式は「大安」の日でないといくくない」という考え方についての意見を平成 28 年度県調査結果と比較してみると、「当然のことと思う」、「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」は県より市の方が高くなっている。

地域別でみると、「当然のことと思う」は吉田町（23.9％）で最も高くなっている。

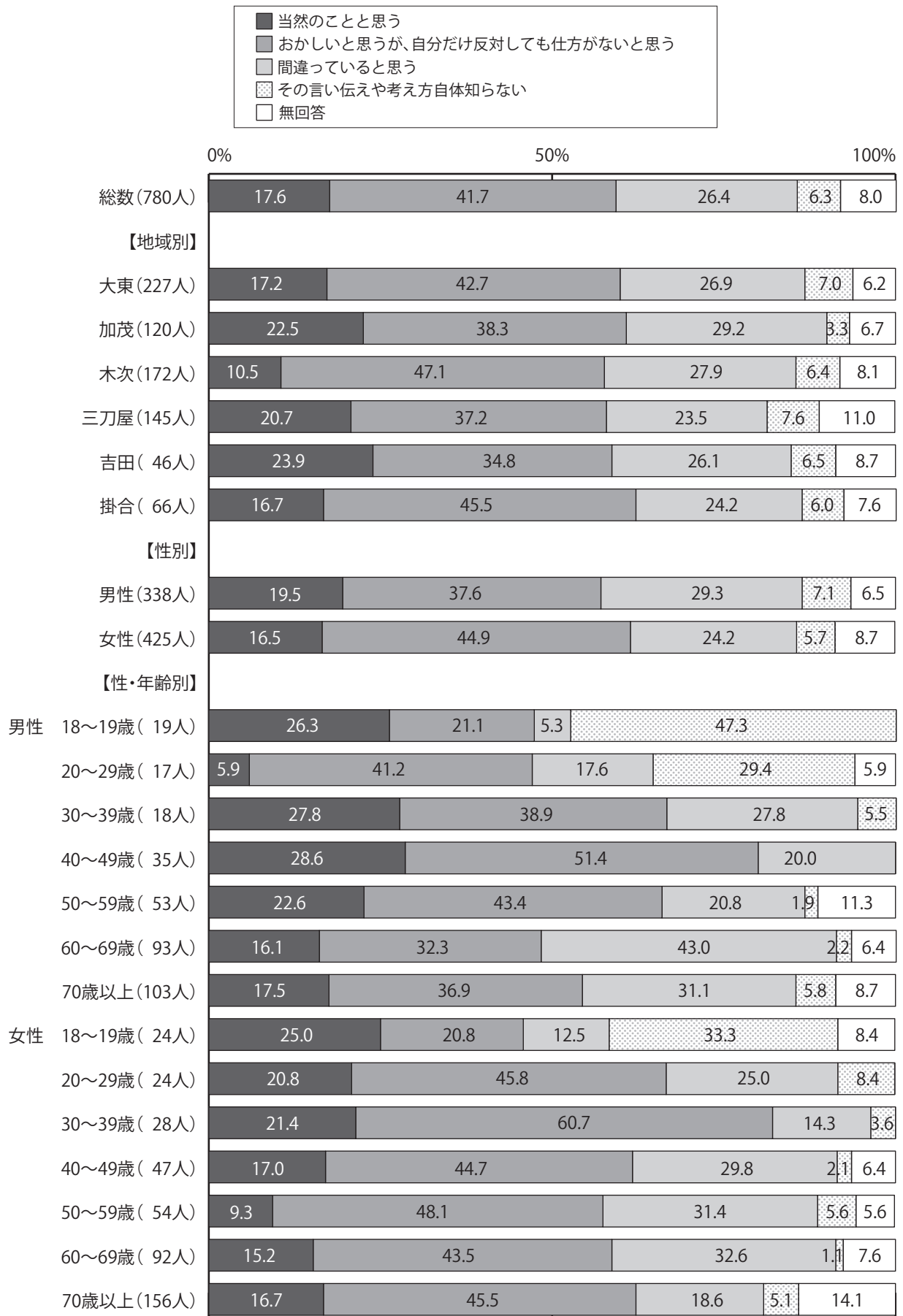
性別でみると、「おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方がないと思う」は男性（37.6％）より女性（44.9％）が高く、それ以外はすべて男性が高くなっている。

性・年齢別でみると、男性の 40 歳代では、「当然のことと思う」が 28.6％で最も高くなっている。

「大安」と結婚式（県との比較）



「大安」と結婚式（特性別）



(2) 「友引」と葬儀

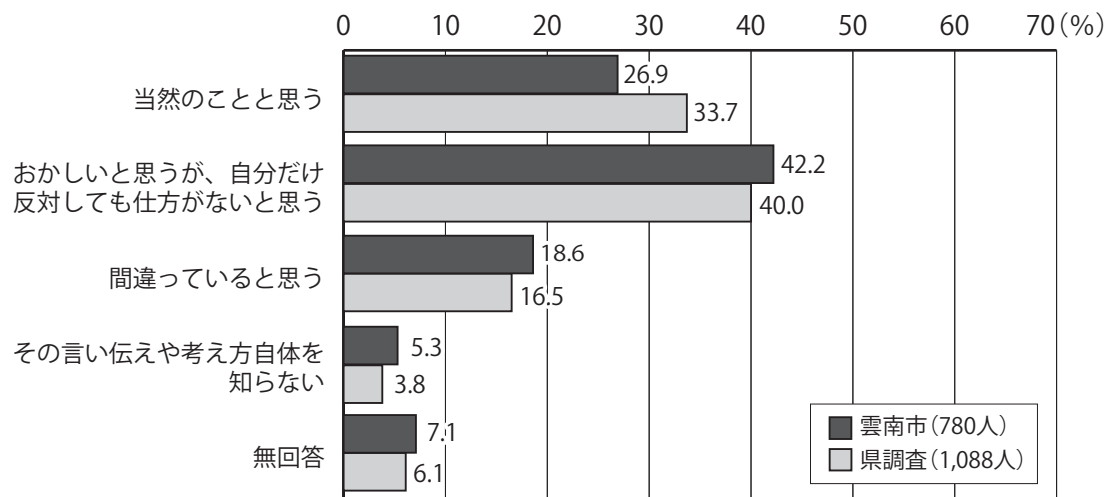
「葬儀は「友引」の日を避ける」という考え方についての意見を平成28年度県調査結果と比較してみると、「当然のことと思う」は県の方が高く、「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」、「間違っていると思う」という意見はいずれも市の方が高くなっている。

地域別でみると、「当然のことと思う」は、吉田町（50.0%）で最も高くなっている。

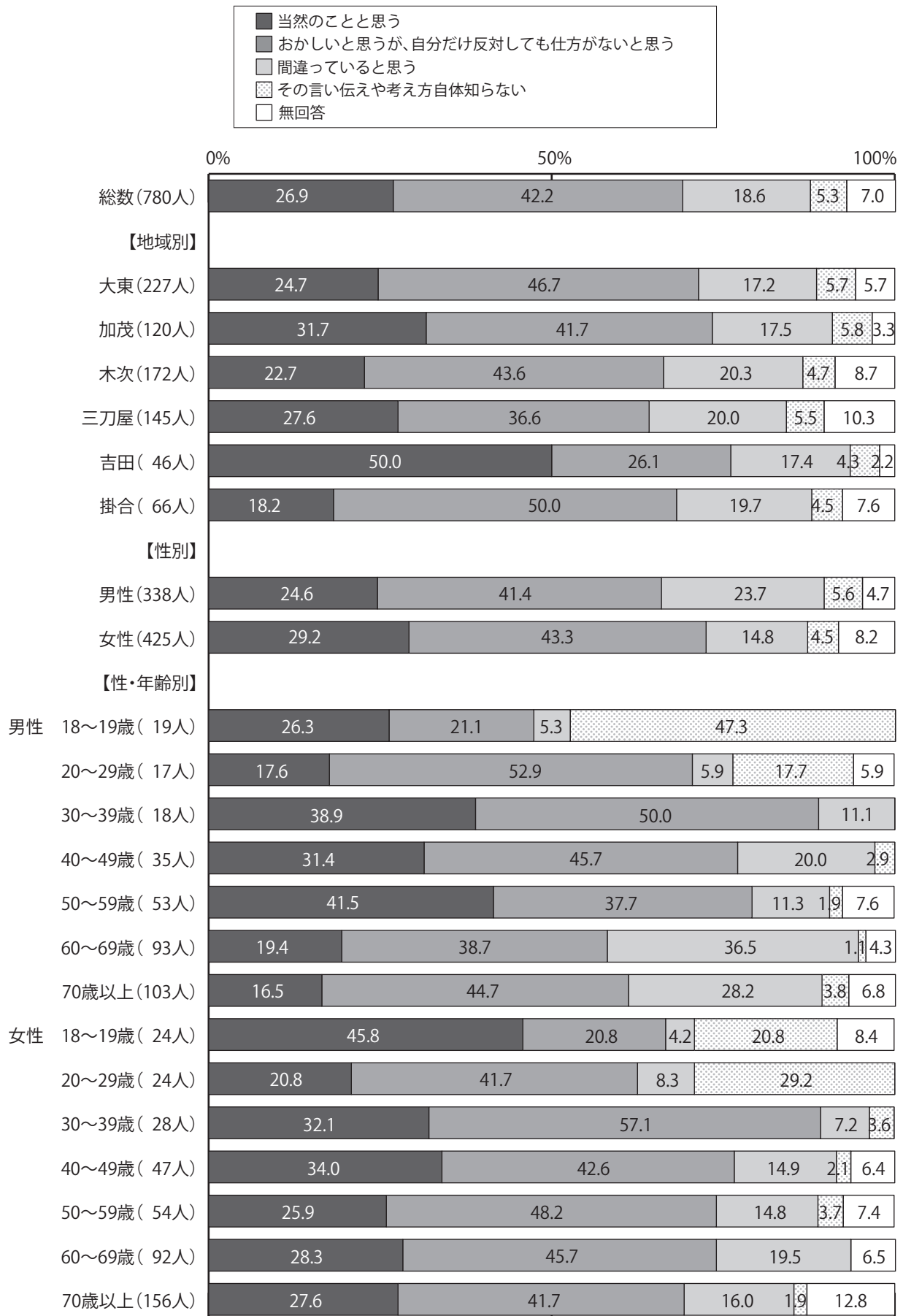
性別でみると、「当然のことと思う」と「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」は女性が高くなっている。

性・年齢別でみると、女性の18、19歳代では、「当然のことと思う」が45.8%と他の年代に比べ高くなっている。

「友引」と葬儀（県との比較）



「友引」と葬儀（特性別）



(3) 結婚式場で「〇〇家、△△家披露宴」といった掲示をする風習

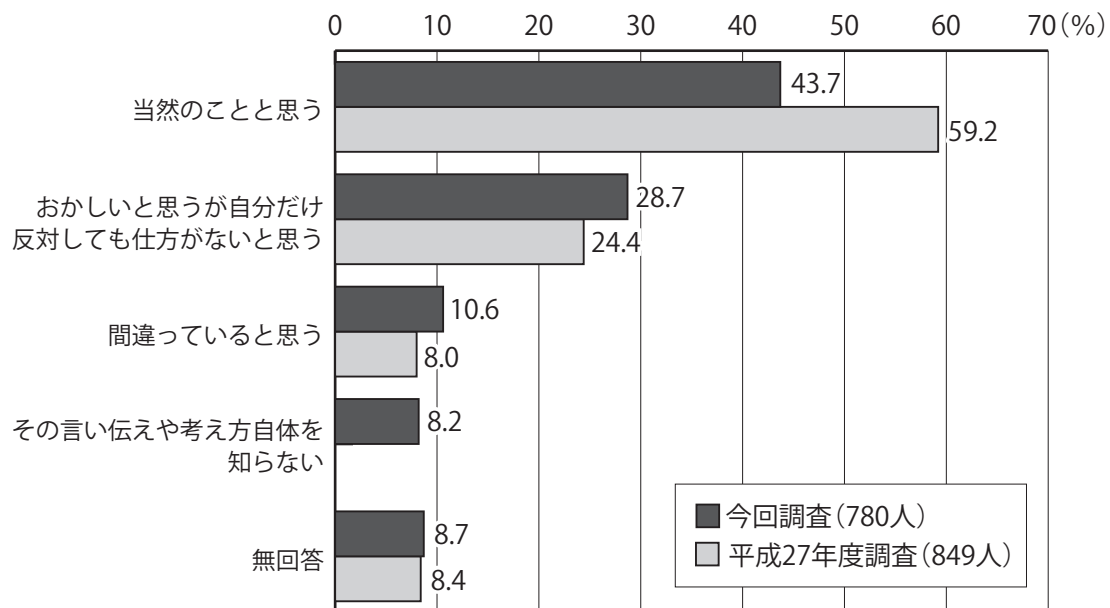
本設問は県調査にはないため、平成27年度に市で実施した調査結果と比較した。

地域別でみると、「間違っていると思う」は、吉田町（15.2%）で最も高くなっている。

性別でみると「間違っていると思う」は大きな差はないが、「当然のことと思う」は女性（41.9%）より男性（47.0%）が高く、「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」は、男性（26.6%）より女性（30.4%）が高い。

性・年齢別でみると、男性の60歳代では、「間違っていると思う」が18.3%と最も高くなっている。

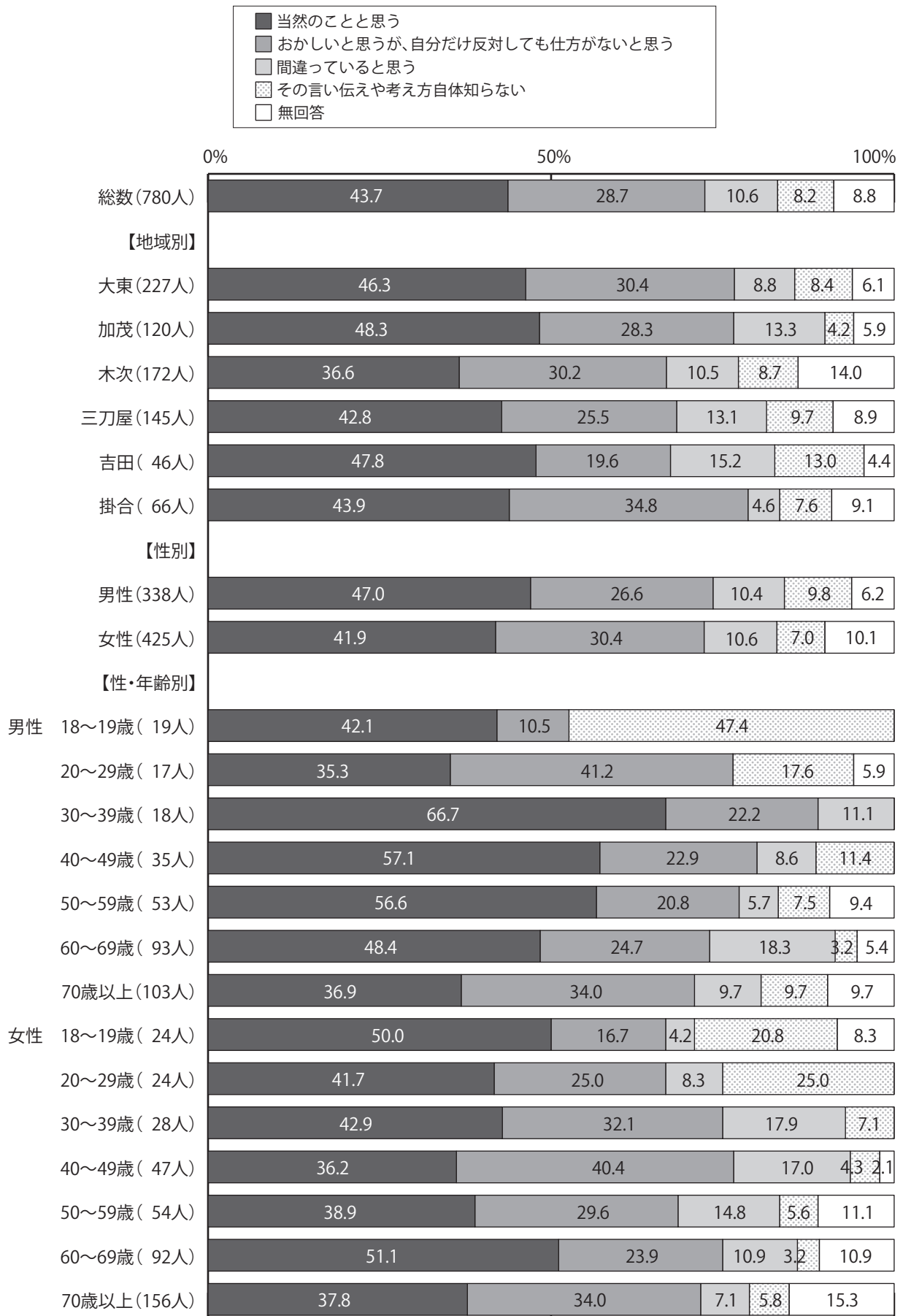
結婚式場で「〇〇家、△△家披露宴」といった掲示をする風習（経年比較）



※ 今回の調査では、新たに「その言い伝えや考え方自体を知らない」という選択肢を加えた。

※ 平成27年度の調査では、「不明」という選択肢で調査したが、今回は「無回答」と変更した。

結婚式場で「〇〇家、△△家披露宴」といった掲示をする風習（特性別）



(4) 家を建てるときに、家相や鬼門などを気にする風習

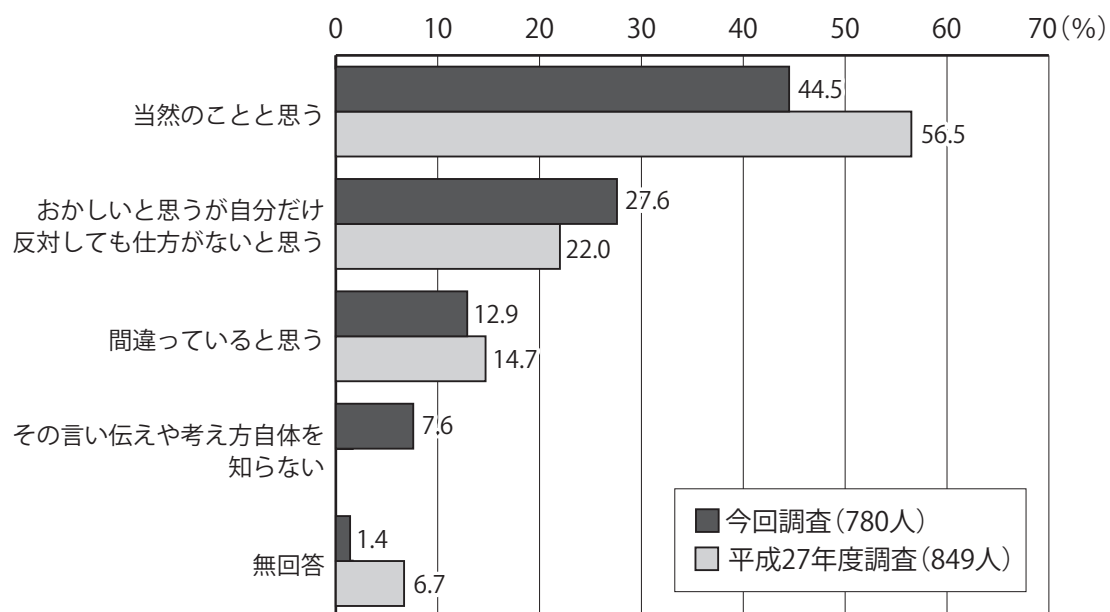
本設問は、県調査にはないため、平成27年度に市で実施した調査結果と比較した。

地域別でみると、「当然のことと思う」は、吉田町（56.5%）で最も高くなっている。

性別でみると、「当然のことと思う」は、男性（39.7%）より女性（48.5%）が高く、「おかしいと思うが、自分だけが反対しても仕方がないと思う」は、女性（8.7%）より男性（18.6%）が高くなっている。

性・年齢別でみると、「当然のことと思う」は、男性では30歳代（61.1%）、50歳代（60.4%）、女性では40歳代（61.7%）で6割を超えて高い。一方で「間違っていると思う」は、男性の40歳代（51.4%）が、最も高くなっている。

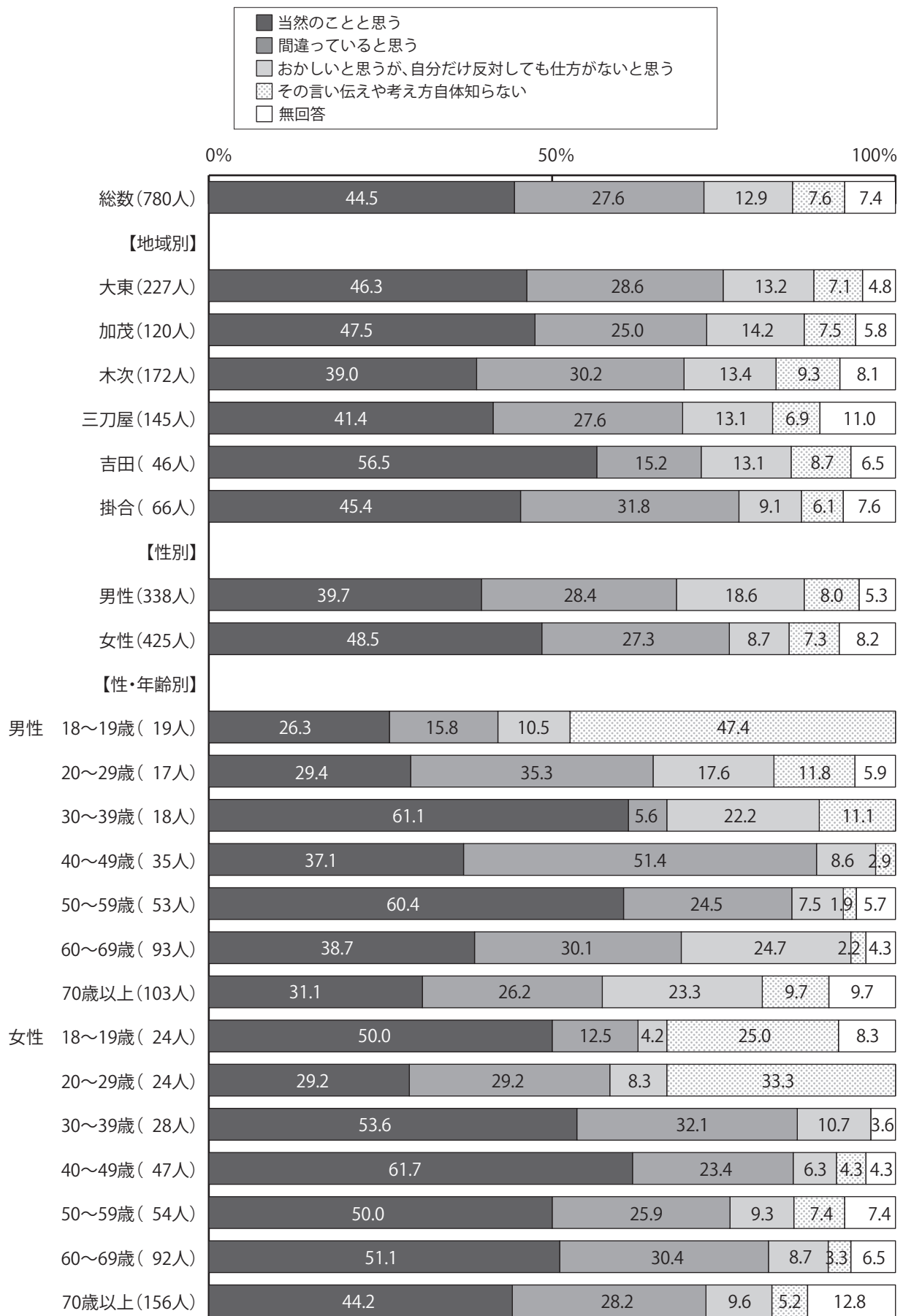
家を建てるときに、家相や鬼門などを気にする風習（経年比較）



※ 今回の調査では、新たに「その言い伝えや考え方自体を知らない」という選択肢を加えた。

※ 平成27年度の調査では、「不明」という選択肢で調査したが、今回は「無回答」と変更した。

家を建てるときに、家相や鬼門などを気にする風習（特性別）



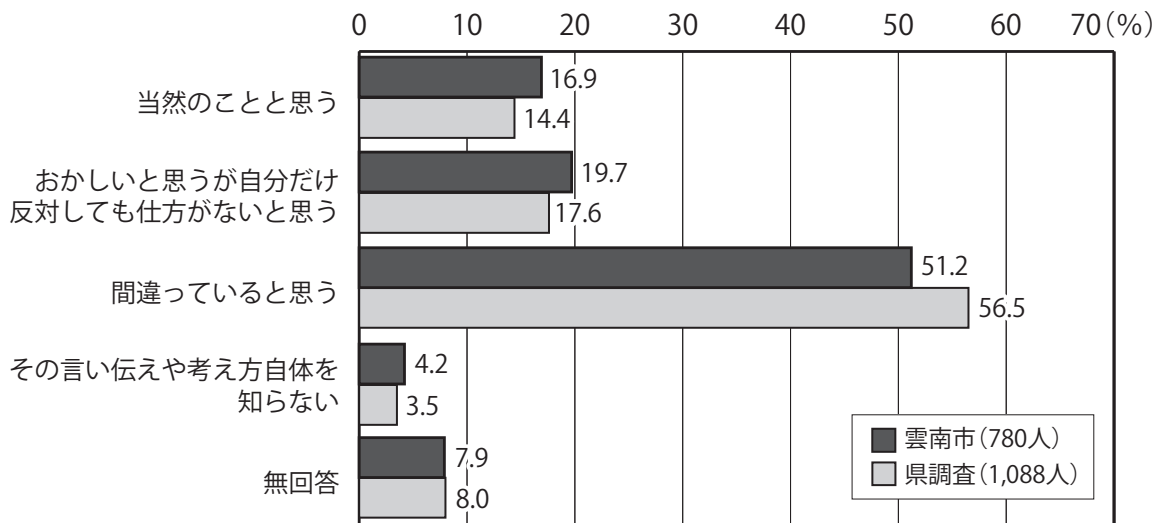
（５）結婚相手を決めるときに、相手方の身元調査をすること

「結婚相手を決めるときに、相手方の身元調査をすること」についての意見を平成28年度県調査結果と比較してみると、「当然のことと思う」、「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」という意見はいずれも市の方が高くなっている。

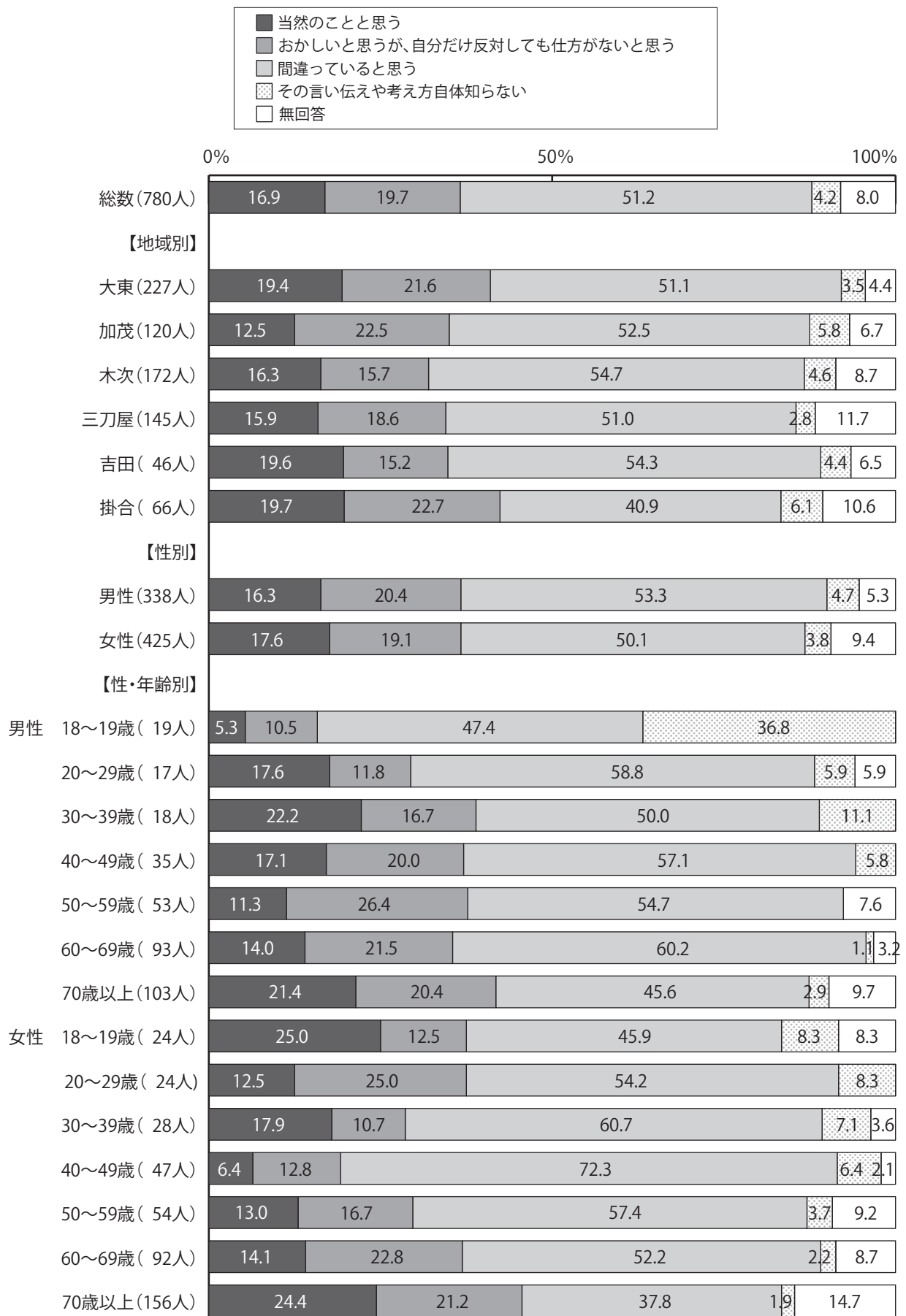
地域別でみると、「間違っていると思う」は、木次町（54.7%）で最も高くなっている。

性別では大きな差は見られないが、性・年齢別でみると、「間違っていると思う」という意見は男性が60歳代（60.2%）、女性が40歳代（72.3%）で最も高くなっている。

結婚相手を決めるときに、相手方の身元調査をすること（県との比較）



結婚相手を決めるときに、相手方の身元調査をすること（特性別）



●風習・慣習に対する意識スコア

「1. 風習・慣習に対する意識」では、古くからの風習・慣習5項目に対する意見を、これまでの調査との比較、および様々な区分別での比較をしてきた。

各項目について、属性別の傾向などはいくぶん違いがあるが、これを総合的にみるとどのような傾向があるかを把握するため、以下のような得点化を行った。

①平均スコア

『平均スコア』は、各項目に対する回答を要約的に示し、属性別などの比較を分かりやすくするために算出した得点である。具体的には、「当然のことと思う」という回答に1点、「自分だけ反対しても仕方がないと思う」に2点、「間違っていると思う」に3点の便宜的な得点を与え、合計得点を回答者数で除したもので、平均スコアが高いほど「間違っていると思う」という否定的な回答に近く、反対に平均スコアが低いほど「当然のことと思う」という肯定的な回答に近いことを示す。なお、「言い伝えや考え方自体を知らない」と回答した者、及び無回答の者は計算から除外した。項目ごとの平均スコアは、以下のとおりである。

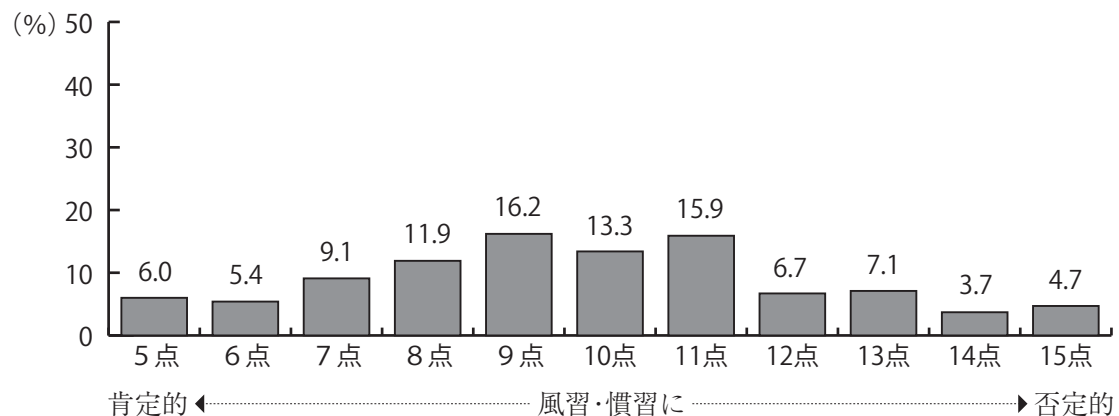
問2	平均スコア(点)
(1) 結婚式は「大安」の日でないとよくないという考え方	2.10
(2) 葬儀は「友引」の日を避けるという考え方	1.90
(3) 結婚式場で「〇〇家、△△家披露宴」といった掲示をするという考え方	1.60
(4) 家を建てるときに、家相や鬼門などを気にするという考え方	1.63
(5) 結婚相手を決めるときに、相手方の身元調査をするという考え方	2.39

②意識スコア

『意識スコア』は、各項目に対する回答を①平均スコアと同様に、便宜的な得点を与え、5項目の合計点を算出したものである。

5項目すべてに「当然のことと思う」と答えた、風習・慣習に対し最も肯定的な『5点』の層は6.0%で、一方、5項目すべてに「間違っていると思う」と答えた、風習・慣習に対し最も否定的な『15点』の層は4.7%であった。分布が集中しているのは『9点』の層で16.2%、次いで『11点』の層が15.9%となり、平均は9.70点となっている。

風習・慣習に対する意識スコア（1点毎）

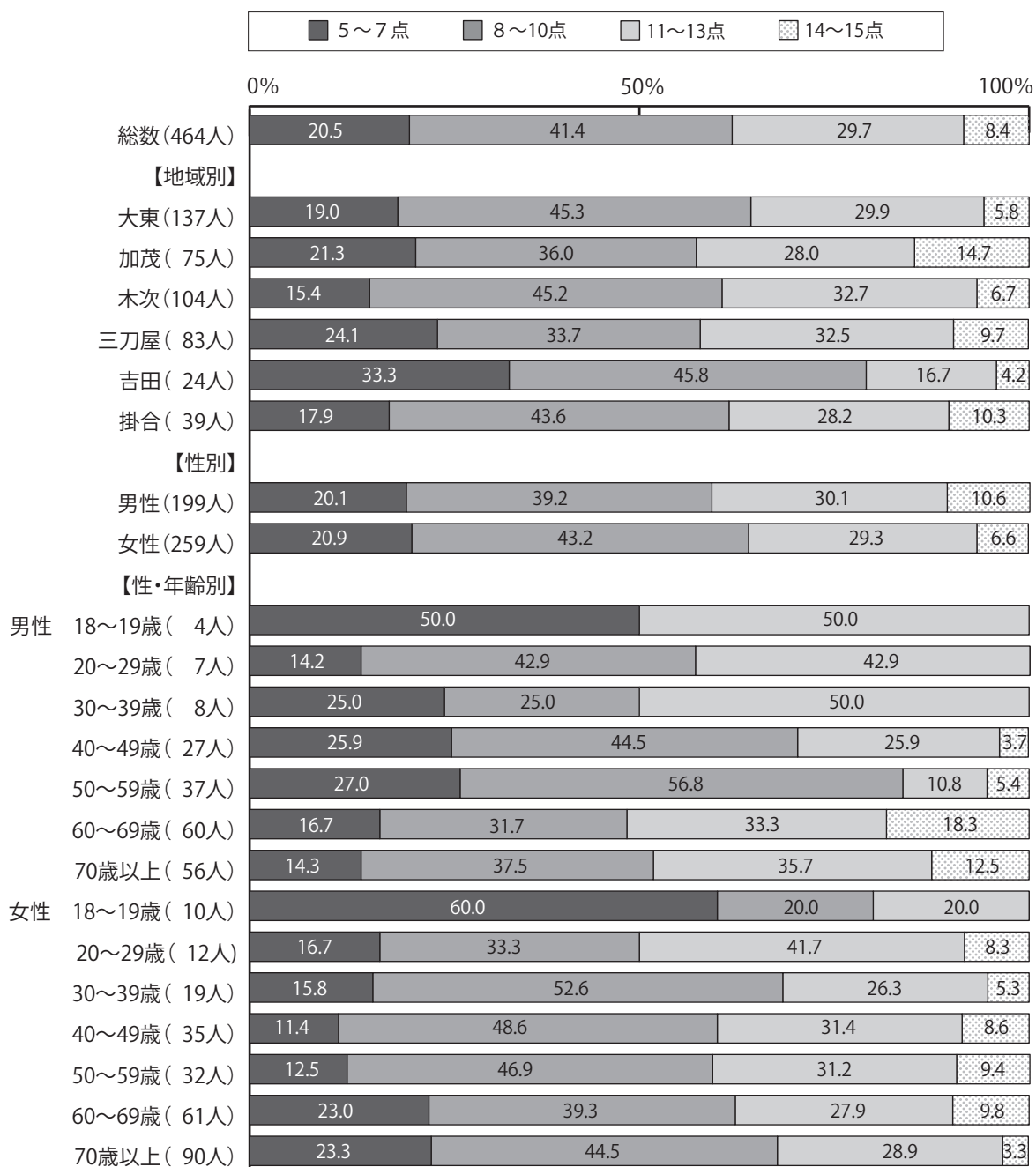


※「言い伝えや考え方自体を知らない」又は、無回答項目が1つでもある回答者は除外した。

さらに、この得点から回答者を「5～7点」（20.5%）、「8～10点」（41.4%）、「11～13点」（29.7%）、「14～15点」（8.4%）の4グループに分け、属性別などの傾向をみってみる。

風習・慣習に対して最も否定的な「14～15点」の層は、地域別でみると、加茂町（14.7%）が最も高く、性別でみると、女性（6.6%）よりも男性（10.6%）が4.0ポイント高くなっている。性・年齢別でみると、男性では60～69歳（18.3%）が最も高く、女性では60～69歳（9.8%）が高くなっている。

風習・慣習に対する意識スコア（特性別）

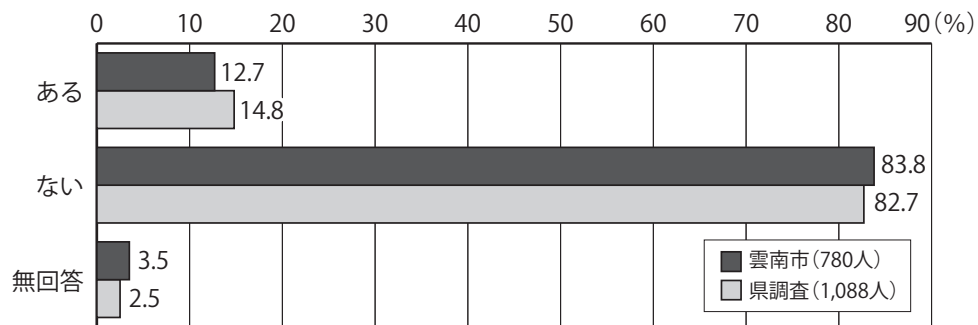


※「言い伝えや考え方自体を知らない」又は、無回答項目が1つでもある回答者は除外した。

第3章 人権の知識・認識

1. 差別や人権侵害を受けた経験

問3. 過去5年間ぐらいの間に、日常生活の中で、あなた自身が差別や人権侵害を受けたと感じたことがありますか。（○は1つ）



■差別や人権侵害を受けたと感じたことがある人は2割弱

過去5年間で、差別や人権侵害を受けたと感じたことが「ある」人は、12.7%で、「ない」人は83.8%となっている。

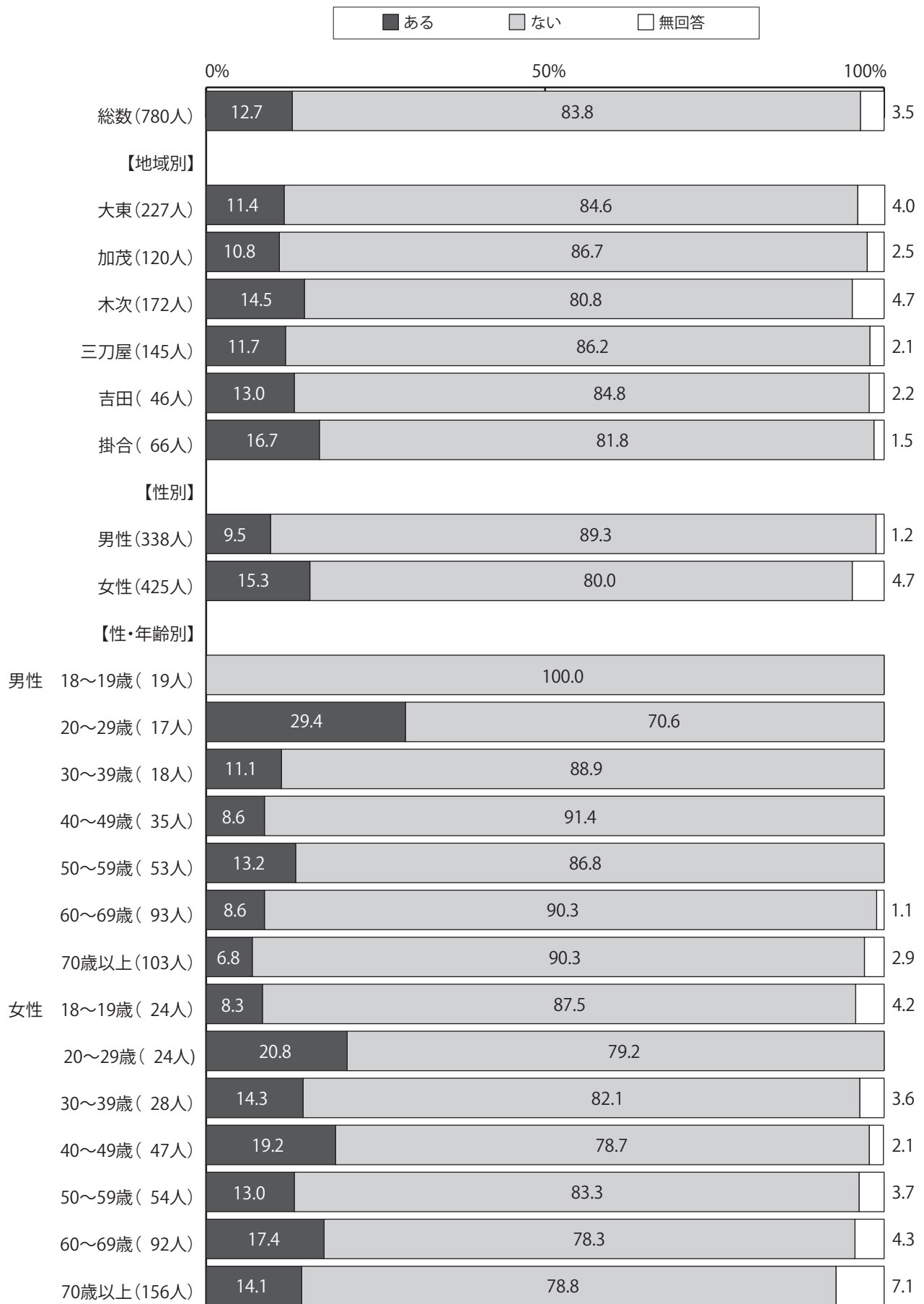
平成28年度県調査結果と比較すると、雲南市の方が「ある」人の割合が2.1ポイント少ない。

地域別でみると、「ある」人の割合は掛合町（16.7%）が最も高くなっている。

性別でみると、「ある」人の割合は女性（15.3%）が男性（9.5%）よりも高くなっている。

性・年齢別でみると、「ある」人の割合は男性の20～29歳（29.4%）が最も高くなっている。

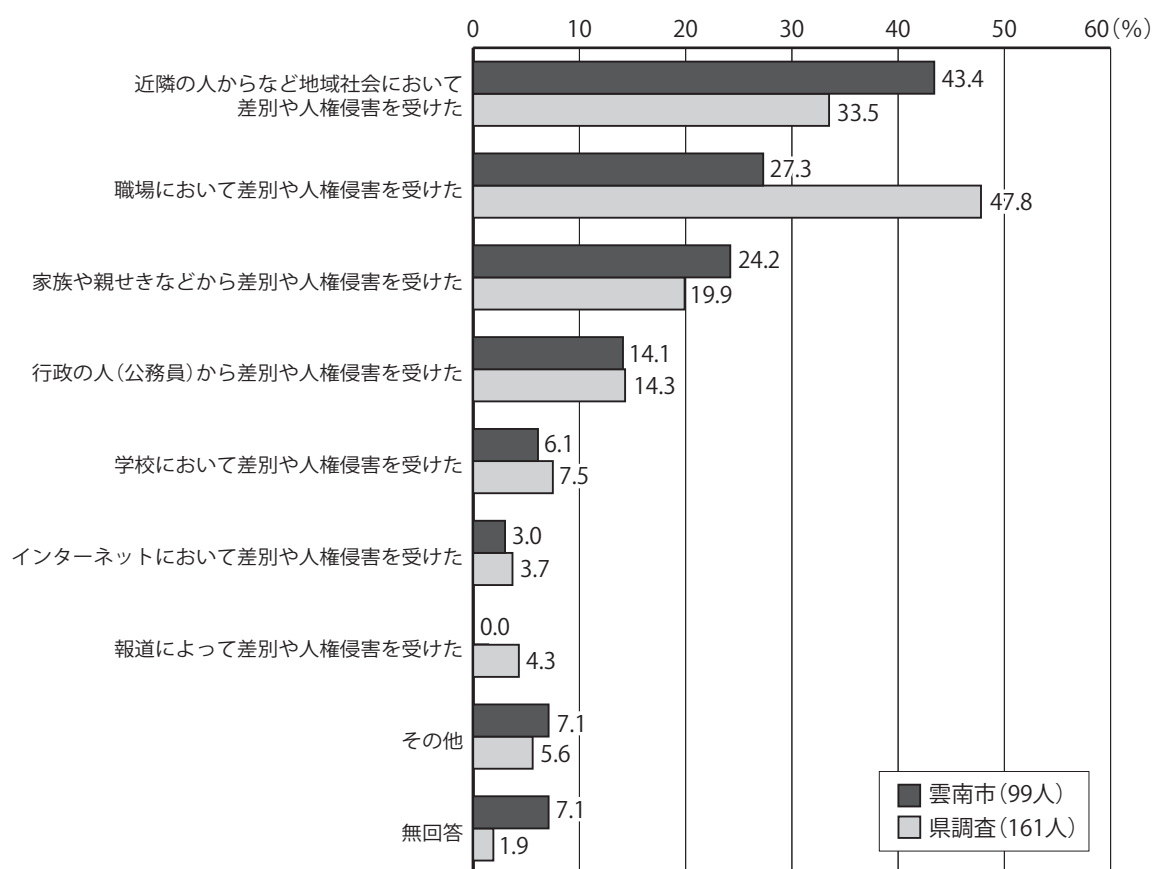
差別や人権侵害を受けた経験（特性別）



2. 差別や人権侵害を受けた相手

問4. 問3で「ある」と回答された方におたずねします。

それは、誰から（どこで）受けましたか。（〇はいくつでも）



■「近隣の人からなど地域社会において差別や人権侵害を受けた」が4割強

今までに、差別や人権侵害を受けたことが「ある」と回答した人に受けた相手（場所）を聞いたところ、「近隣の人からなど地域社会において差別や人権侵害を受けた」が43.4%と最も高く、次いで「職場において差別や人権侵害を受けた」が27.3%、「家族や親せきなどから差別や人権侵害を受けた」が24.2%となっている。

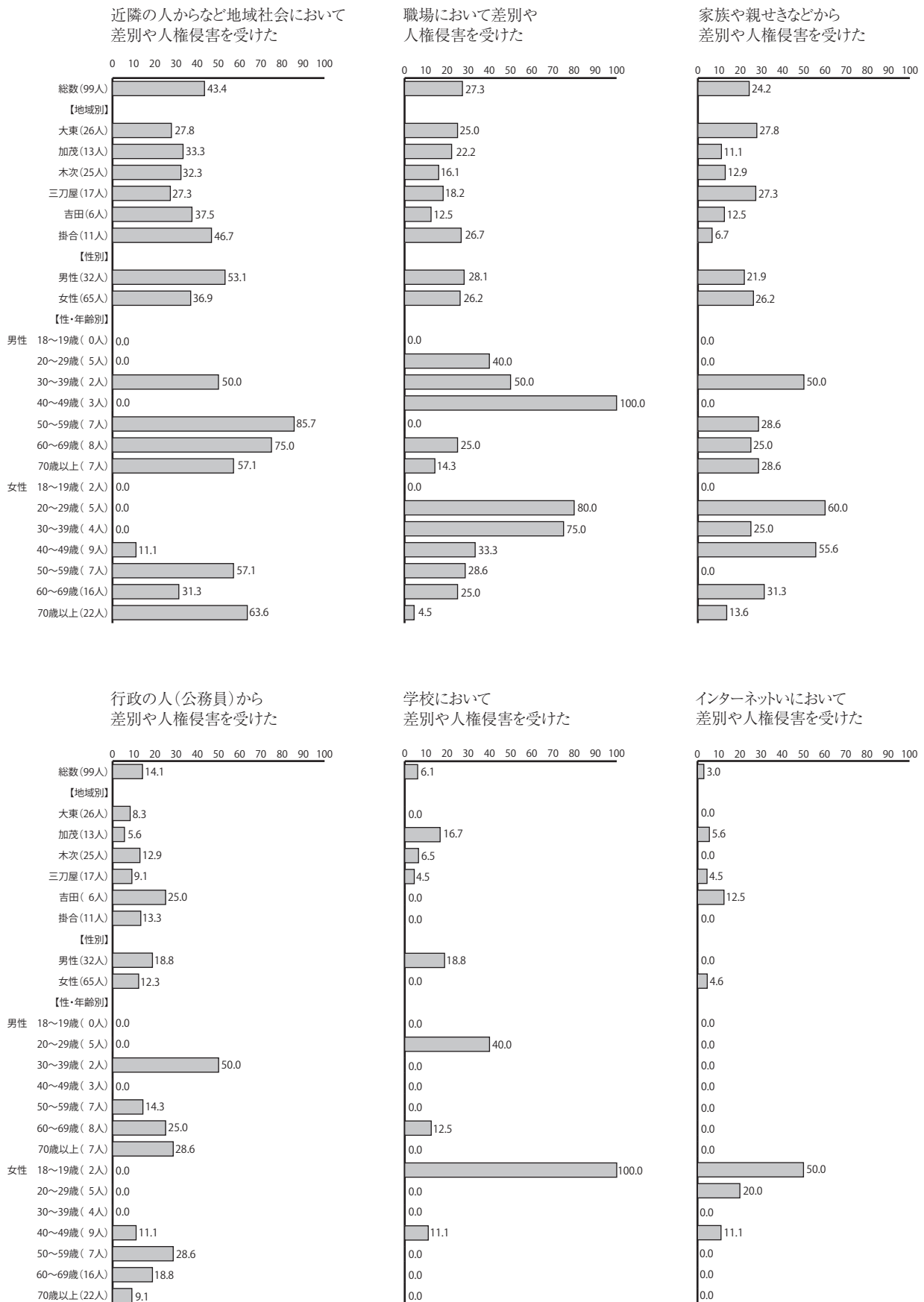
地域別でみると、「近隣の人からなど地域社会において差別や人権侵害を受けた」は、掛合町（46.7%）が最も高くなっている。

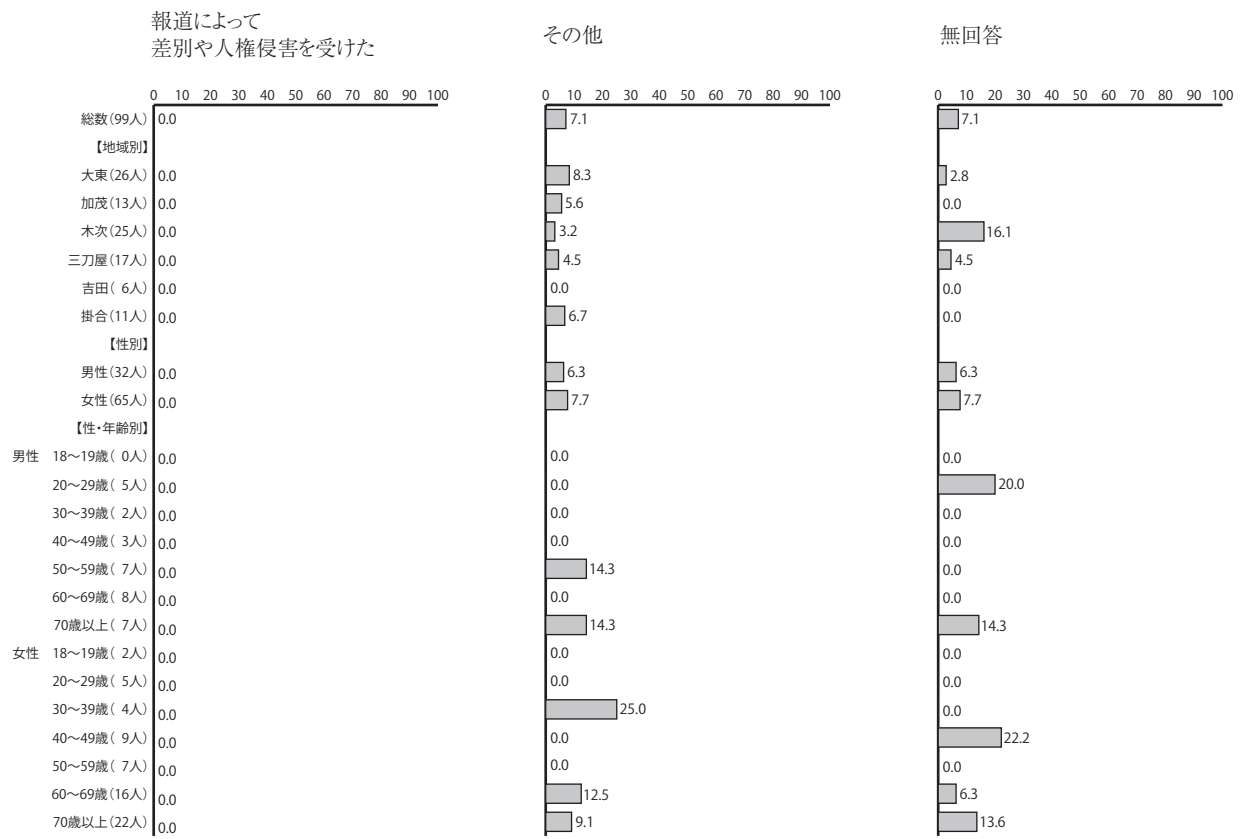
性別でみると、「近隣の人からなど地域社会において差別や人権侵害を受けた」は男性（53.1%）が女性（36.9%）よりも高くなっている。

性・年齢別でみると、「近隣の人からなど地域社会において差別や人権侵害を受けた」は男性では50歳代（85.7%）、女性では70歳代（63.6%）が最も高くなっている。

平成28年度県調査結果を比較すると、市は「近隣の人からなど地域社会において差別や人権侵害を受けた」、「家族や親せきなどから差別や人権侵害を受けた」が高く、身近なところで差別や人権侵害を受けているといえる。

差別や人権侵害を受けた相手（特性別）

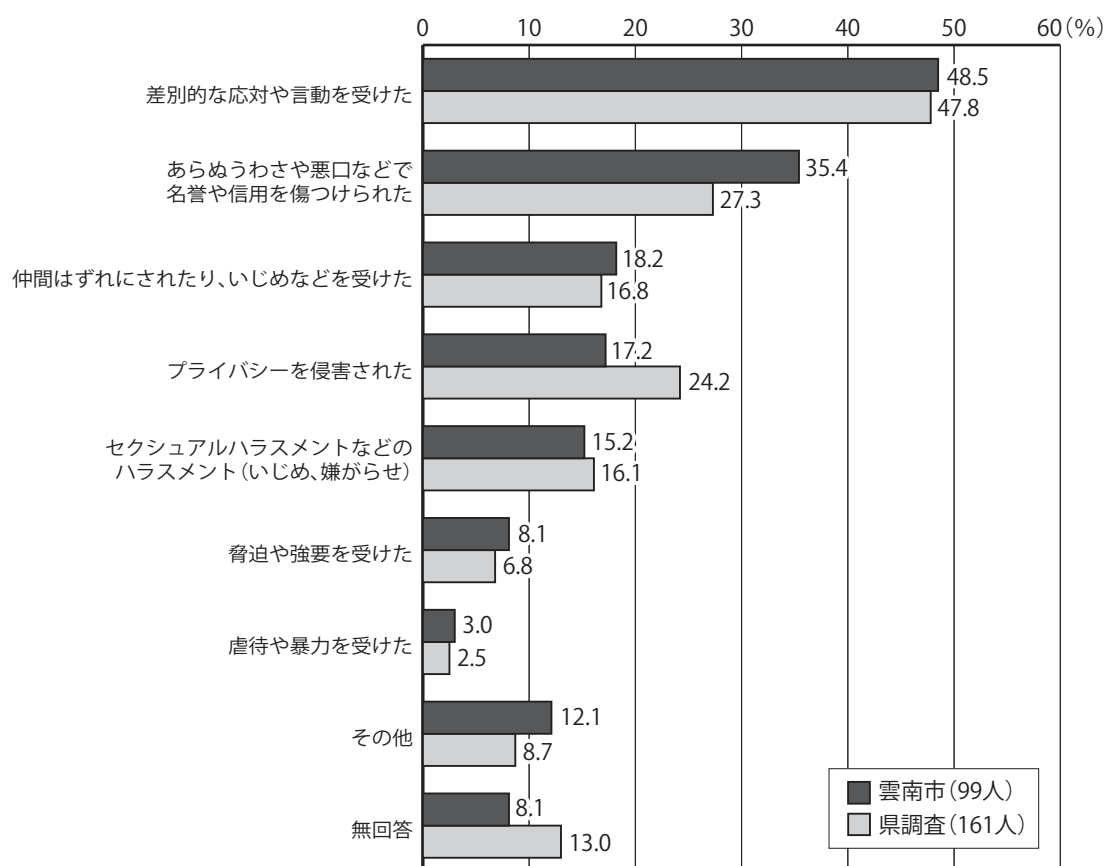




3. 受けた差別や人権侵害の内容

問5. 問3で「ある」と回答された方におたずねします。

それは、どのような差別や人権侵害を受けましたか。(〇はいくつでも)



■「差別的な対応や言動を受けた」が5割弱

今までに、差別や人権侵害を受けたことが「ある」と回答した人にその内容を聞いたところ、「差別的な対応や言動を受けた」が48.5%と最も高く、次いで「あらぬうわさや悪口などで名誉や信用を傷つけられた」が35.4%、「仲間はずれにされたり、いじめなどを受けた」が18.2%となっている。

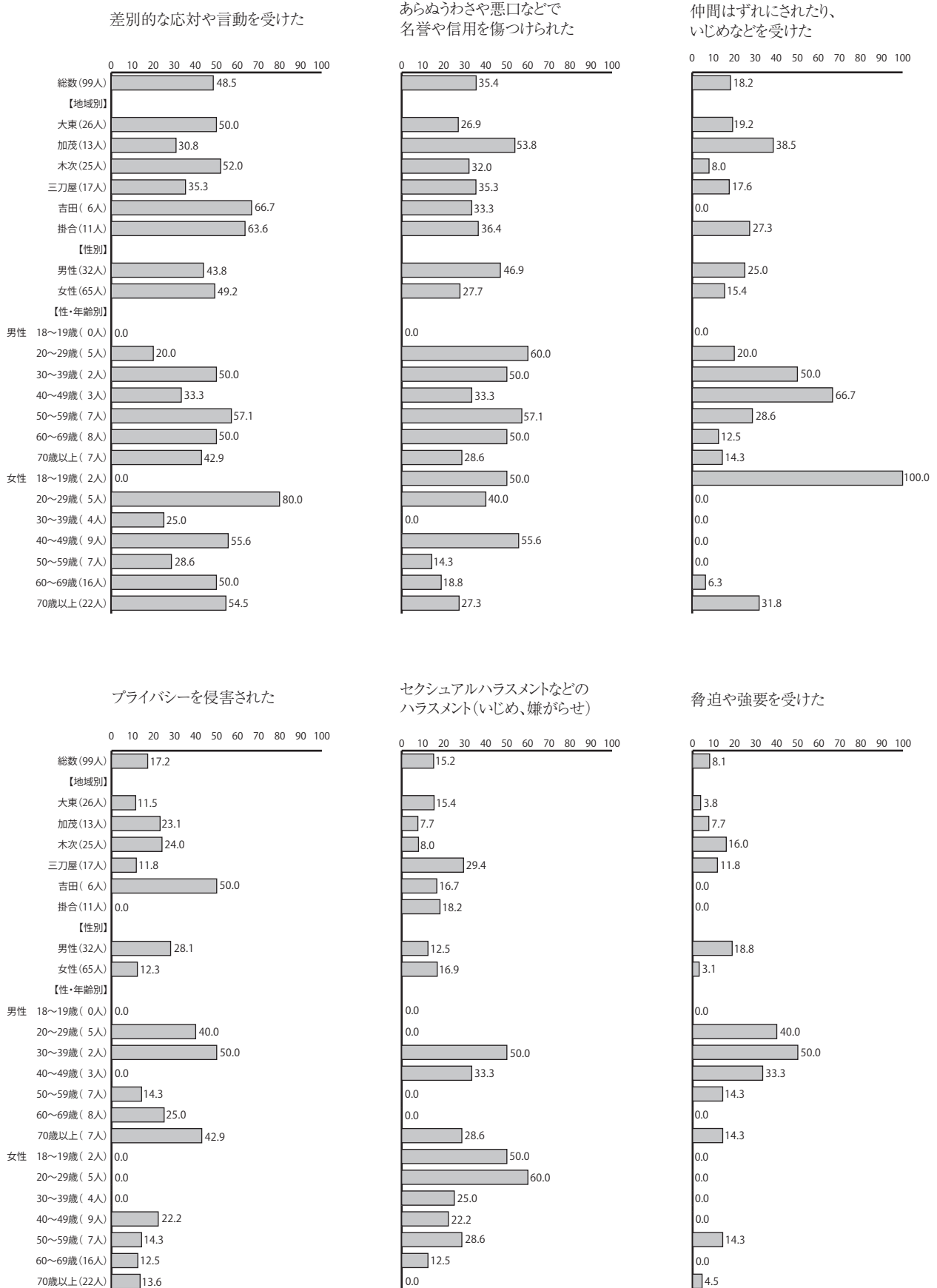
地域別でみると、「差別的な対応や言動を受けた」は吉田町(66.7%)が最も高く、次いで掛合町(63.6%)で高くなっている。

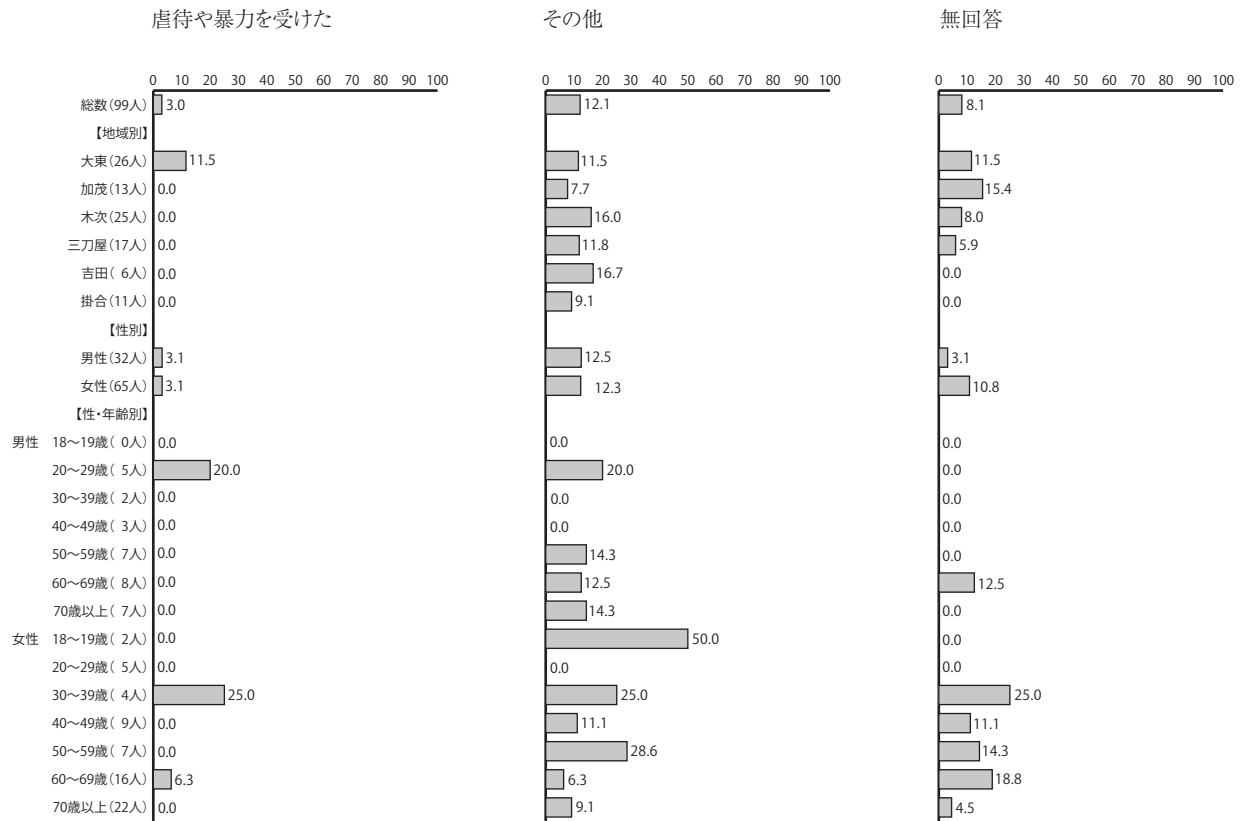
性別でみると、上位3項目のうち「差別的な対応や言動を受けた」を除いて、男性の方が高くなっている。

性・年齢別でみると、「差別的な対応や言動を受けた」は男性では30歳代、50歳代、60歳代で、50%以上と高く、女性では20歳代(80.0%)が最も高く、40歳代、60歳代、70歳代で50%以上と高くなっている。

平成28年度県調査結果と比較すると、上位3つの回答は、いずれも市が高くなっている。

受けた差別や人権侵害の内容（特性別）

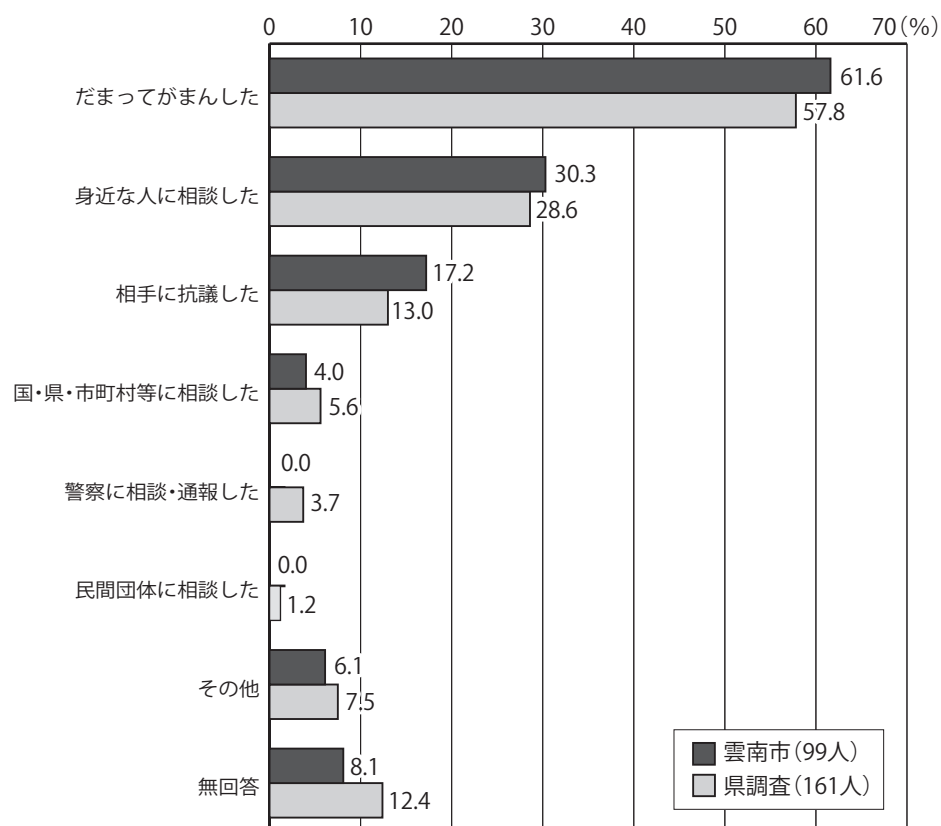




4. 差別や人権侵害を受けたときの対応

問6. 問3で「ある」と回答された方におたずねします。

そのとき、あなたはどのような対応をしましたか。（〇はいくつでも）



■差別や人権侵害を受けたとき「だまってがまんした」が約6割

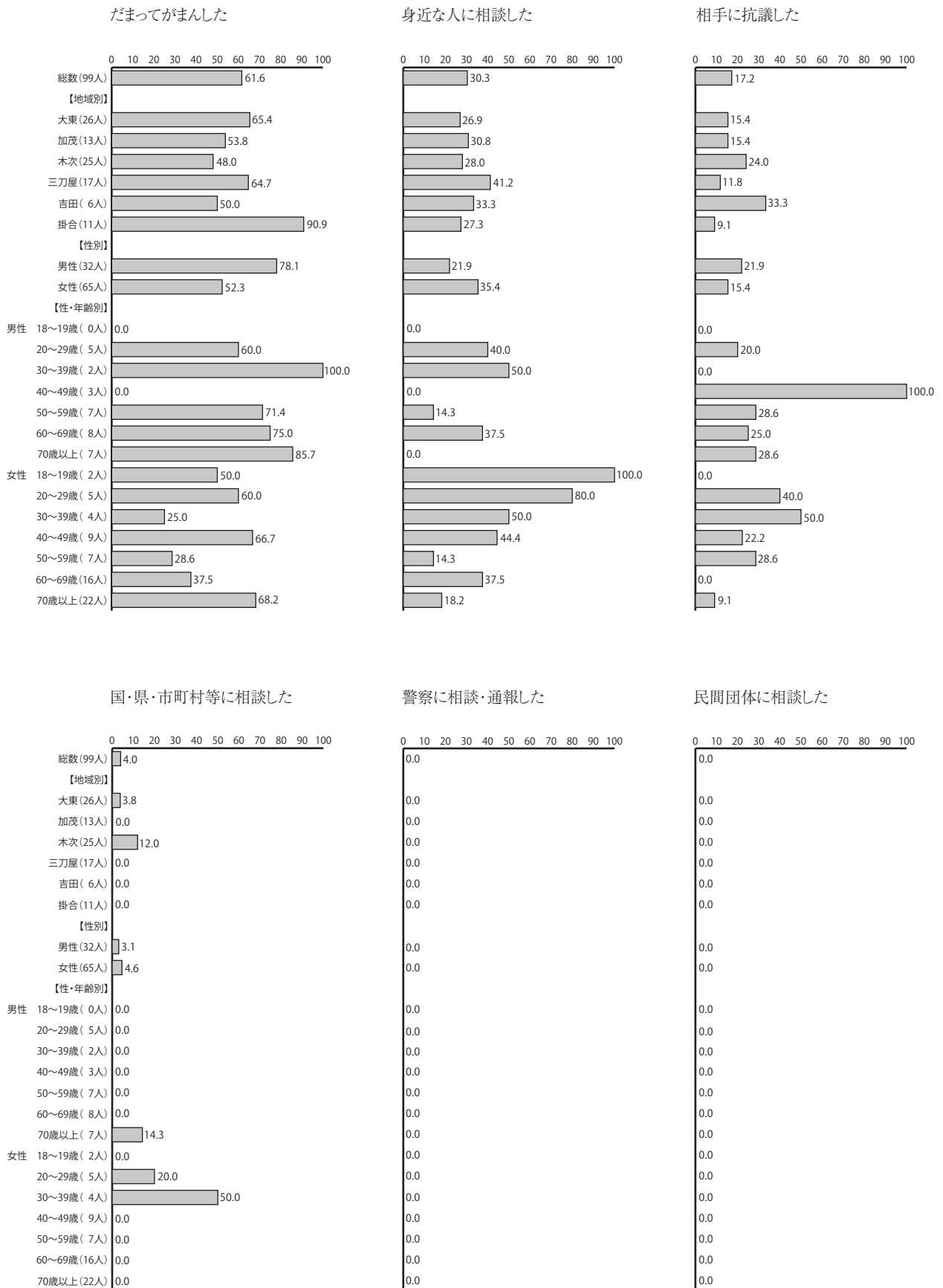
今までに、差別や人権侵害を受けたことが「ある」と回答した人にそのときの自身の行動を聞いたところ、「だまってがまんした」が61.6%と最も高く、次いで「身近な人に相談した」が30.3%、「相手に抗議した」が17.2%となっている。

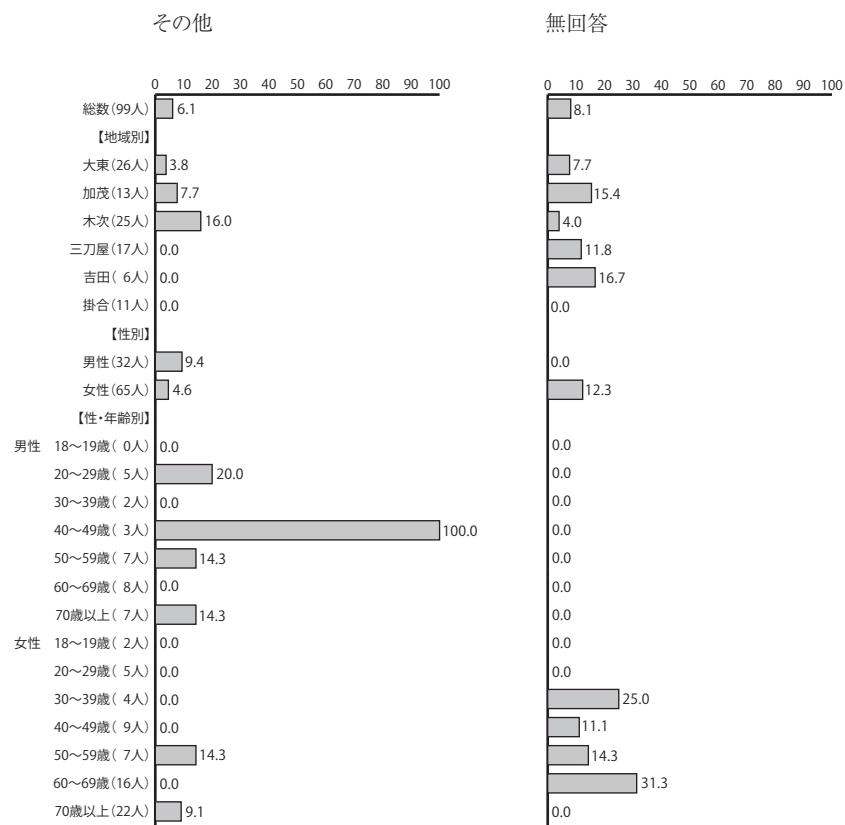
平成28年度県調査結果と比較すると、上位3つは、いずれも市の方が高い割合を示した。

性別でみると、「だまってがまんした」は男性のほうがより高く、「身近な人に相談した」は女性（35.4%）が男性（21.9%）よりも高く、一方「相手に抗議した」では男性（21.9%）が女性（15.4%）よりも高くなっている。

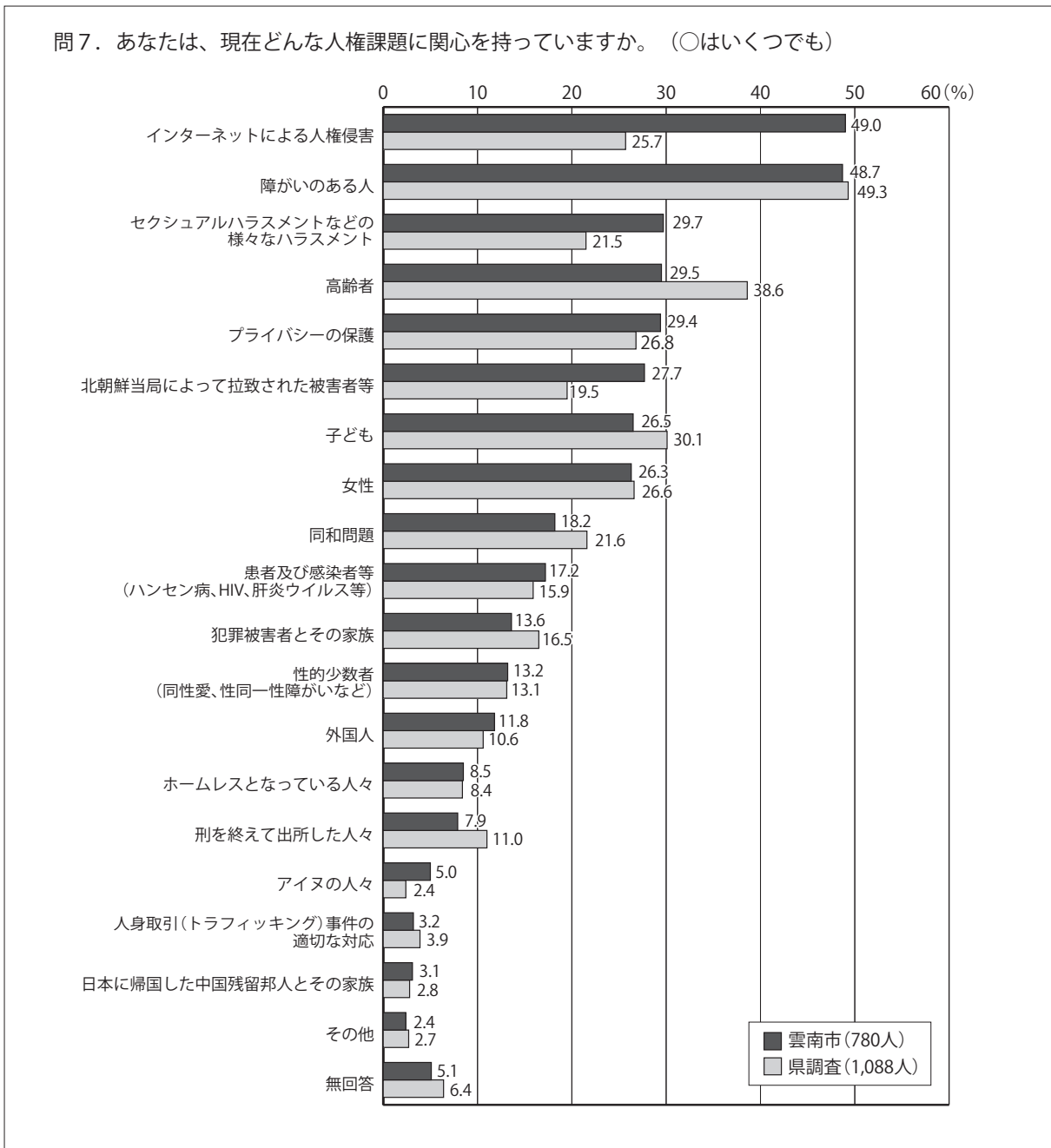
性・年齢別でみると、「だまってがまんした」は男性では30歳代（100%）が最も高く、女性では70歳以上（68.2%）が最も高くなっている。

差別や人権侵害を受けたときの対応（特性別）





5. 人権課題への関心



■関心がある人権課題は「インターネットによる人権侵害」「障がいのある人」が5割弱

現在、どんな人権課題に関心があるのかを聞いたところ、「インターネットによる人権侵害」が49.0%で最も高く、次いで「障がいのある人」が48.7%、「セクシュアルハラスメントなど」が29.7%となった。

地域別でみると、「インターネットによる人権侵害」は、大東町と三刀屋町と吉田町の3町で5割を超えている。

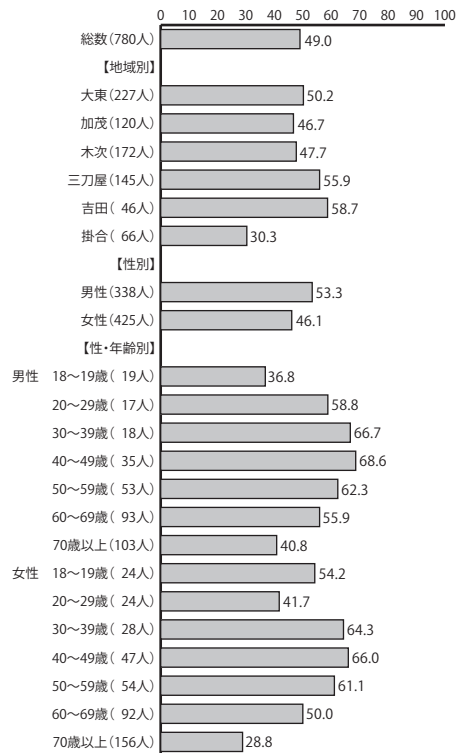
性別でみると、上位3項目（インターネット、障がいのある人、セクシュアルハラスメントなど）は、いずれも女性より男性が高くなっている。

性・年齢別でみると、「インターネットによる人権侵害」は男女とも40歳代が6割超と最も高くなっている。また、「障がいのある人」については、男性20歳代（70.6%）が7割を超え、最も高くなっている。

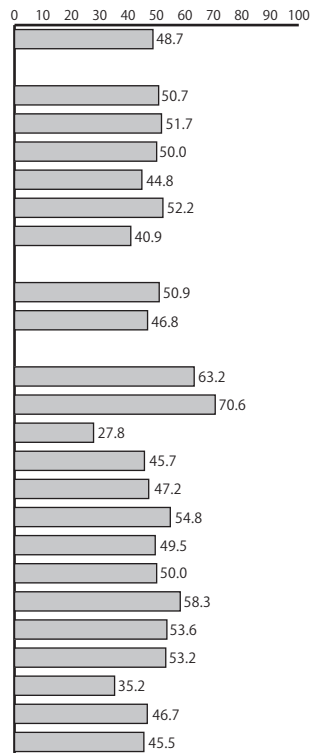
平成 28 年度県調査と比較すると、最も差があったのは「インターネットによる人権侵害」で、本調査（49.0%）が県調査（25.7%）よりも 23.3 ポイント高くなっている。一方、「高齢者」は県調査（38.6%）が本調査（29.5%）よりも 9.1 ポイント高い結果となっている。

人権課題への関心（特性別）

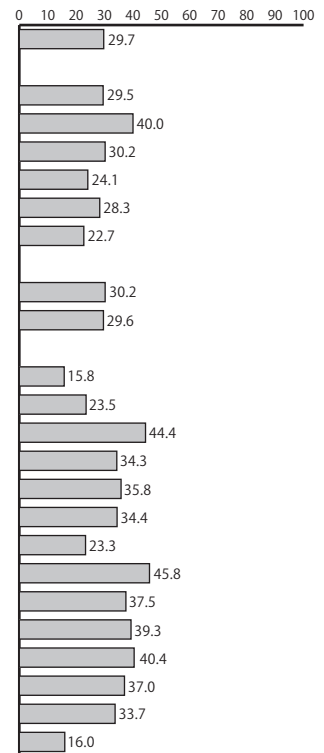
インターネットによる人権侵害



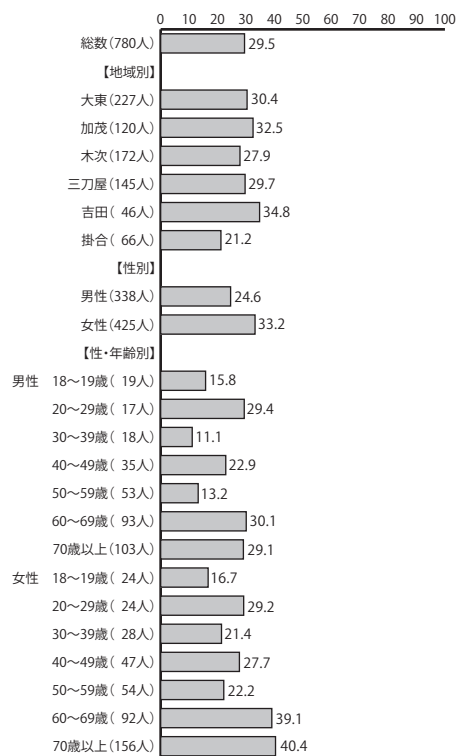
障がいのある人



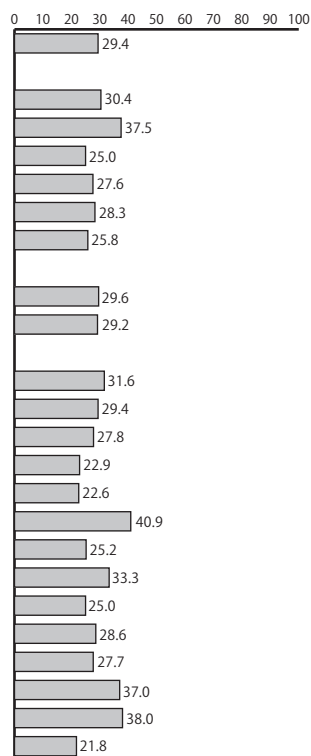
セクシュアルハラスメントなどの
様々なハラスメント



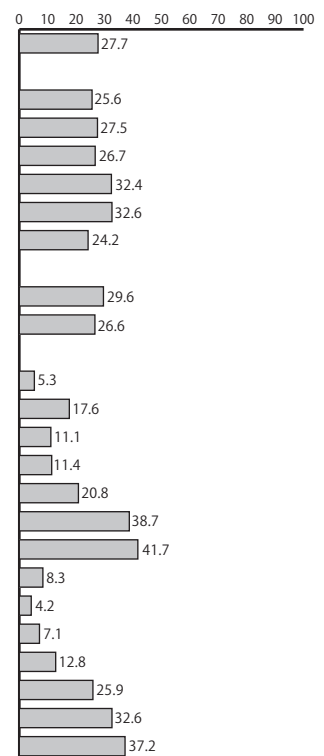
高齢者

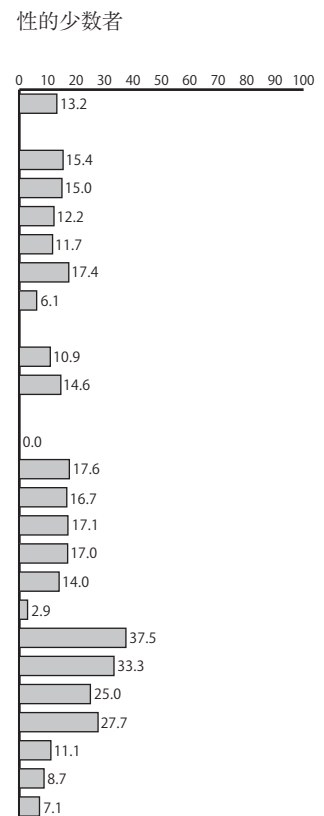
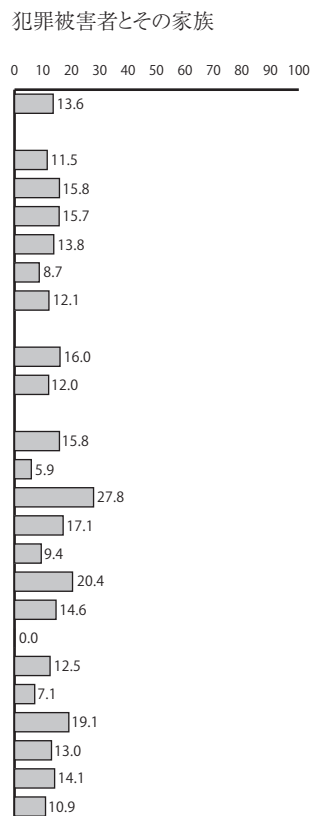
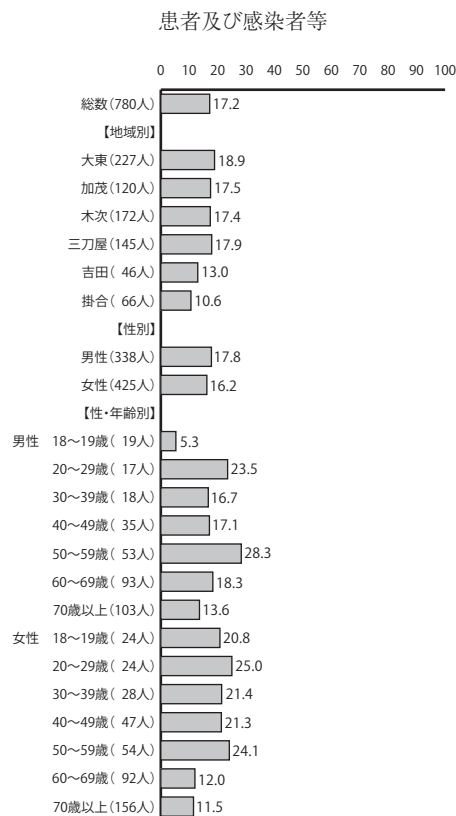
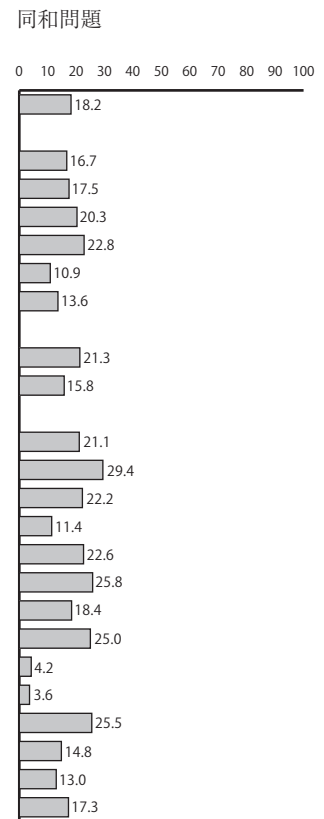
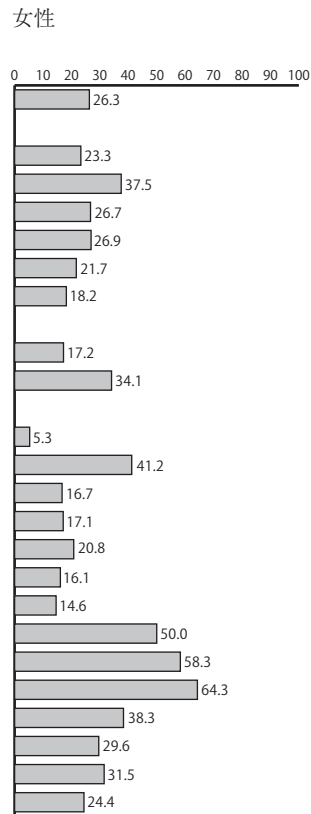
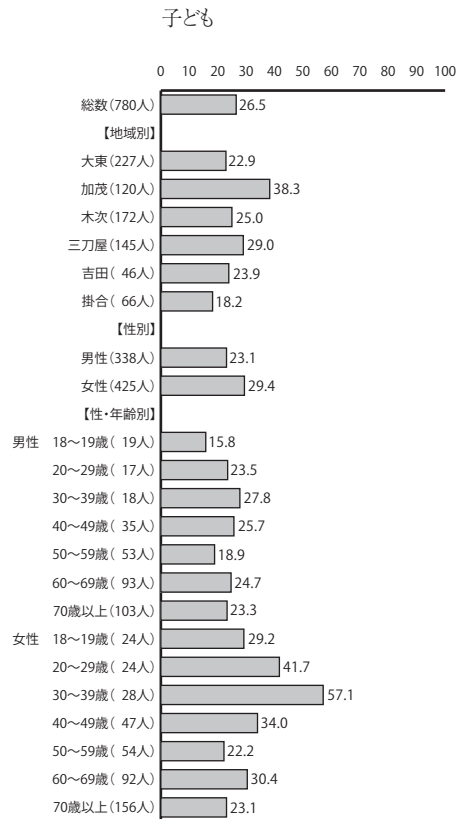


プライバシーの保護

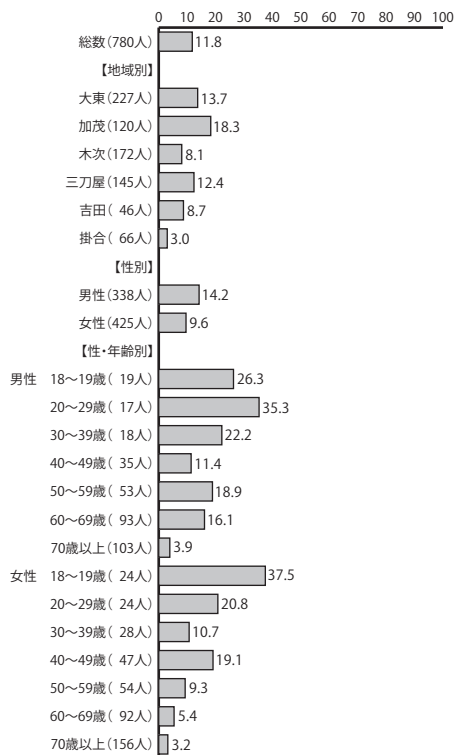


朝鮮当局によって
拉致された被害者等

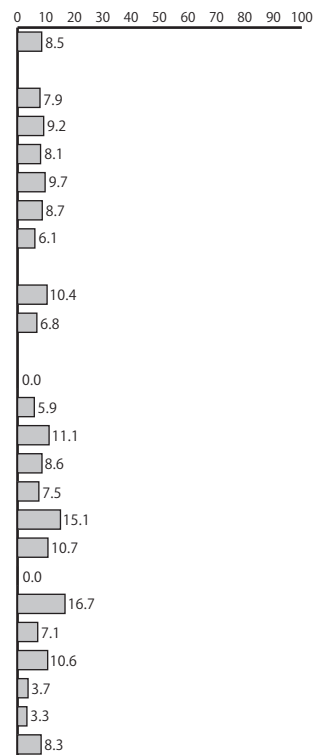




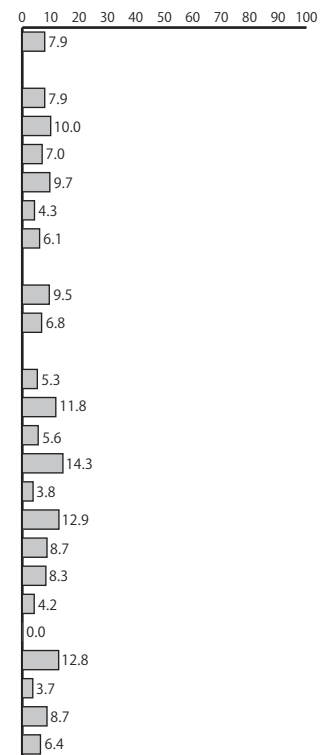
外国人



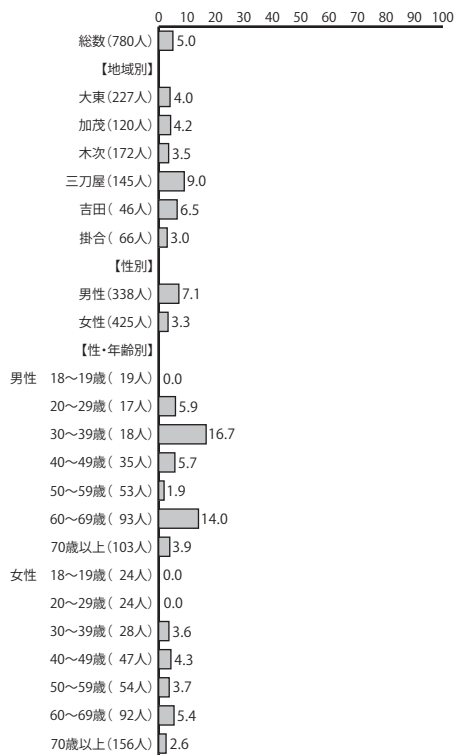
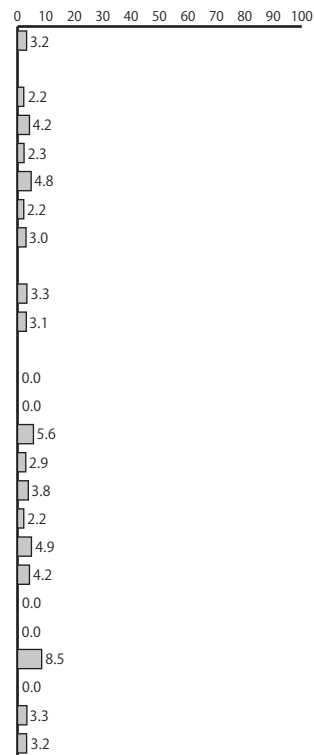
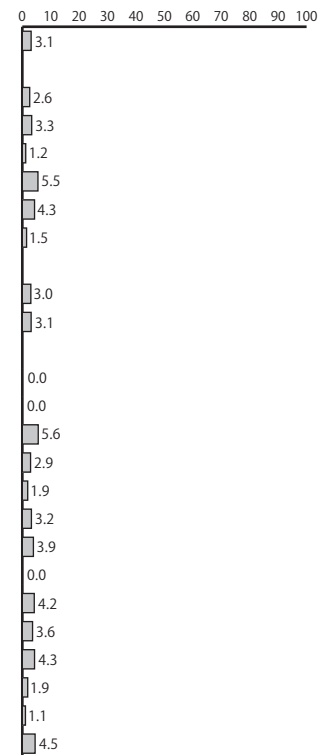
ホームレスとなっている人々

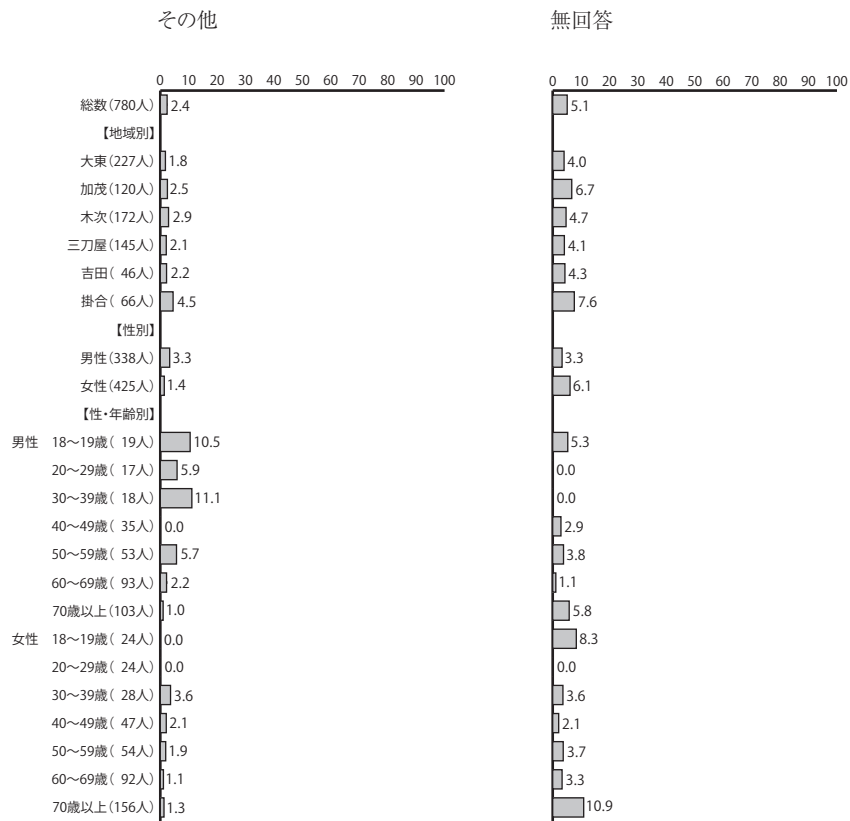


刑を終えて出所した人等



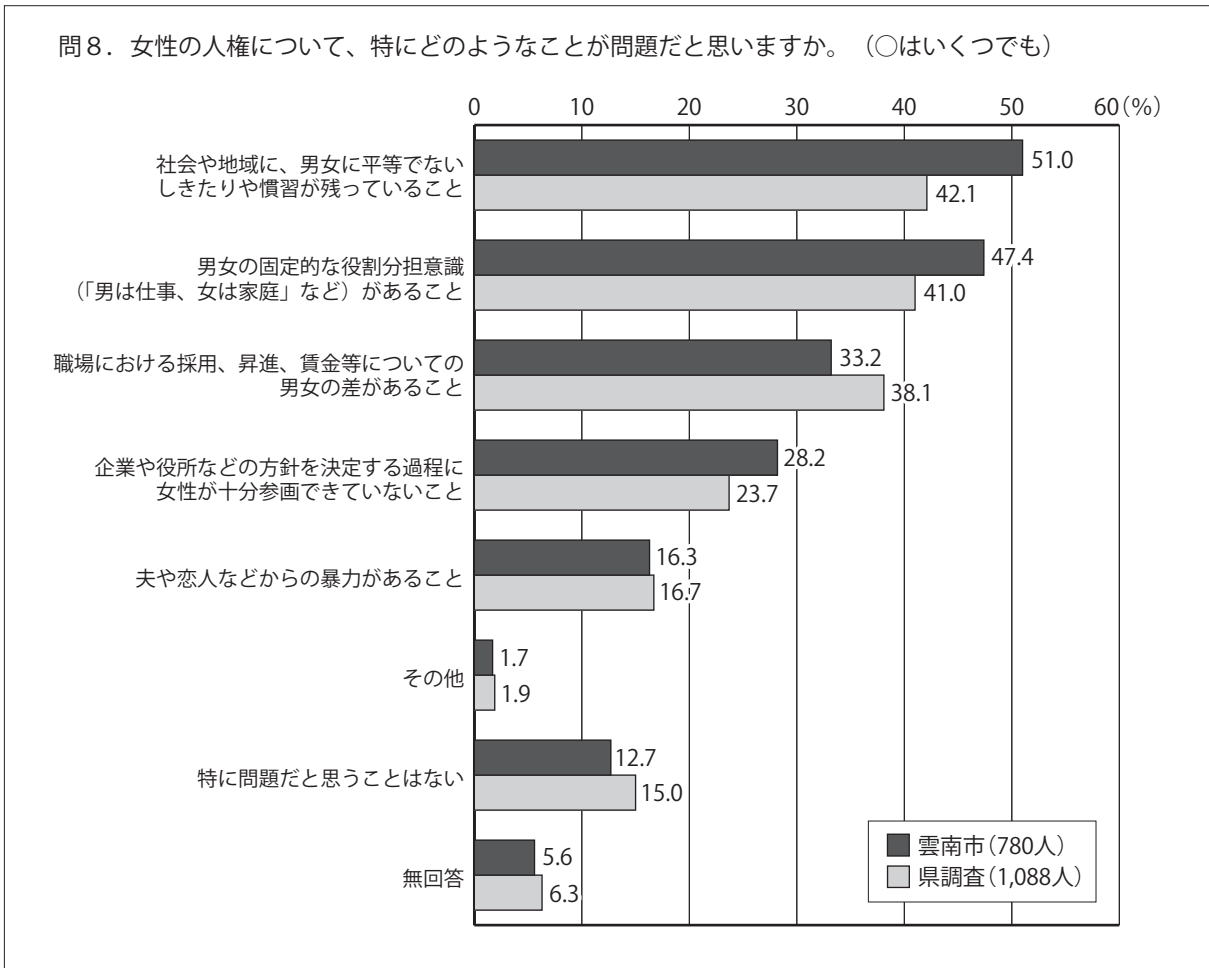
アイヌの人々

人身取引(トラフィッキング)
事件の適切な対応日本に帰国した
中国残留邦人とその家族



第4章 女性の人権について

1. 女性に関する人権上の問題



■「社会や地域に、男女に平等でないしきたりや慣習が残っていること」が5割超、「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）があること」が4割超

女性の人権について、特にどのようなことが問題だと思いか聞いたところ、「社会や地域に、男女に平等でないしきたりや慣習が残っていること」が51.0%と最も高く、次いで「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）があること」が47.4%、「職場における採用、昇進、賃金等についての男女の差があること」が33.2%となっている。

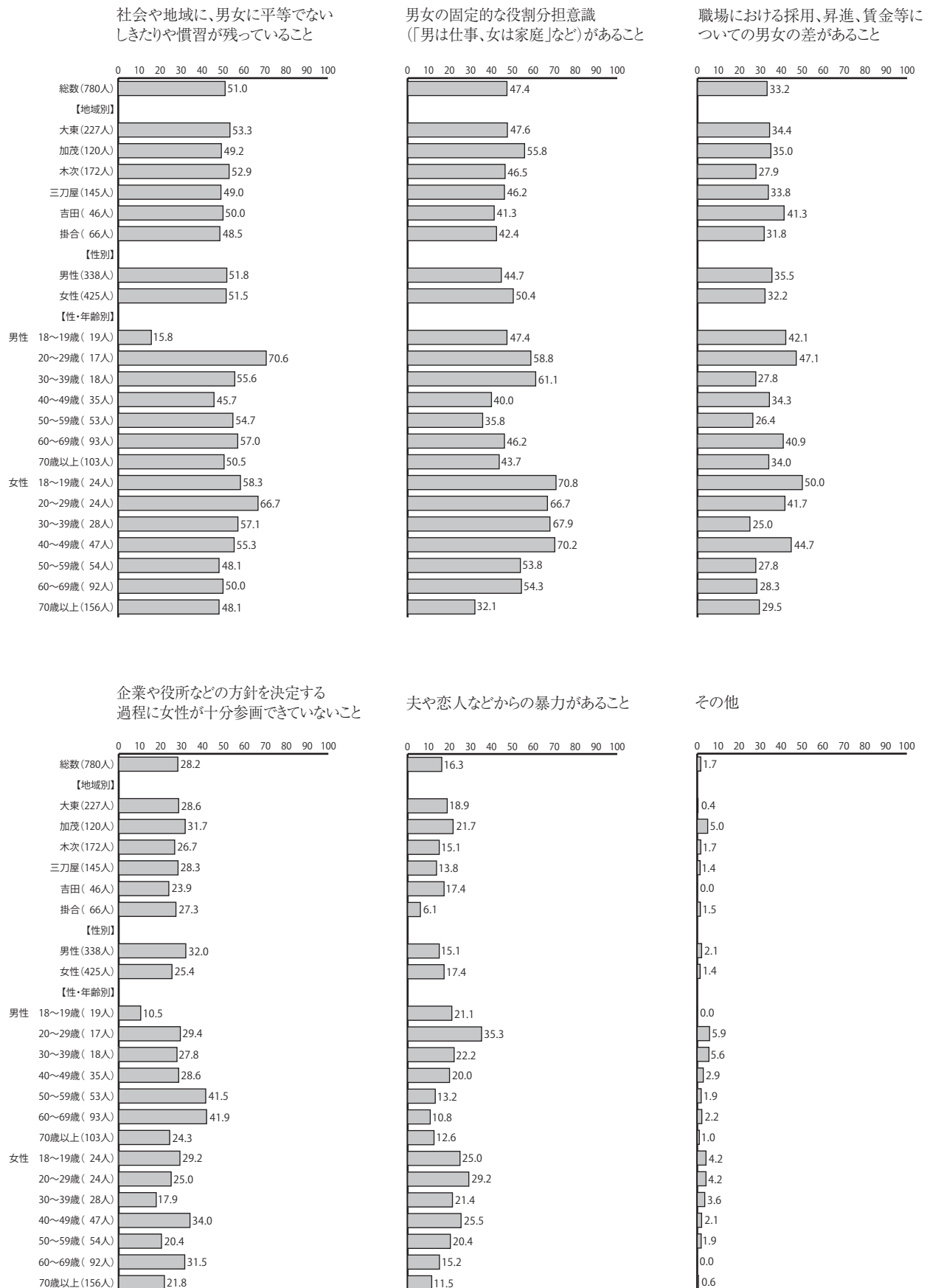
平成28年度県調査結果と比較すると、上位2つについて、県よりも市の方が高くなっている。

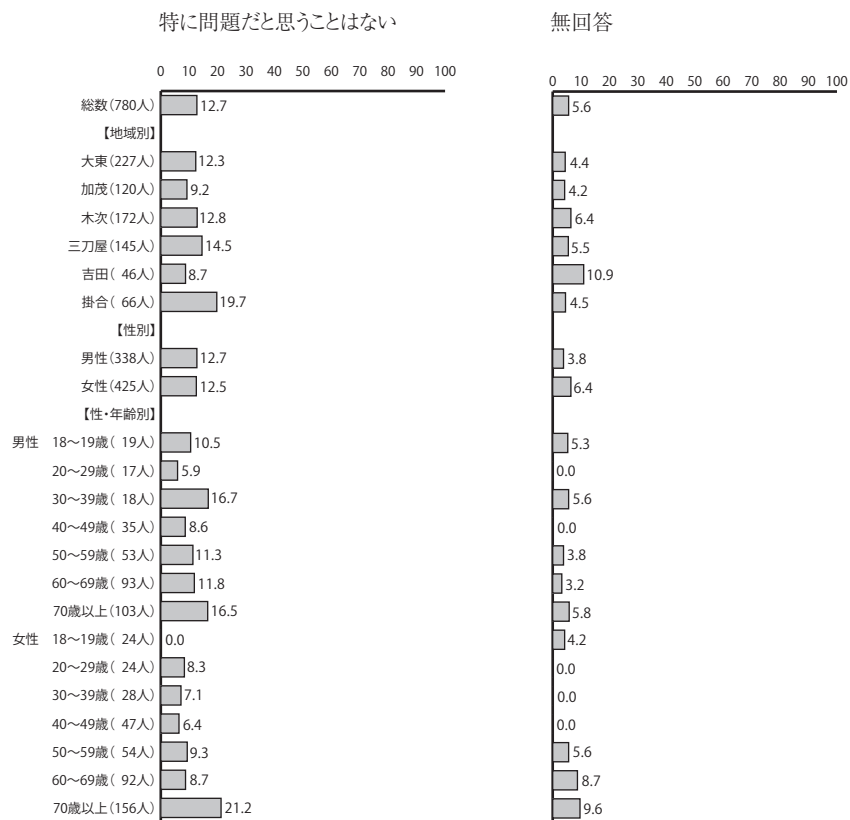
地域別でみると、加茂町以外では上位3項目の順番は全体と同じであった。「社会や地域に、男女に平等でないしきたりや慣習が残っていること」は大東町（53.3%）で高く、5割を超えている。

性別でみると、「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）があること」は、男性（44.7%）に比べ女性（50.4%）が高くなっている。

性・年齢別でみると、「社会や地域に、男女に平等でないしきたりや慣習が残っていること」は男性の20歳代（70.6%）が最も高く、7割を超えている。

女性に関する人権上の問題（特性別）

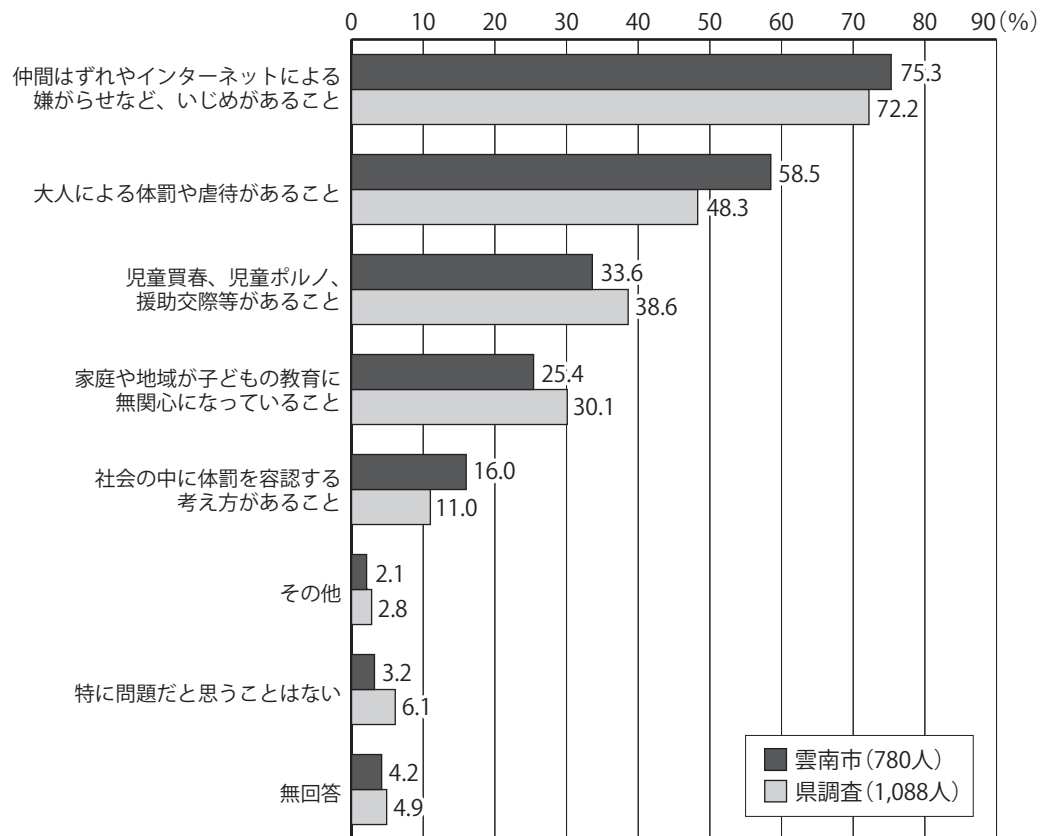




第5章 子どもの人権について

1. 子どもに関する人権上の問題

問9. 子どもの人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。（○はいくつでも）



■「仲間はずれやインターネットによる嫌がらせなど、いじめがあること」が7割超

子どもの人権について、特にどのようなことが問題だと思うかを聞いたところ、「仲間はずれやインターネットによる嫌がらせなど、いじめがあること」が75.3%と最も高く、次いで「大人による体罰や虐待があること」が58.5%、「児童買春、児童ポルノ、援助交際等があること」が33.6%となっている。

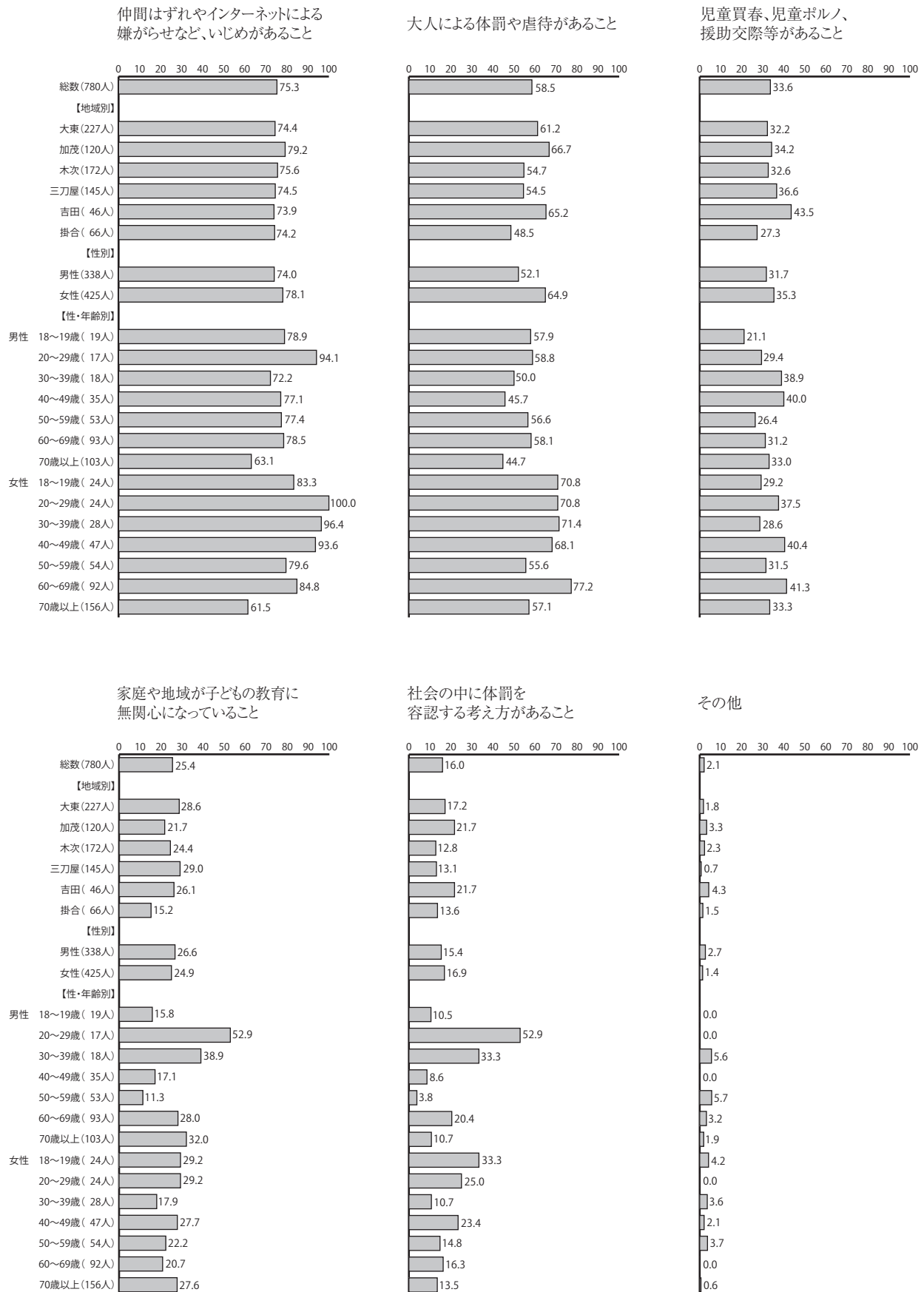
地域別でみると、いずれの地区でも上位3項目は全体と同じであった。「仲間はずれやインターネットによる嫌がらせなど、いじめがあること」は加茂町（79.2%）が最も高くなっている。

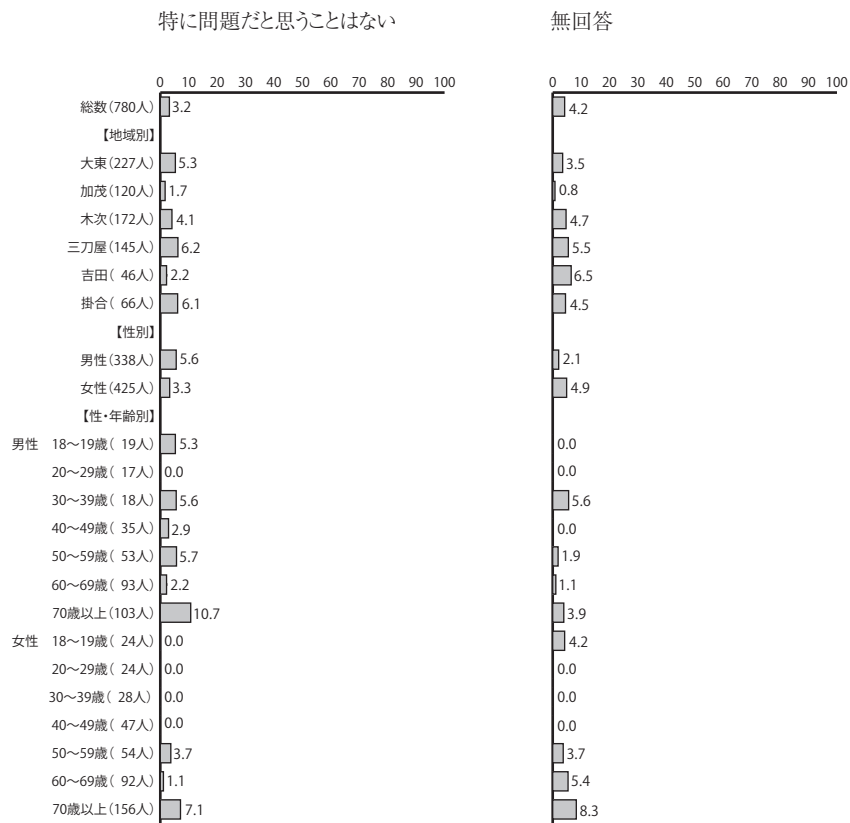
性別でみると、上位3項目はいずれも男性より女性が高くなっている。

性・年齢別では、「仲間はずれやインターネットによる嫌がらせなど、いじめがあること」が男性20歳代（94.1%）、女性20歳代（100%）、30歳代（96.4%）、40歳代（93.6%）で9割を超えている。

平成28年度県調査結果と比較すると、上位2つの回答は、市の方が高くなっている。

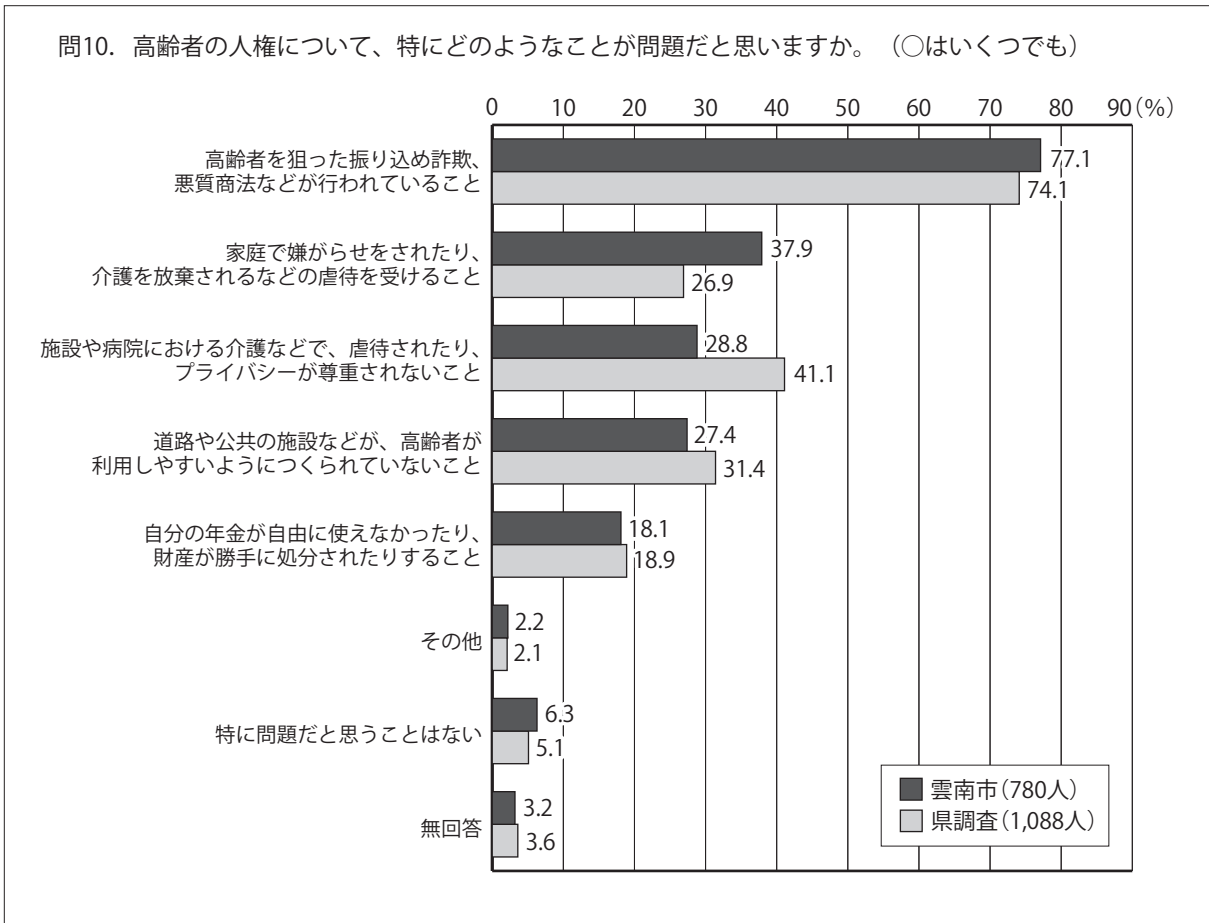
子どもに関する人権上の問題（特性別）





第6章 高齢者の人権について

1. 高齢者に関する人権上の問題



■「高齢者を狙った振り込め詐欺、悪質商法などが行われていること」が7割超

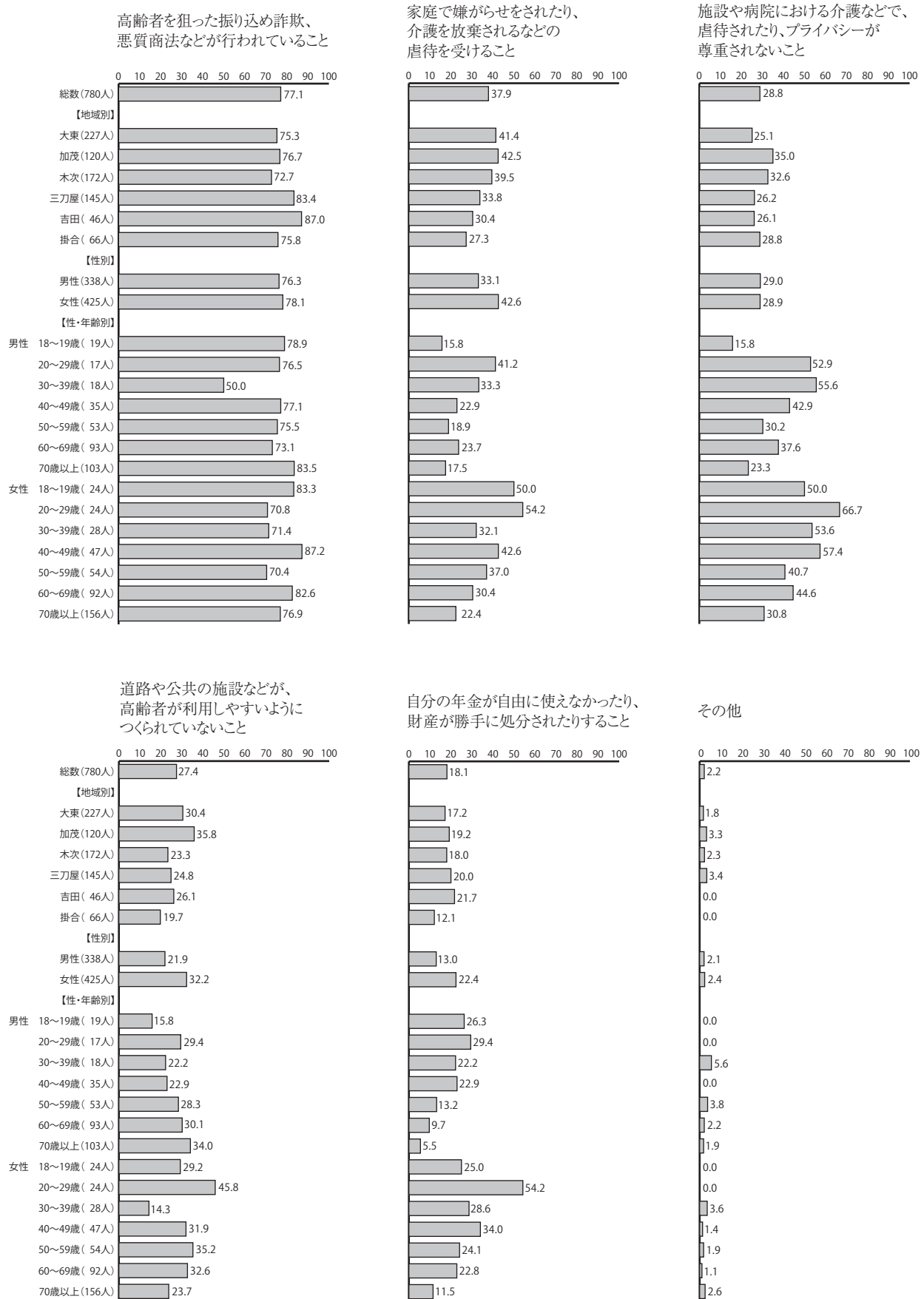
高齢者の人権について、特にどのようなことが問題だと思うかを聞いたところ、「高齢者を狙った振り込め詐欺、悪質商法などが行われていること」が77.1%と群を抜いて最も高く、次いで「家庭で嫌がらせをされたり、介護を放棄されるなどの虐待を受けること」が37.9%、「施設や病院における介護などで、虐待されたり、プライバシーが尊重されないこと」が28.8%となっている。

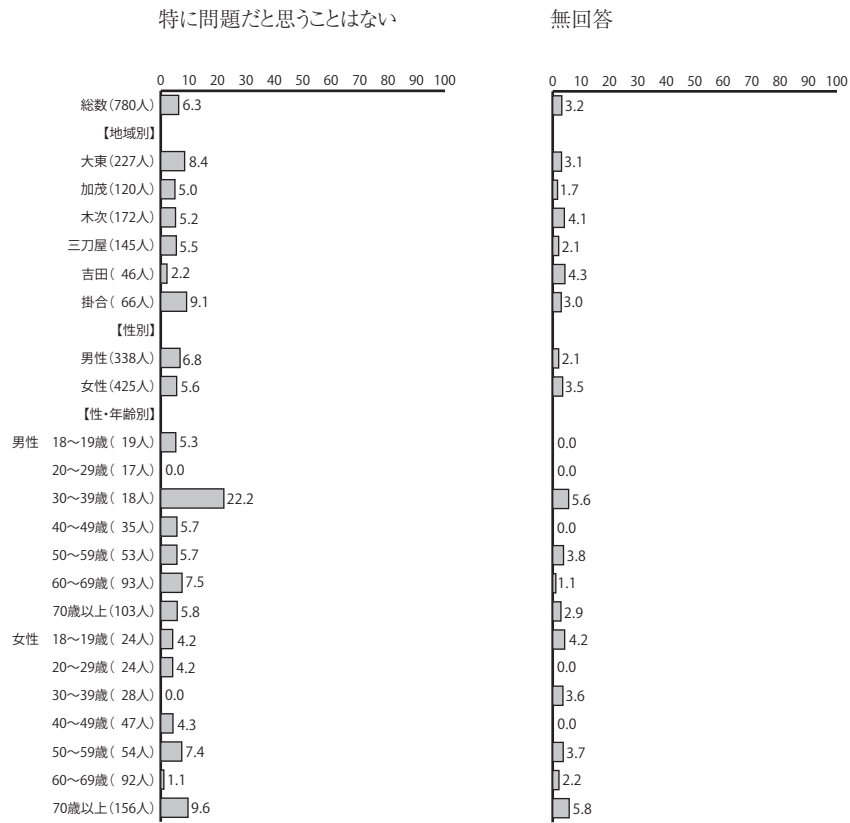
平成28年度県調査結果と比較すると、「高齢者を狙った振り込め詐欺、悪質商法などが行われていること」「家庭で嫌がらせをされたり、介護を放棄されるなどの虐待を受けること」について、雲南市の方が高くなっている。

性別でみると、「施設や病院における介護などで、虐待されたり、プライバシーが尊重されないこと」「特に問題だと思うことはない」を除くすべての回答で女性が男性よりも高くなっている。

性・年齢別でみると、「施設や病院における介護などで、虐待されたり、プライバシーが尊重されないこと」「道路や公共の施設などが、高齢者が利用しやすいようにつくられていないこと」「家庭で嫌がらせをされたり、介護を放棄されるなどの虐待を受けること」「自分の年金が自由に使えなかったり、財産が勝手に処分されたりすること」について、女性の20歳代が一番高くなっている。

高齢者に関する人権上の問題（特性別）

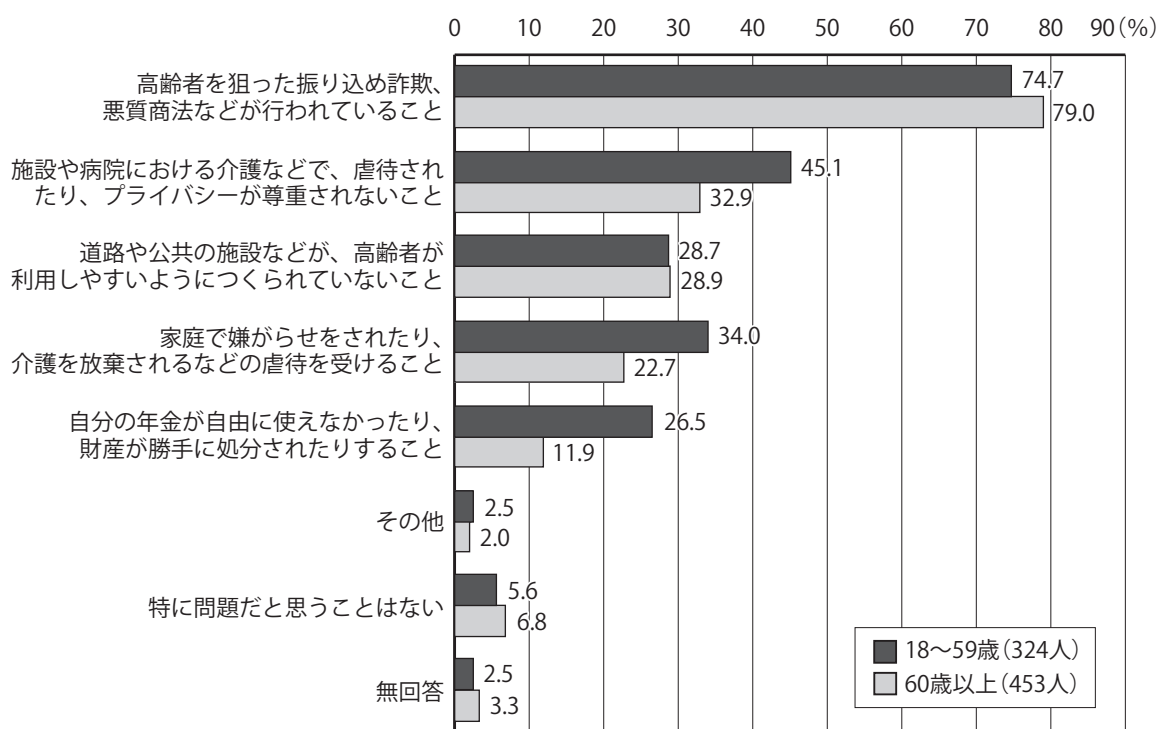




●「高齢者の人権についての問題点」の高齢者・非高齢者別による認識の差

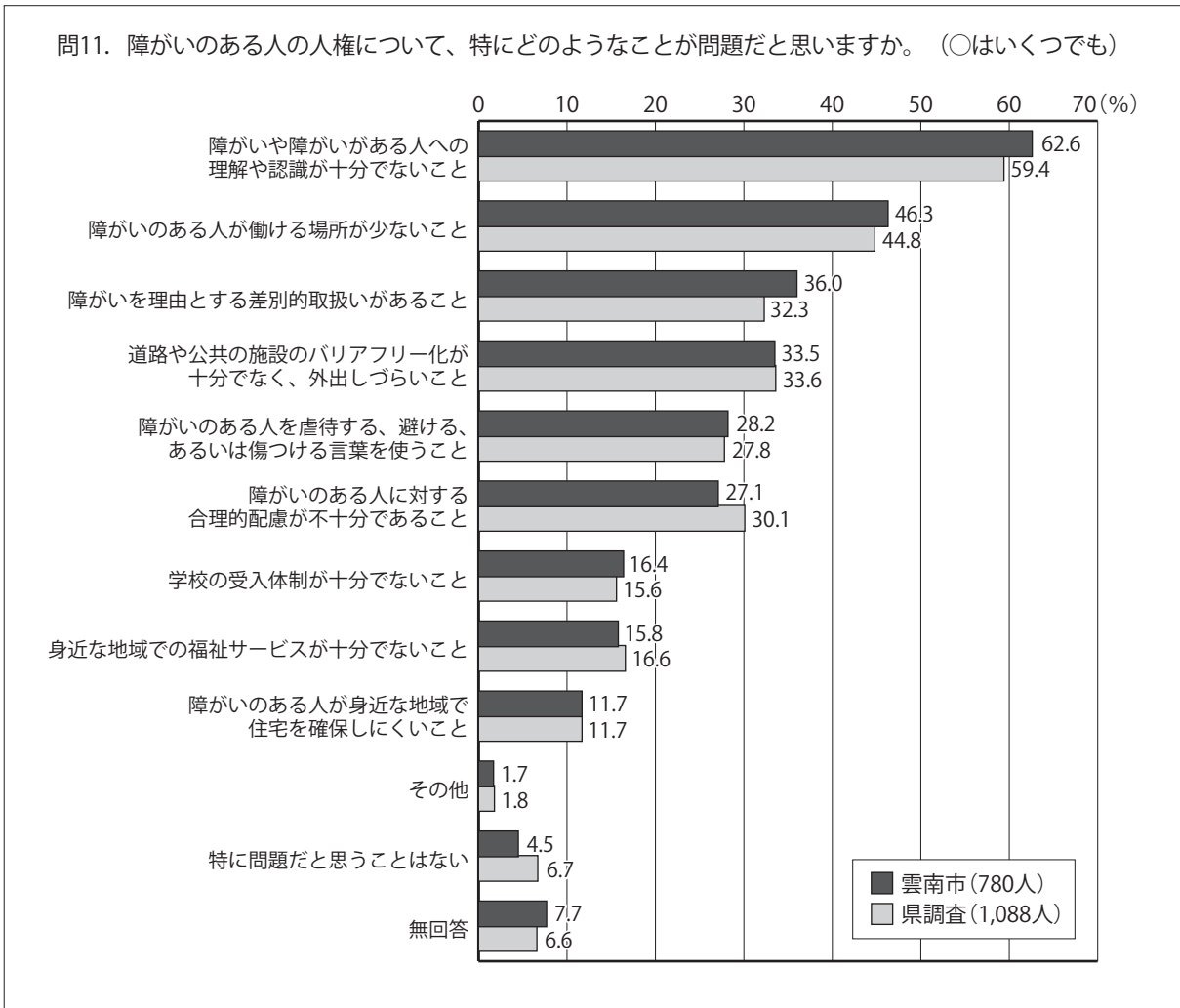
問10の回答を60歳以上の高齢者と18～59歳までの非高齢者別で比較してみると、最も認識に差がみられたのは、「自分の年金が自由に使えなかったり、財産が勝手に処分されたりすること」で、14.6ポイントの差があった。次いで「施設や病院における介護などで、虐待されたり、プライバシーが尊重されないこと」で12.2ポイント差、「家庭で嫌がらせをされたり、介護を放棄されるなどの虐待を受けること」が11.3ポイント差となっている。

「施設や病院における介護などで、虐待されたり、プライバシーが尊重されないこと」「家庭で嫌がらせをされたり、介護を放棄されるなどの虐待を受けること」「自分の年金が自由に使えなかったり、財産が勝手に処分されたりすること」は18歳～59歳で高く、「高齢者を狙った振り込め詐欺、悪質商法などが行われていること」「道路や公共の施設などが、高齢者が利用しやすいようにつくられていないこと」は60歳以上で高くなっている。



第7章 障がいのある人の人権について

1. 障がいのある人に関する人権上の問題



■「障がいや障がいのある人への理解や認識が十分でないこと」が6割超

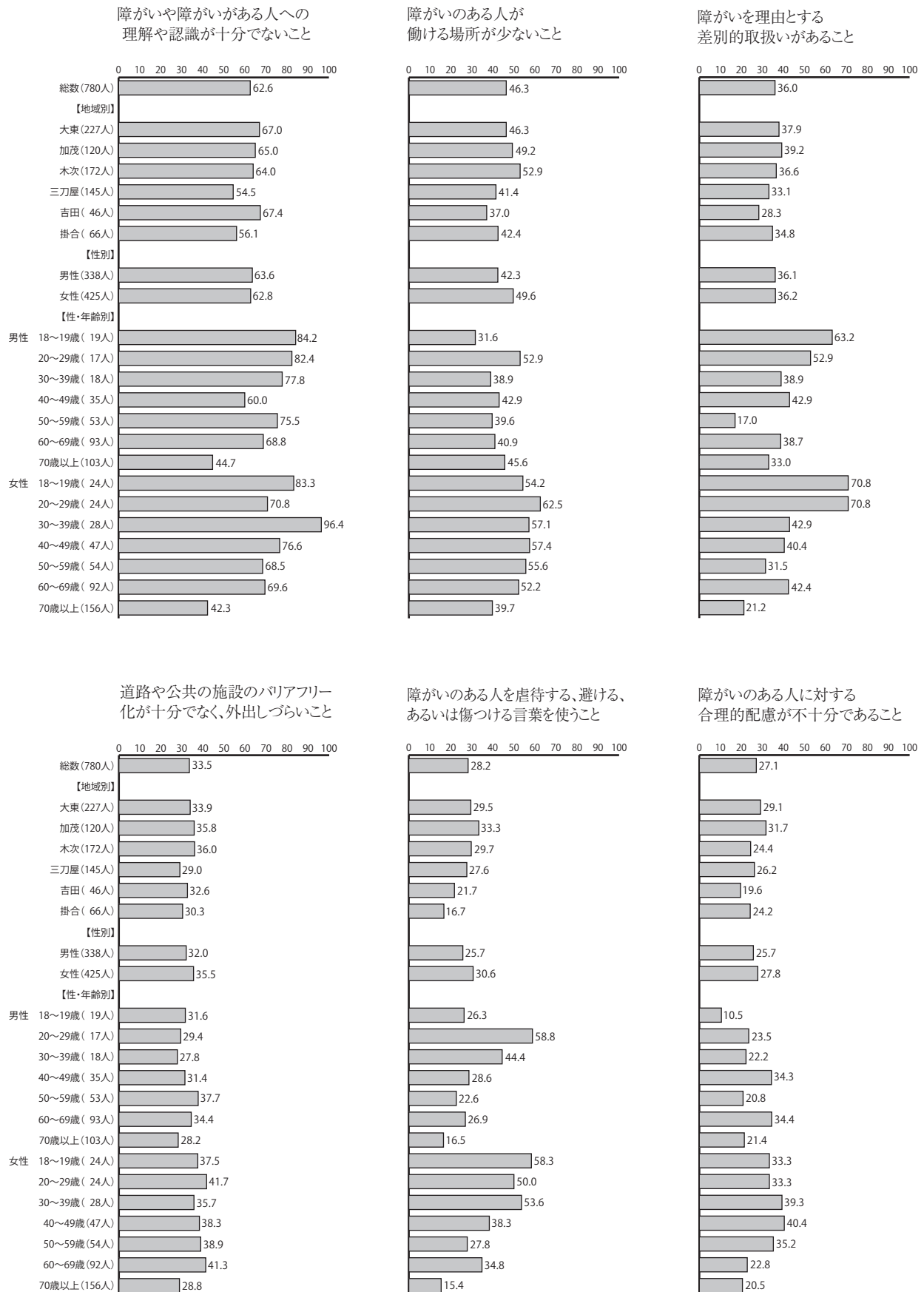
障がいのある人の人権について、特にどのようなことが問題だと思うかを聞いたところ、「障がいや障がいのある人への理解や認識が十分でないこと」が62.6%と最も高く、次いで「障がいのある人が働ける場所が少ないこと」が46.3%、「障がいを理由とする差別的取扱いがあること」が36.0%となっている。

平成28年度県調査結果と比較すると、上位4項目のうち、3項目について、市の方が高くなっている。地域別でみると、「障がいや障がいのある人への理解や認識が十分でないこと」は吉田町（67.4%）が最も高くなっている。

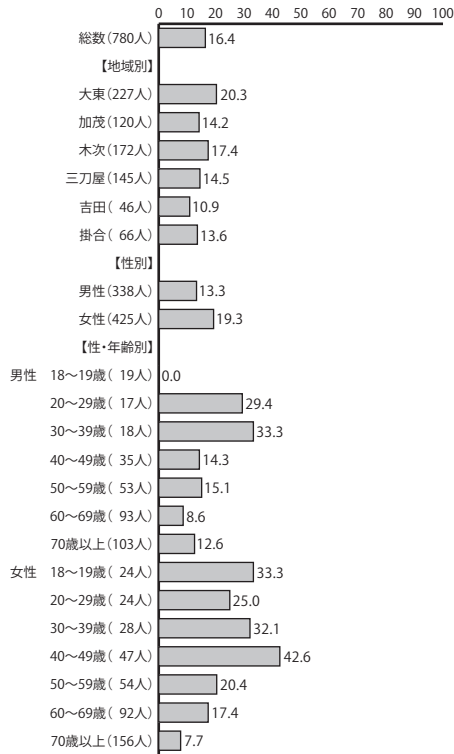
性別でみると、2位の「障がいがある人が働ける場所が少ないこと」は女性（49.6%）が男性（42.3%）より高くなっている。

性・年齢別でみると、「障がいや障がいのある人への理解や認識が十分ではないこと」は、女性30歳代（96.4%）が、最も高くなっている。

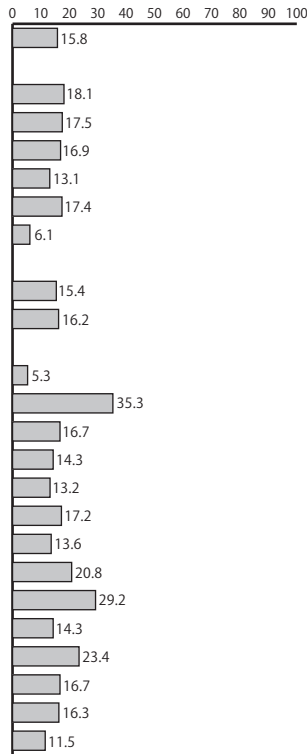
障がいのある人に関する人権上の問題（特性別）



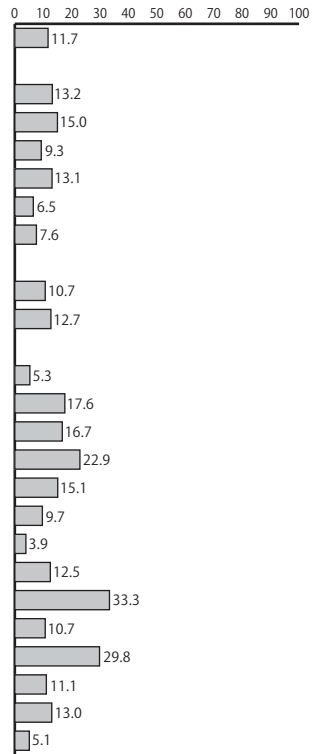
学校の受入体制が十分でないこと



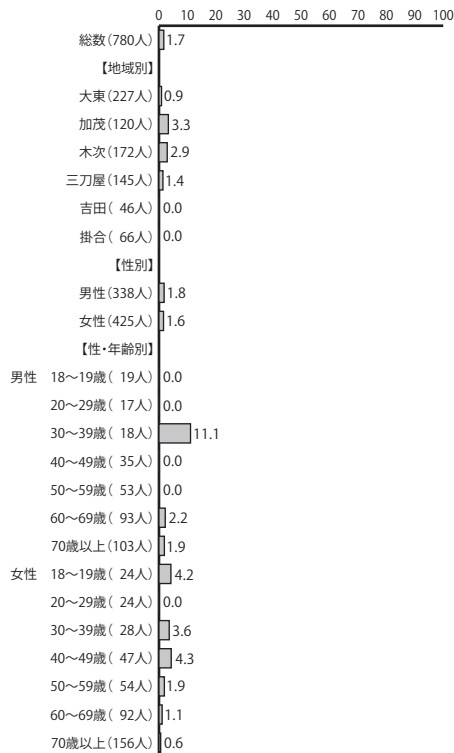
身近な地域での福祉サービスが十分でないこと



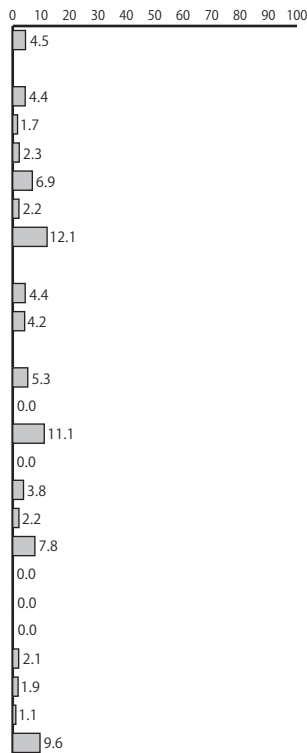
障がいのある人が身近な地域で住宅を確保しにくいこと



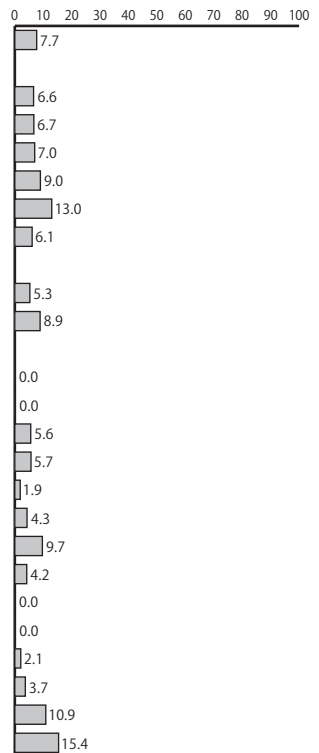
その他



特に問題だと思わない



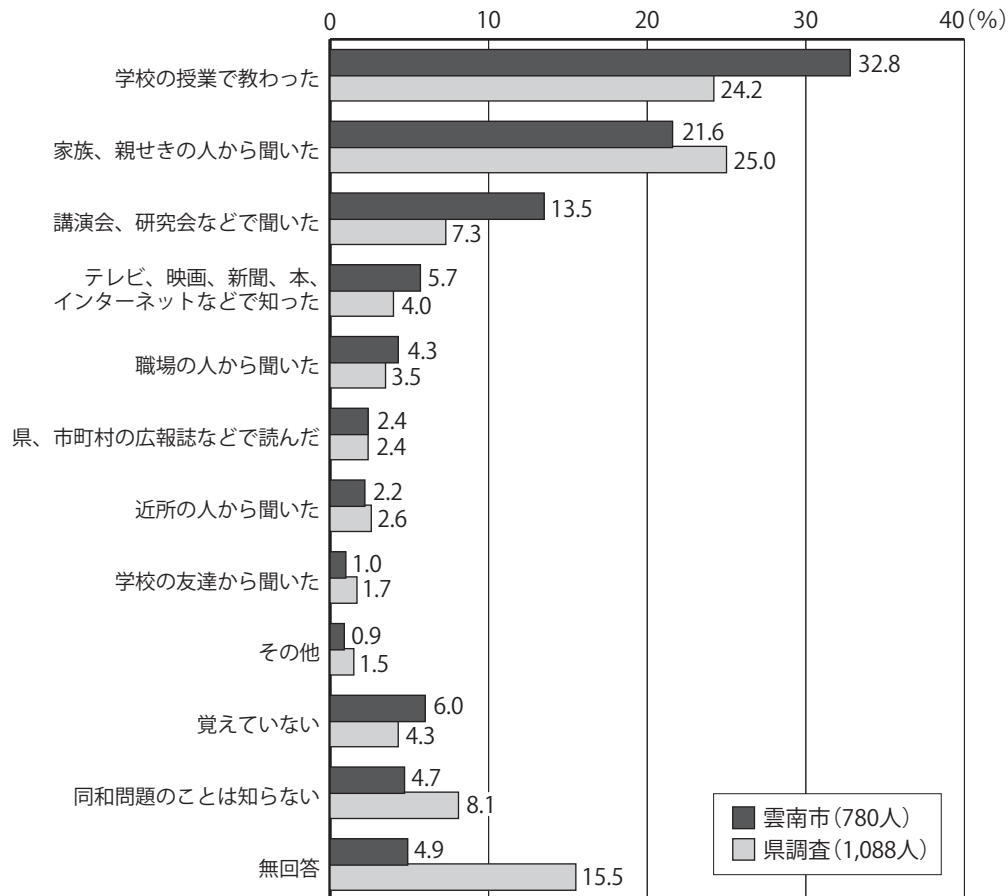
無回答



第8章 同和問題について

1. 同和問題の認知経路

問12. 同和問題について初めて知ったのは、どのようなことがきっかけでしたか。（○は1つ）



■同和問題を知ったきっかけは「学校の授業で教わった」が3割超

同和問題を初めて知ったきっかけについては、「学校の授業で教わった」が32.8%と最も高く、次いで「家族、親せきの人から聞いた」が21.6%、「講演会、研究会などで聞いた」が13.5%となっている。

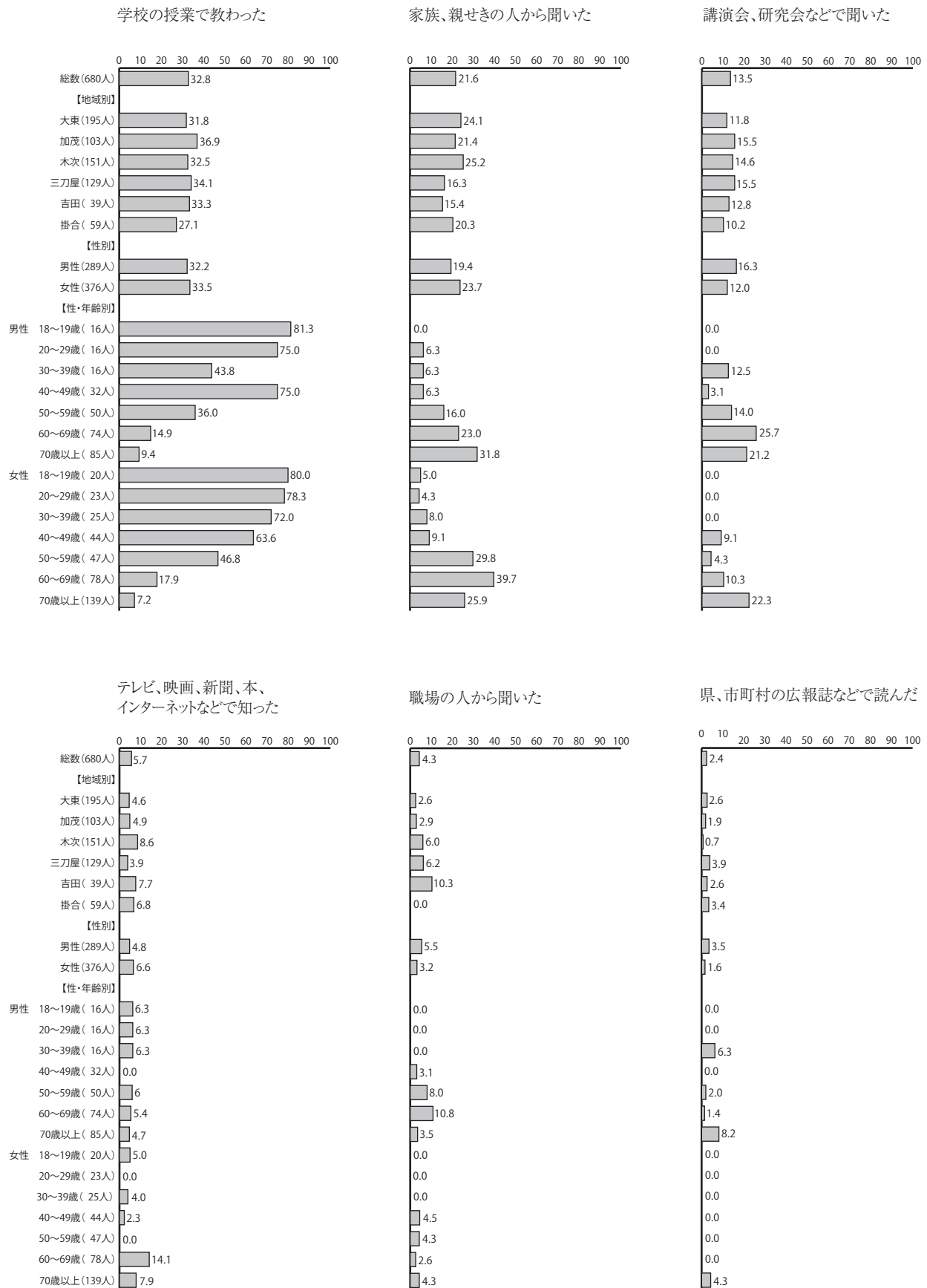
平成28年度県調査結果と比較すると、「学校の授業で教わった」は市の方が8.6ポイント高く、「家族、親せきの人から聞いた」は、市の方が3.4ポイント低くなった。

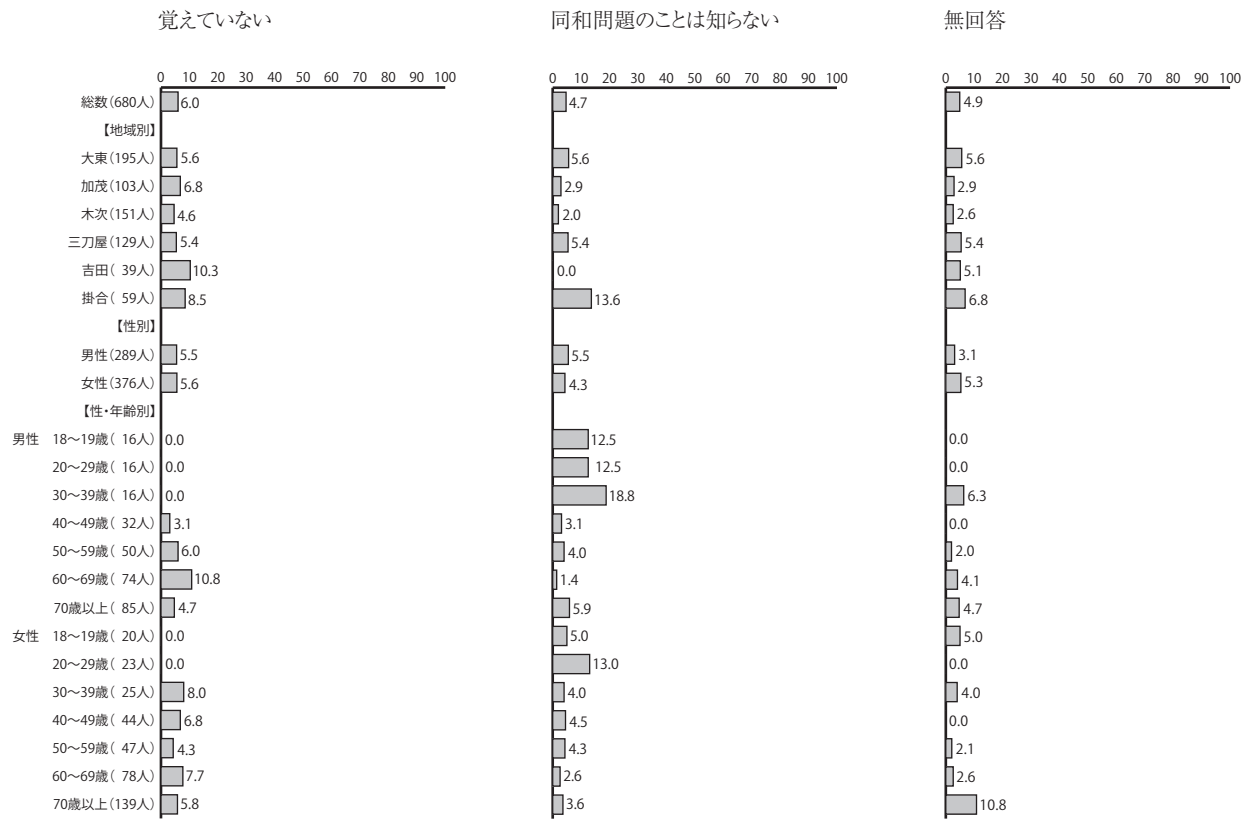
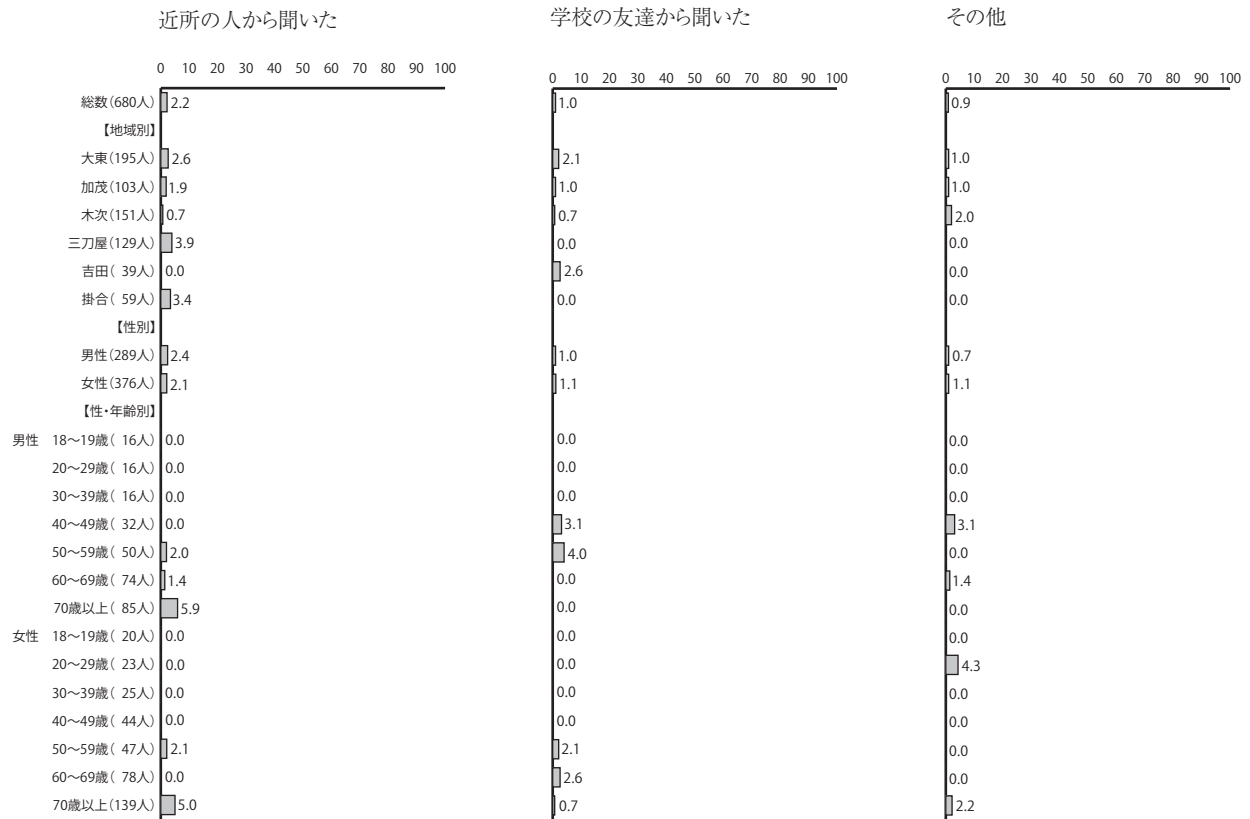
地域別でみると、「学校の授業で教わった」は加茂町（36.9%）が最も高くなっている。

性別でみると、「学校の授業で教わった」は男女でほとんど差はない。

性・年齢別でみると、「学校の授業で教わった」は男女ともに若い年代で高い傾向があるが、その中で男性の30歳代は、43.8%と低い。代わりに「講演会、研究会などで聞いた」（12.5%）、「県、市町村の広報誌などで読んだ」（6.3%）など、学校外のきっかけが高い一方で、「同和問題のことは知らない」（18.8%）が、一番高くなっている。

同和問題の認知経路（特性別）

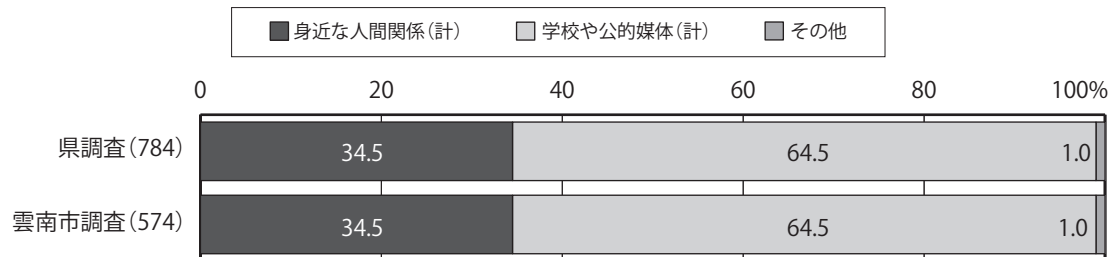




●分野別の認知経路比較

認知経路を『身近な人間関係（計）』と『学校や公的媒体（計）』、『その他』に分けてみると、『身近な人間関係（計）』が34.5%、『学校や公的媒体（計）』が64.5%となっている。

●同和問題の分野別認知経路（県との比較）



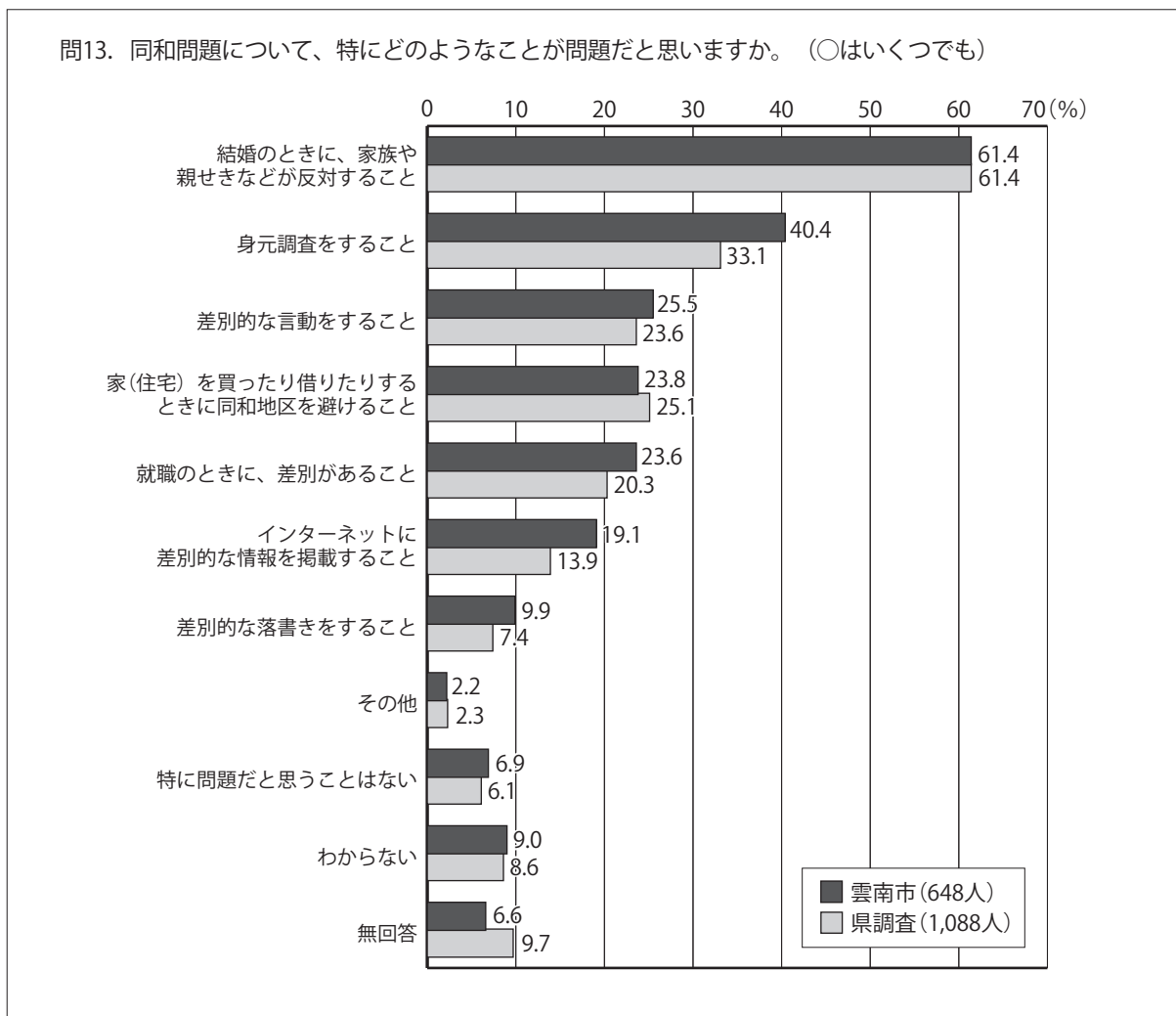
* 『身近な人間関係（計）』 = 「家族、親せきの人から聞いた」、「職場の人から聞いた」、「学校の友達から聞いた」、「近所の人から聞いた」

『学校や公的媒体（計）』 = 「学校の授業で教わった」、「講演会、研修会などで聞いた」、「テレビ、映画、新聞、本、インターネットなどで知った」、「県・市町村の広報誌などで読んだ」

『その他』 = 「その他」

* 回答者総数（780人）から、『覚えていない』『同和問題のことを知らない』『無回答』を除いた数（574人）を100%として、比率を再計算した。

2. 同和問題に関する人権上の問題



■「結婚のときに、家族や親せきなどが反対すること」が6割超

同和問題について、特にどのようなことが問題だと思うかを聞いたところ、「結婚のときに、家族や親せきなどが反対すること」が61.4%と最も高く、次いで「身元調査をすること」が40.4%、「差別的な言動をすること」が25.5%となっている。

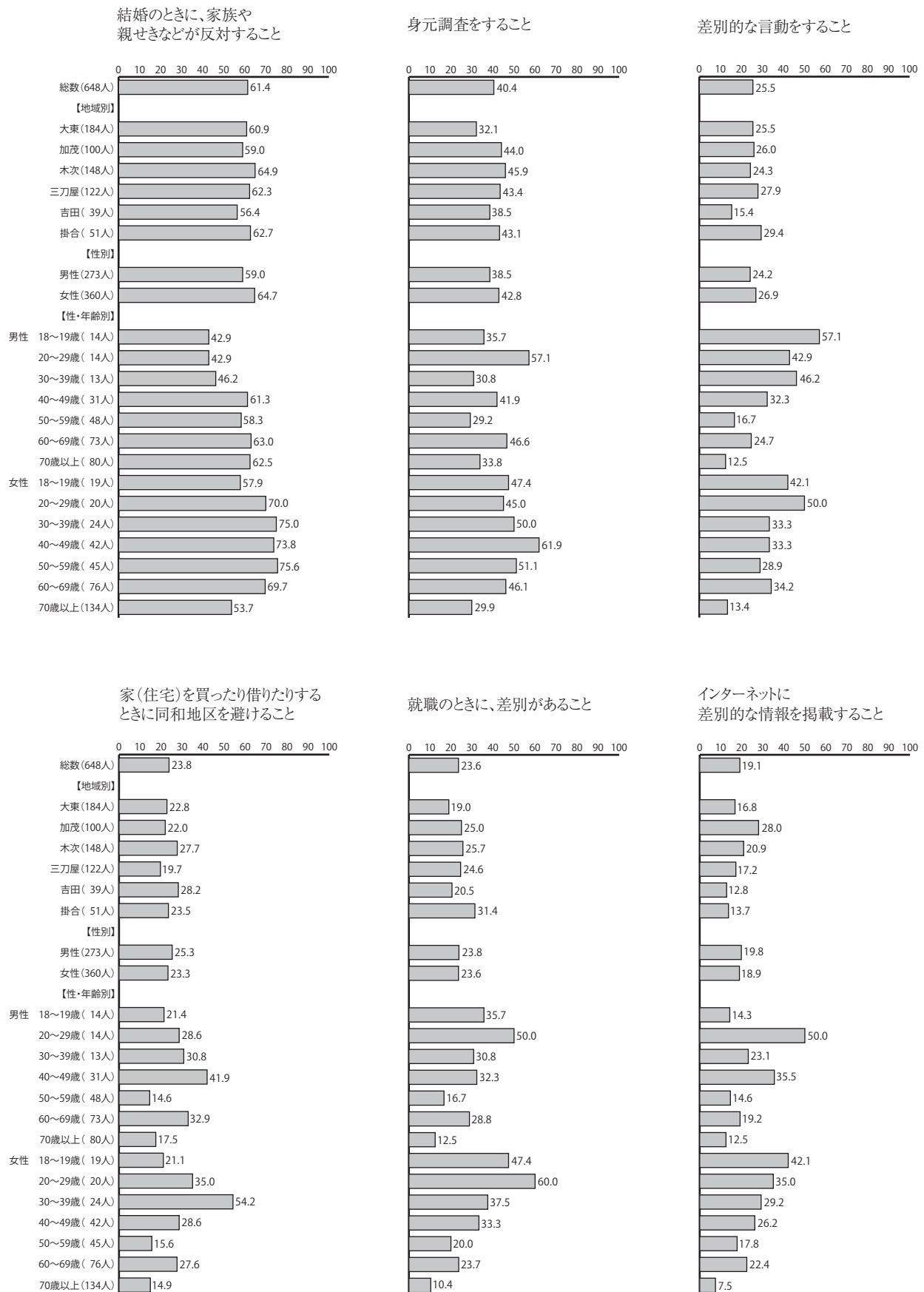
平成28年度県調査結果と比較すると、「身元調査をすること」（7.3ポイント）、「インターネットに差別的な情報を掲載すること」（5.2ポイント）が県に比べて市の方が高くなっている。

地域別でみると、「結婚のときに、家族、親せきなどが反対すること」は、木次町（64.9%）が最も高くなっている。

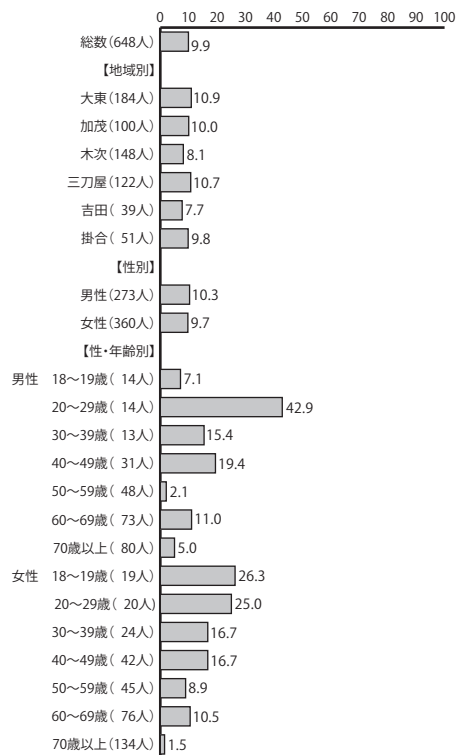
性別でみると、上位3項目は男性よりも女性が高くなっている。

性・年齢別でみると、「結婚のときに、家族や親せきなどが反対すること」は女性の20歳代～50歳代で7割以上で、50歳代（75.6%）で最も高くなっている。

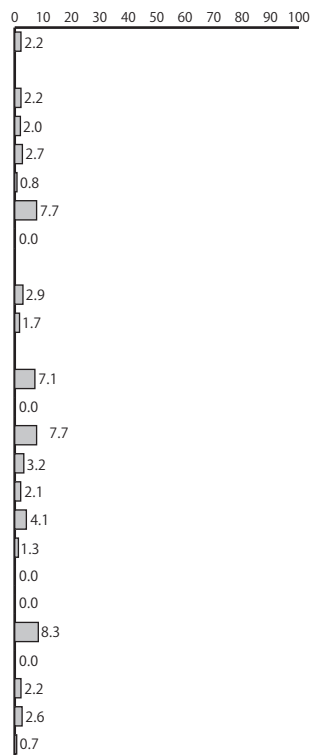
同和問題に関する人権上の問題（特性別）



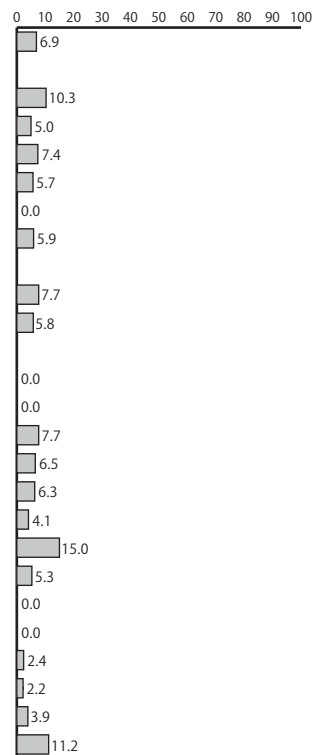
差別的な落書きをすること



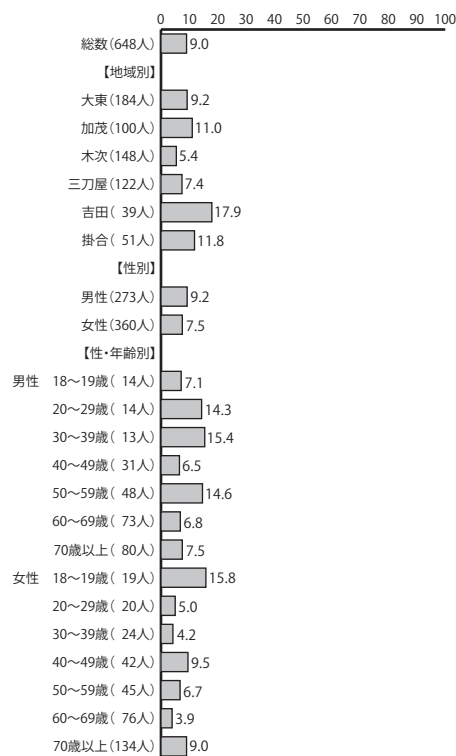
その他



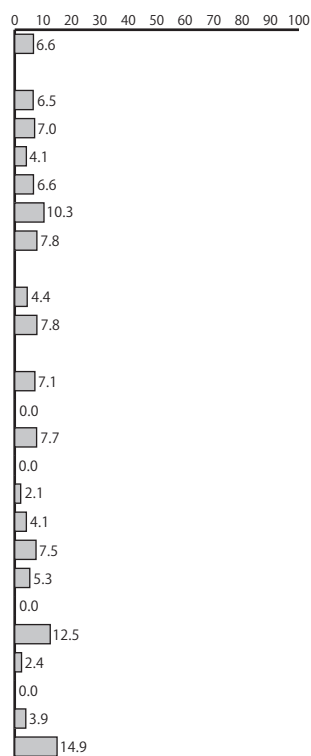
特に問題だと思わない



わからない



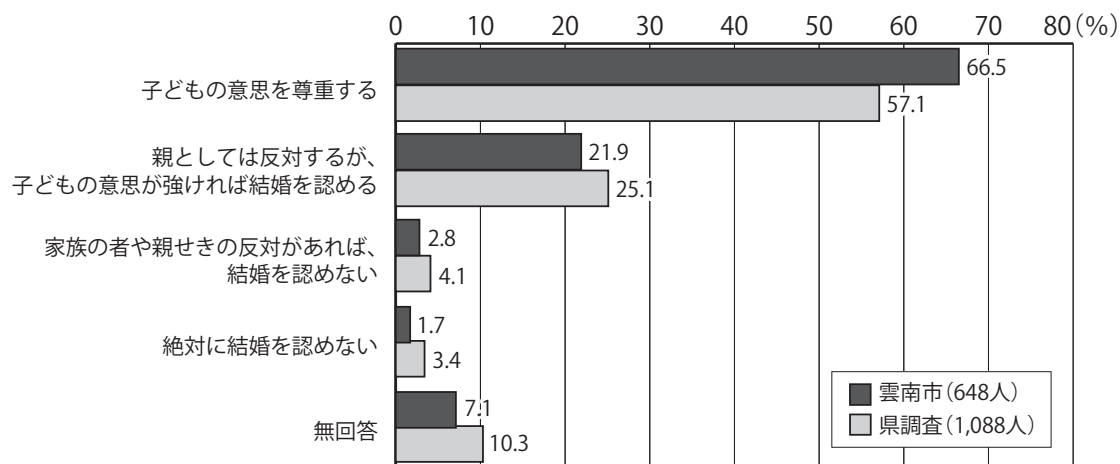
無回答



3. 子どもの同和地区出身者との結婚

問14. 結婚についておたずねします。【（１）（２）ともにお答えください】

（１）仮に、あなたのお子さんが同和地区の人と知り合い、結婚しようとしたとき、あなたはどのようにしますか。（○はひとつ）



■「子どもの意思を尊重する」が6割超

子どもが同和地区出身者と結婚しようとしたときの態度を聞いたところ、「子どもの意思を尊重する」が66.5%と最も高く、次いで「親としては反対するが、子どもの意思が強ければ結婚を認める」が21.9%、「家族の者や親せきの反対があれば、結婚を認めない」が2.8%となっている（無回答7.1%）。

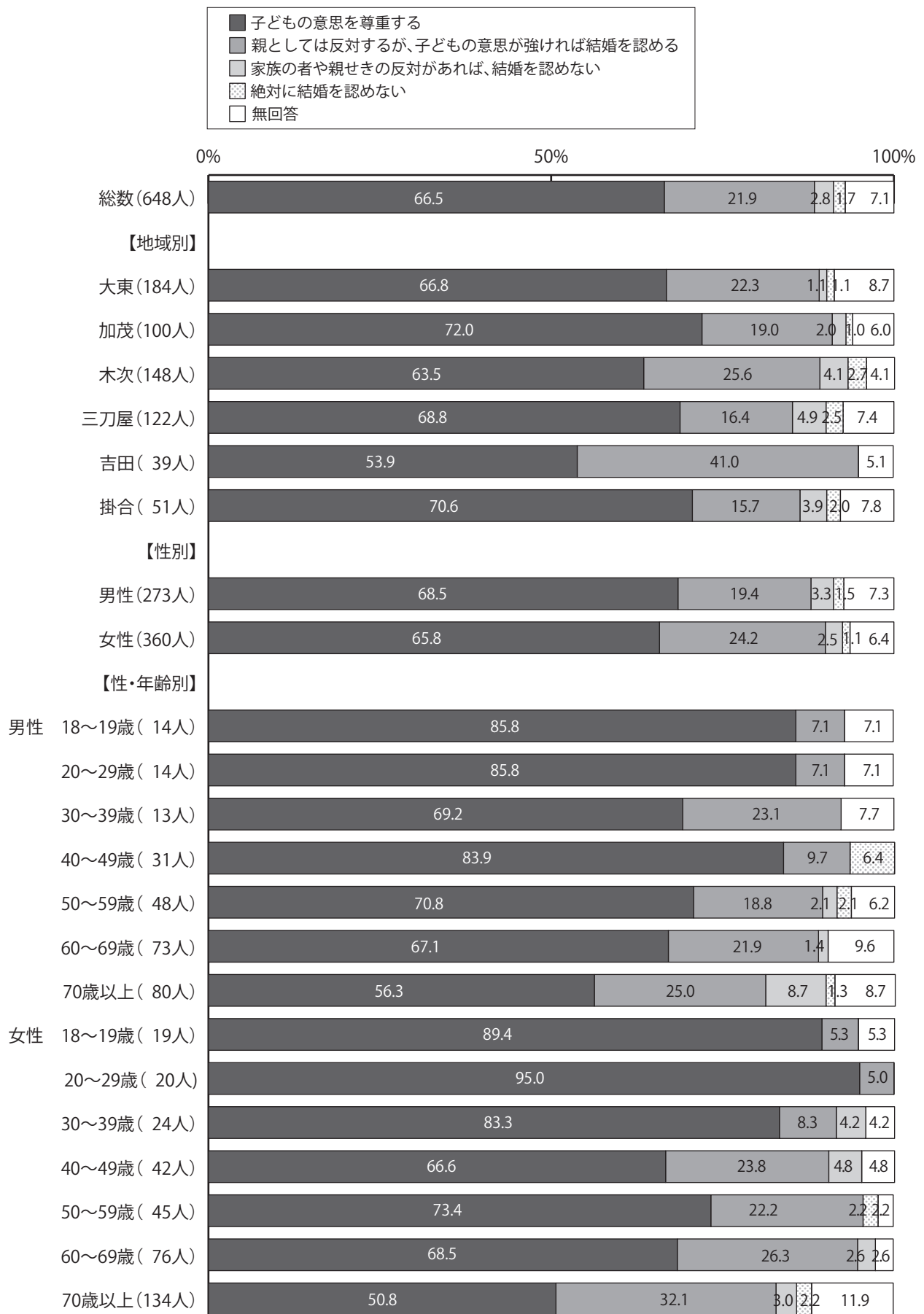
平成28年度県調査結果と比較すると、「子どもの意思を尊重する」は市の方が9.4ポイント高くなっている。

地域別では、「子どもの意思を尊重する」が加茂町（72.0%）で最も高くなっている。

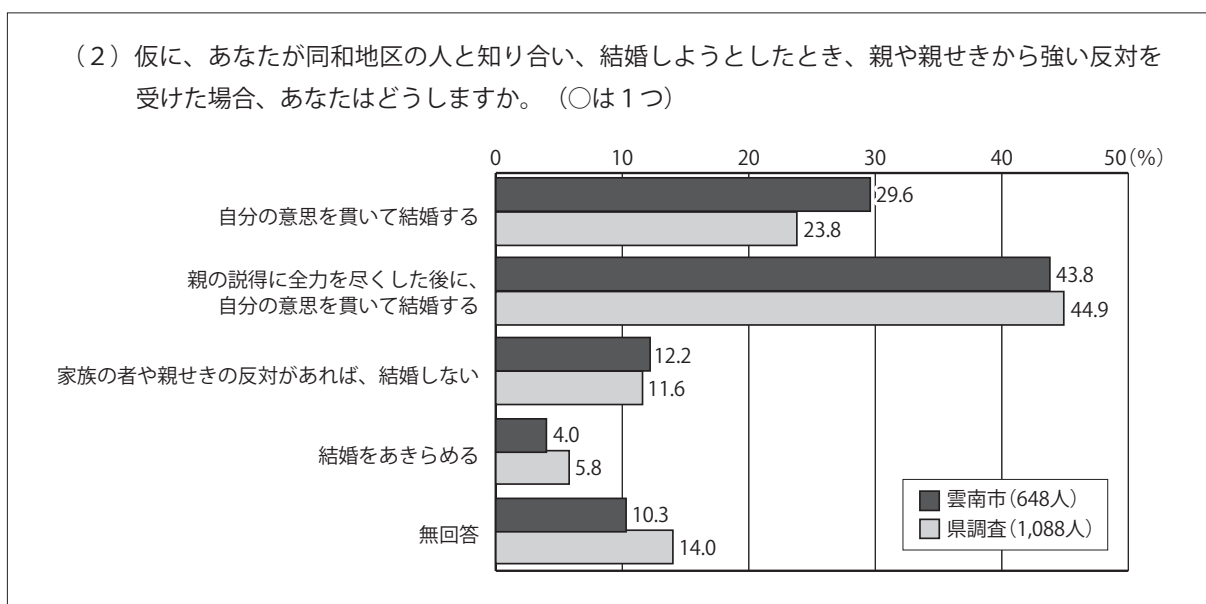
性別でみると、「子どもの意思を尊重する」は男性（68.5%）が女性（65.8%）よりも高くなっている。

性・年齢別でみると、「子どもの意思を尊重する」は男性で、18～19歳（85.8%）、20歳代（85.8%）、女性では20歳代（95.0%）が最も高くなっている。

子どもの同和地区出身者との結婚（特性別）



4. 同和地区出身者との結婚



■『結婚する(計)』が7割超

同和地区の人と結婚しようとしたとき、親や親せきから強い反対を受けた場合の態度を聞いたところ、「親の説得に全力を尽くした後に、自分の意思を貫いて結婚する」が43.8%と最も高く、次いで「自分の意思を貫いて結婚する」が29.6%、「家族の者や親せきの反対があれば、結婚しない」が12.2%となっている(「無回答」10.4%)。上位2項目を合わせた『結婚する(計)』は73.4%となる一方、「家族の者や親せきの反対があれば、結婚しない」が12.2%、「結婚をあきらめる」が4.0%となっている。

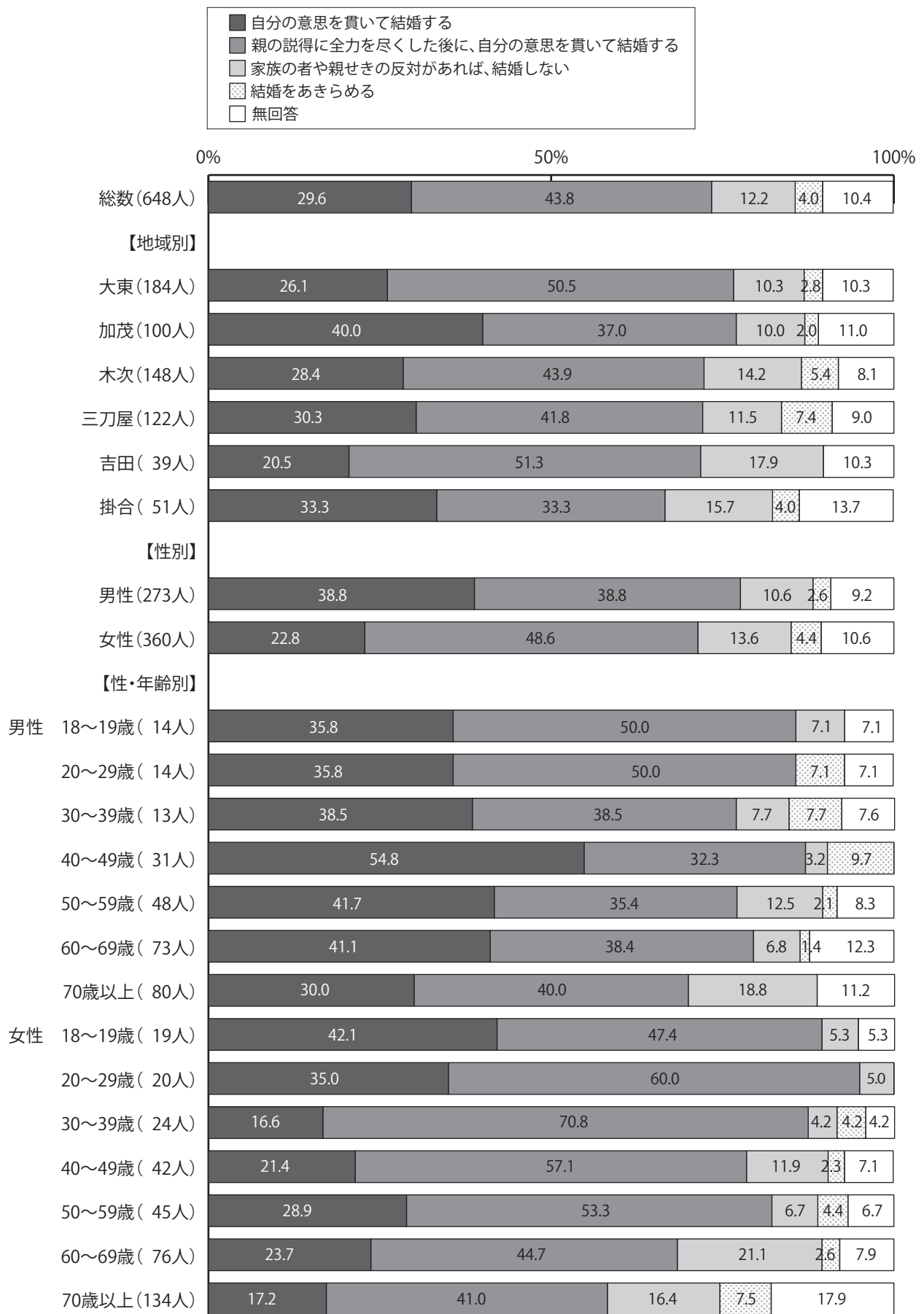
平成28年度県調査結果と比較すると、「自分の意思を貫いて結婚する」は市が5.8ポイント高くなっている。また、「無回答」は県が3.7ポイント高くなっている。

地域別でみると、『結婚する(計)』は加茂町(77.0%)で最も高く、次いで大東町(76.6%)、木次町(72.3%)となっている。

性別でみると、「親の説得に全力を尽くした後に、自分の意思を貫いて結婚する」は女性(48.6%)が男性(38.8%)よりも高く、「自分の意思を貫いて結婚する」は、男性(38.8%)が女性(22.8%)よりも高くなっている。

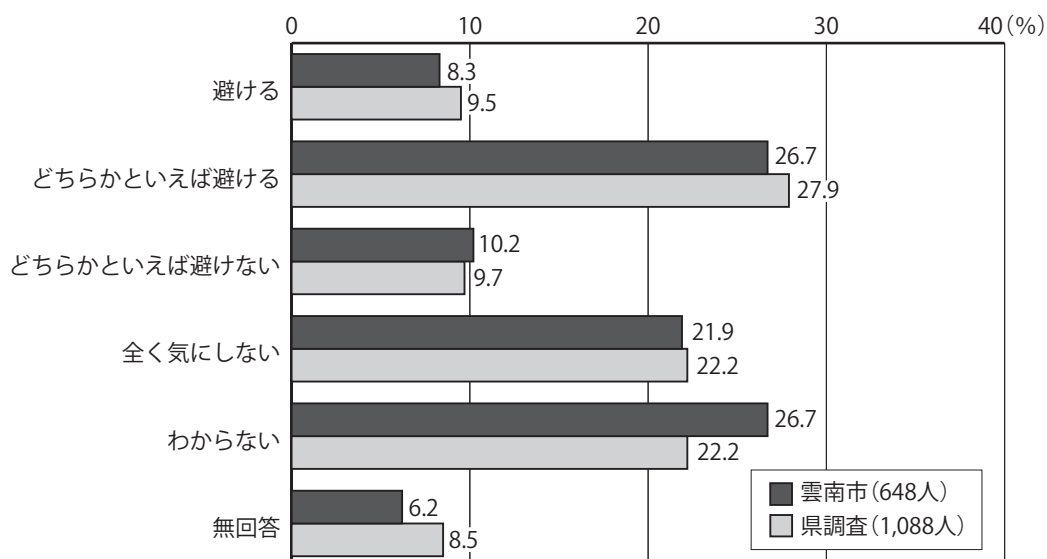
性・年齢別でみると、『結婚する(計)』は男性が40歳代(87.1%)で高く、女性は20歳代(95.0%)で高くなっている。

同和地区出身者との結婚（特性別）



5. 同和地区にある家（住宅）の購入

問15. 仮にあなたが家（住宅）を購入しようとした際に、価格や立地条件などが希望にあっても、その物件が同和地区にあるとわかったら、あなたはどうしますか。（○は1つ）



■『避ける（計）』は4割弱

この設問は、今回はじめて調査した。

同和地区にある家（住宅）の購入について聞いたところ、「どちらかといえば避ける」、「わからない」が26.7%と最も高く、次いで「全く気にしない」が21.9%となっている。

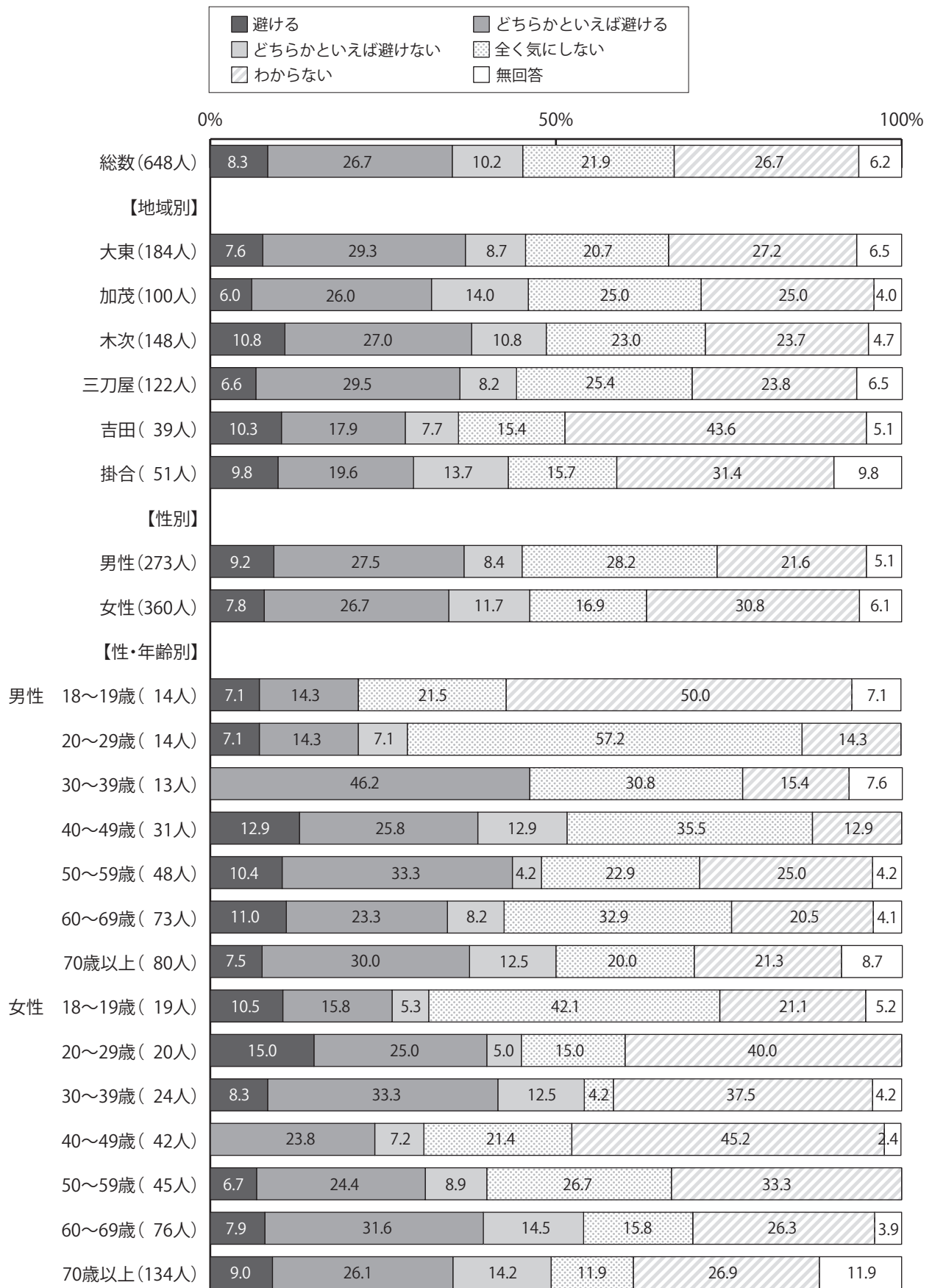
地域別でみると、「避ける」と「どちらかといえば避ける」を合わせた『避ける（計）』は木次町（37.8%）が最も高くなっている。

性別でみると、男性は「全く気にしない」（28.2%）、女性は『わからない』（30.8%）がそれぞれ最も高くなっている。

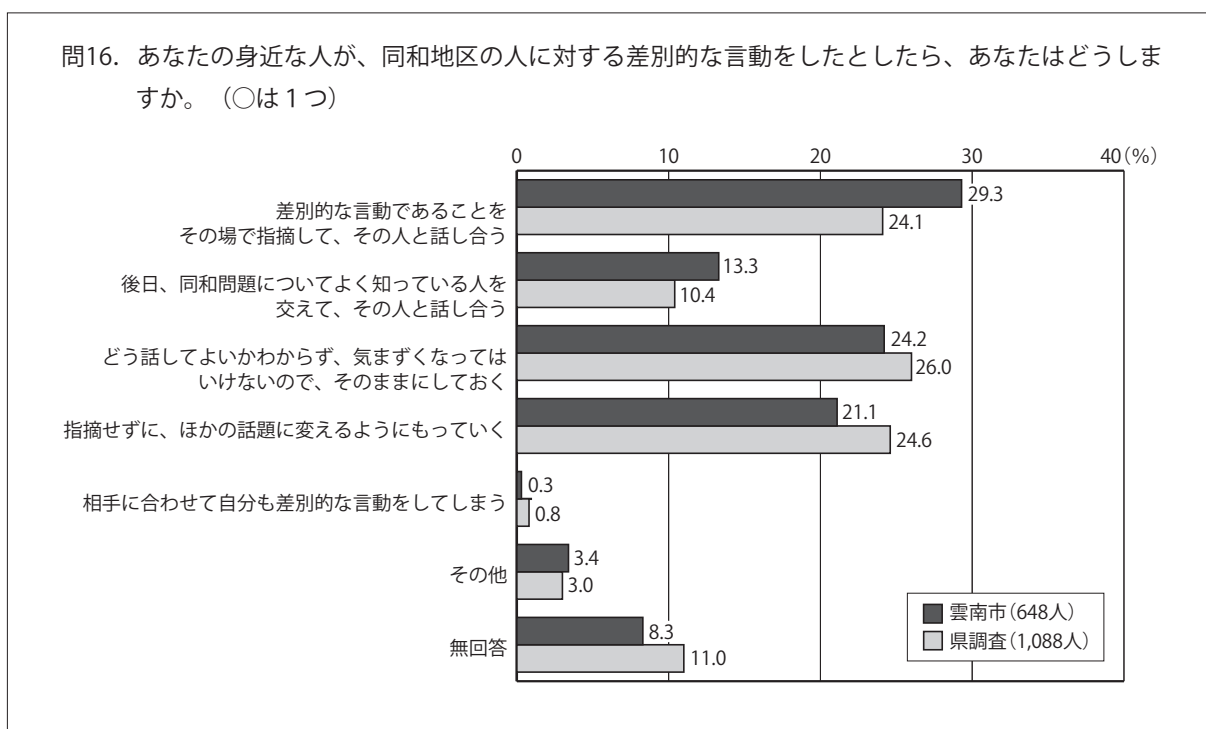
性・年齢別でみると、『避ける（計）』は、男性では18～19歳と20歳代（21.4%）、女性では40歳代（23.8%）で低くなっている。

平成28年度県調査結果と比較すると、市の方が「わからない」と回答した比率が県より4.5ポイント高いことが特徴である。「どちらかといえば避けない」を除いて県の方がいずれも高い。

同和地区にある家（住宅）の購入（特性別）



6. 身近な人が差別的な言動をしたときの対応



■ 4割超が『(差別的な言動をしないように) 話し合う』

この設問は、今回初めて調査した。

身近な人が差別的な言動をしたときの対応について聞いたところ、「差別的な言動であることをその場で指摘して、その人と話し合う」が29.3%と最も高く、次いで「どう話してよいかわからず、気まずくなってしまうので、そのままにしておく」が24.2%、「指摘せずに、ほかの話題に変えるようにもっていく」が21.1%となっている。

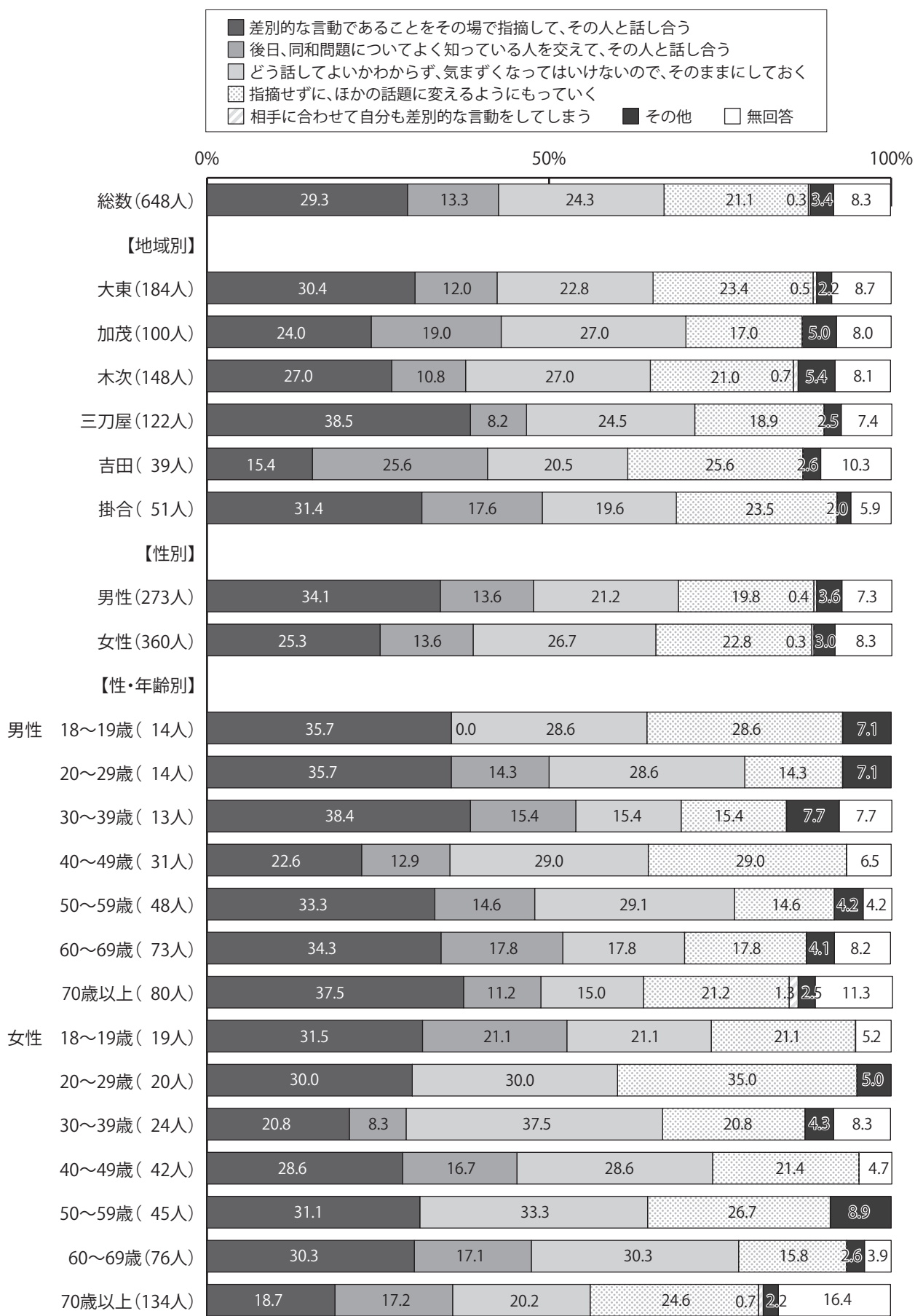
地域別でみると、「差別的な言動であることをその場で指摘して、その人と話し合う」と「後日、同和問題についてよく知っている人を交えて、その人と話し合う」を合わせた『話し合う（計）』は掛合町（49.0%）で最も高くなっている。

性別でみると、「差別的な言動であることをその場で指摘して、その人と話し合う」は、男性が女性よりも高くなっている。

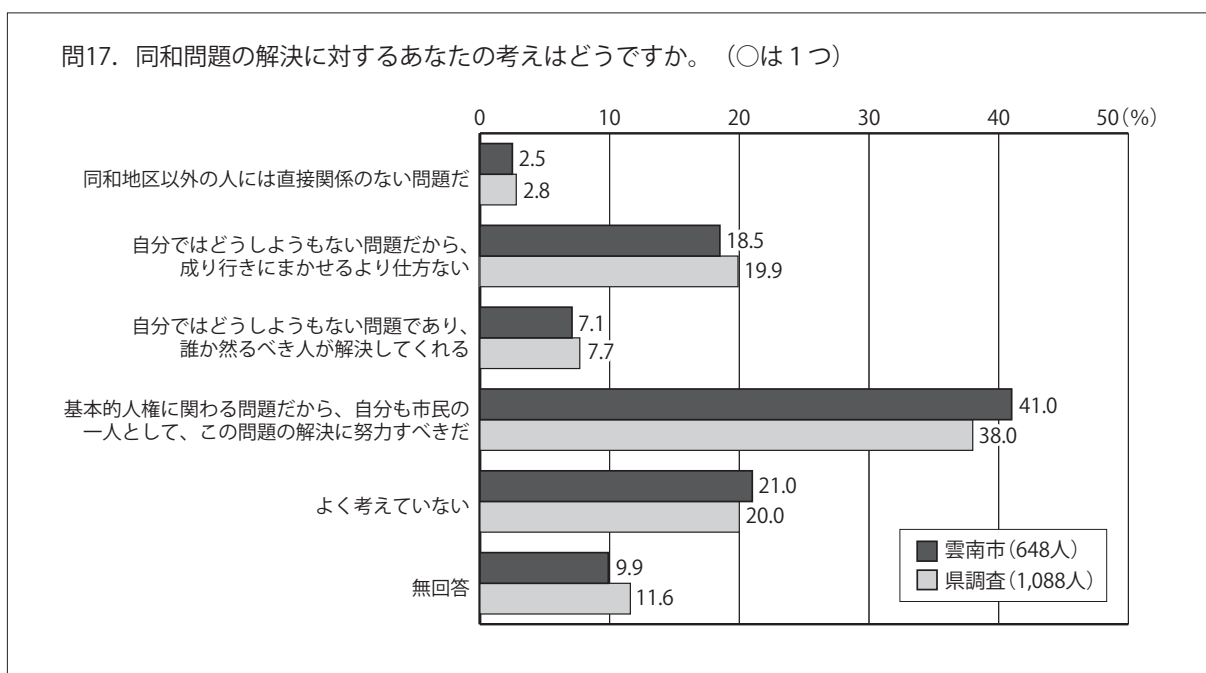
性・年齢別でみると、『話し合う（計）』は男性では30歳代（53.8%）、女性では18～19歳（52.6%）で高くなっている。

平成28年度県調査結果と比較すると、「差別的な言動であることをその場で指摘して、その人と話し合う」、「後日、同和問題についてよく知っている人を交えて、その人と話し合う」で、市の方が高い。

身近な人が差別的な言動をしたときの対応（特性別）



7. 同和問題の解決に対する考え



■「基本的人権に関わる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う」が4割超

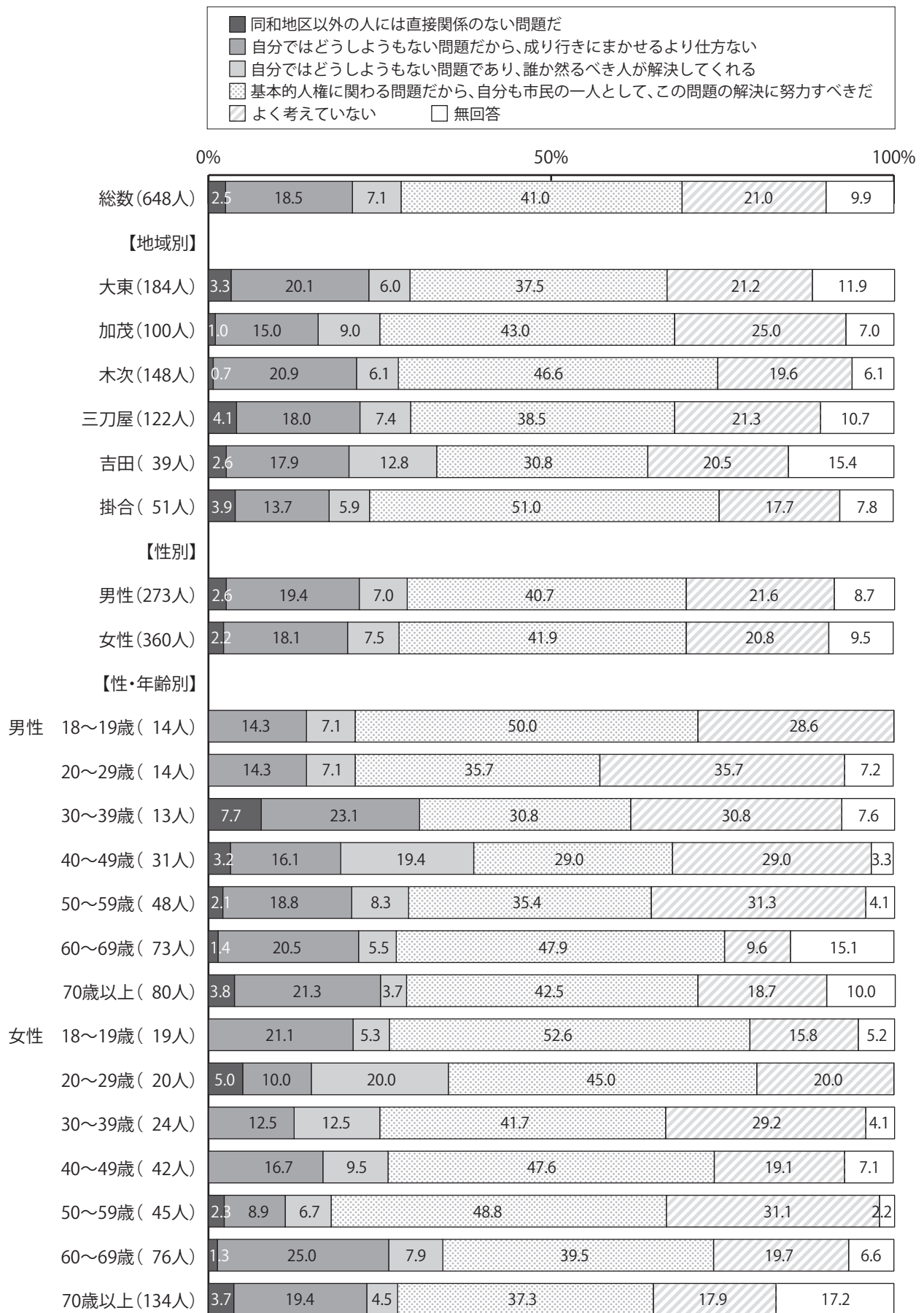
同和問題の解決に対する考えについて聞いたところ、「基本的人権に関わる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだ」が41.0%と最も高く、次いで「よく考えていない」が21.0%、「自分ではどうしようもない問題だから、成り行きにまかせるより仕方がない」が18.5%となっている。

平成28年度県調査結果と比較すると、「基本的人権に関わる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだ」、「よく考えていない」と答えた割合が市の方が高い。

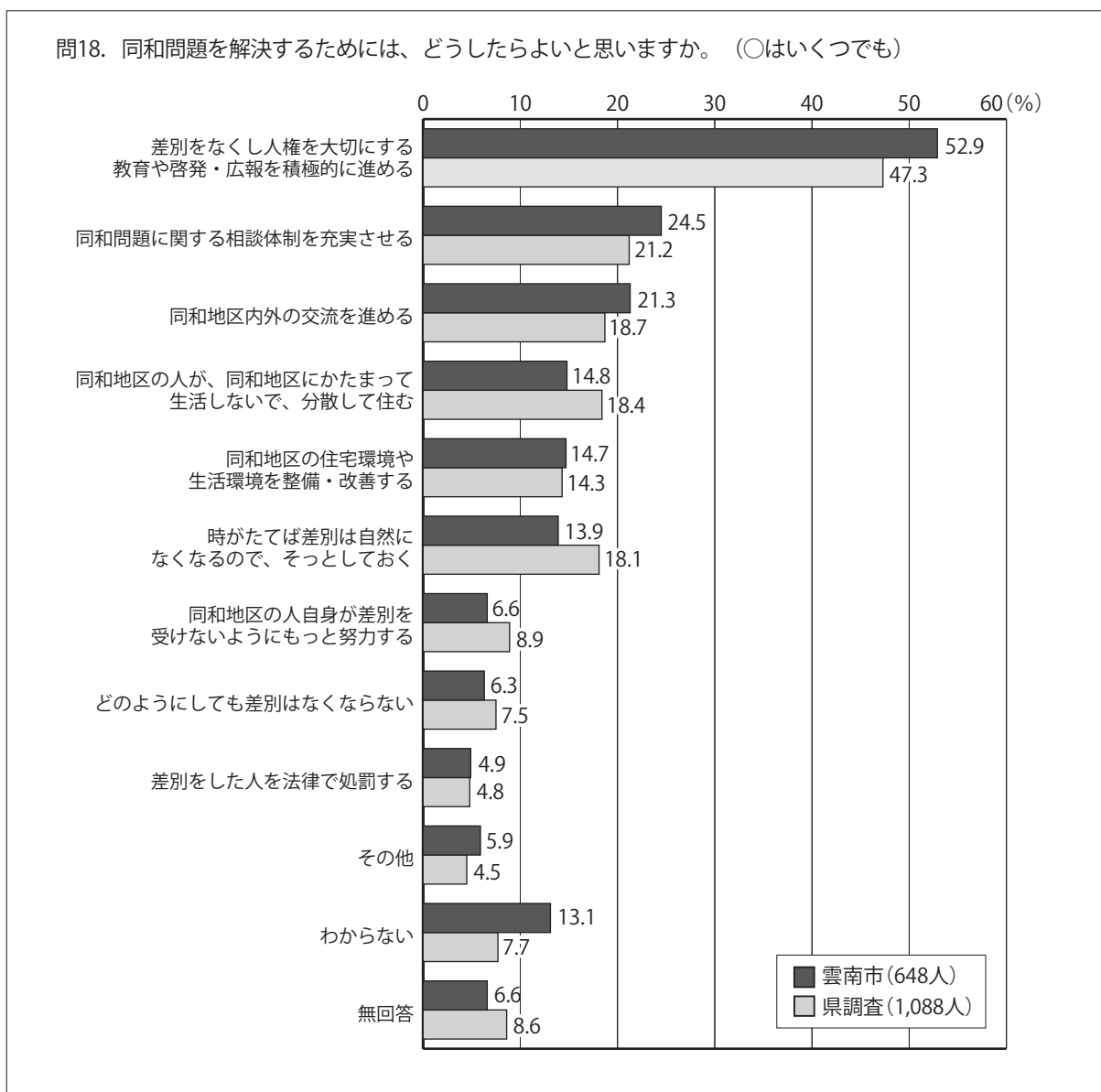
地域別でみると、「基本的人権に関わる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う」は掛合町（51.0%）が最も高くなっている。

性別でみると、ほとんど差はないが、性・年齢別でみると、「基本的人権に関わる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う」は男女ともに18～19歳で高くなっている。

同和問題の解決に対する考え（特性別）



8. 同和問題の解決に必要なこと



■「差別をなくし人権を大切にする教育や啓発・広報を積極的に進める」が5割超

同和問題を解決するために必要なこととしては、「差別をなくし人権を大切にする教育や啓発・広報を積極的に進める」が52.9%と群を抜いて最も高く、次いで「同和問題に関する相談体制を充実させる」が24.5%、「同和地区内外の交流を進める」が21.3%となっている。

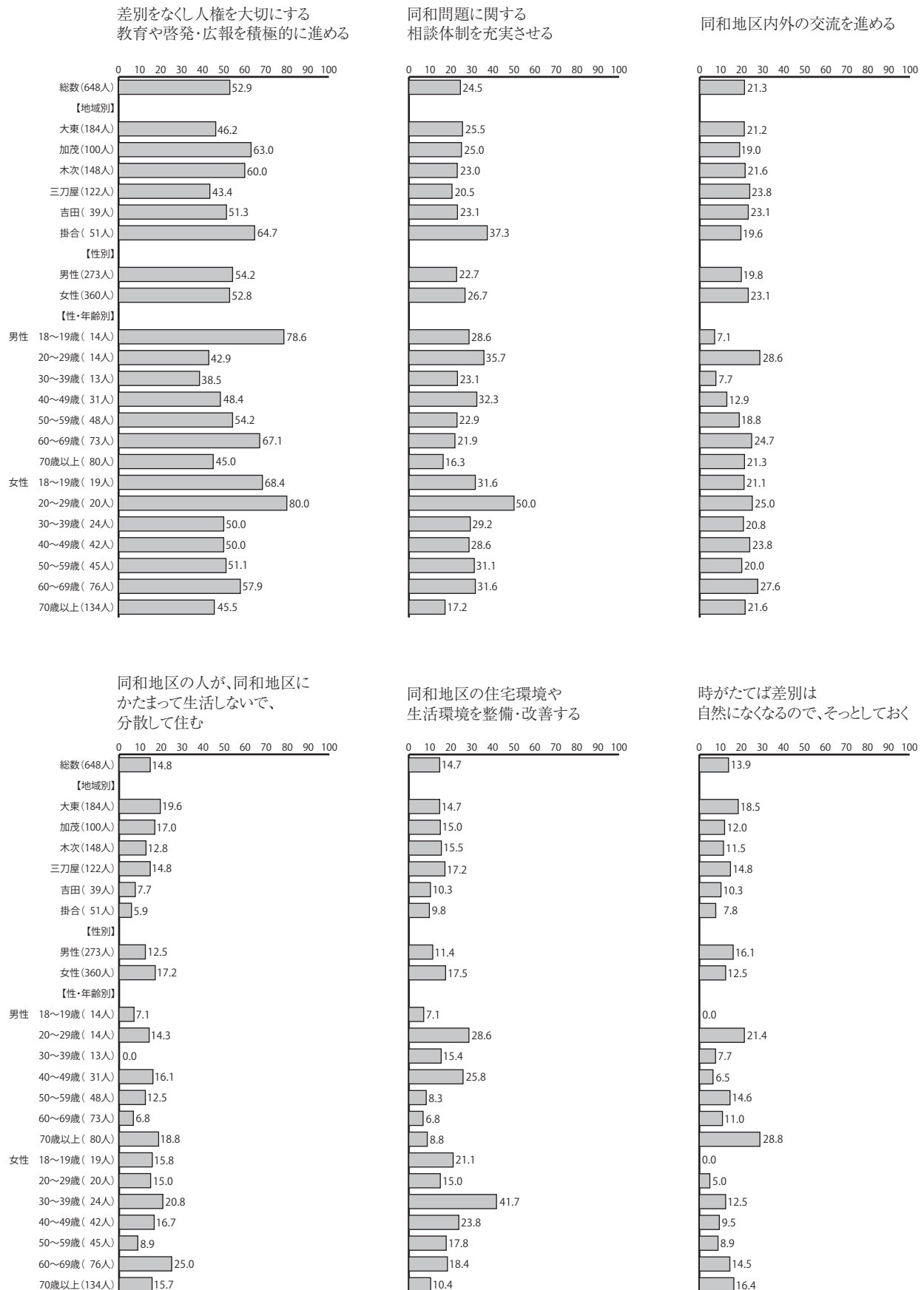
平成28年度県調査結果と比較すると、上位3項目は、いずれも市の方が高くなっている。

地域別でみると、いずれの地区でも「差別をなくし人権を大切にする教育や啓発・広報を積極的に進める」がトップとなっており、掛合町（64.7%）が最も高くなっている。

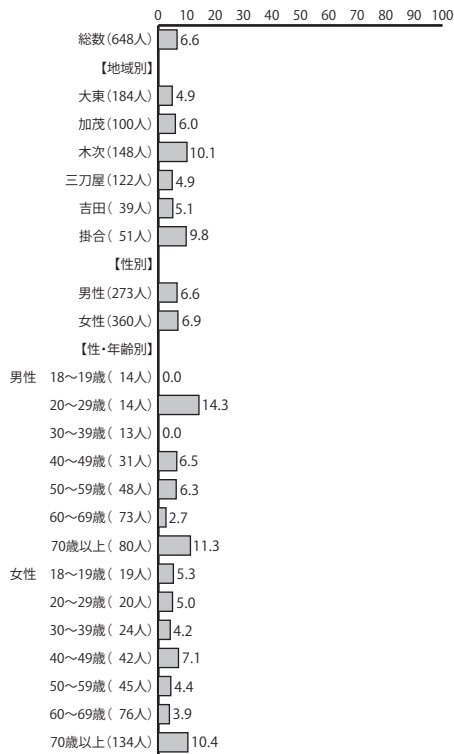
性別でみると、上位6項目のうち「差別をなくし人権を大切にする教育や啓発・広報を積極的に進める」、「時がたてば差別は自然になくなるので、そっとしておく」を除く4項目について、いずれも女性が男性よりも高くなっている。

性・年齢別でみると、「差別をなくし人権を大切にする教育や啓発・広報を積極的に進める」は男性は18～19歳（78.6%）、女性は20歳代（80.0%）で高くなっている。

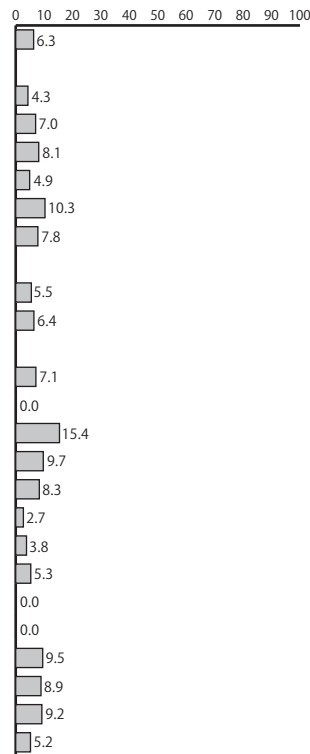
同和問題の解決に必要なこと（特性別）



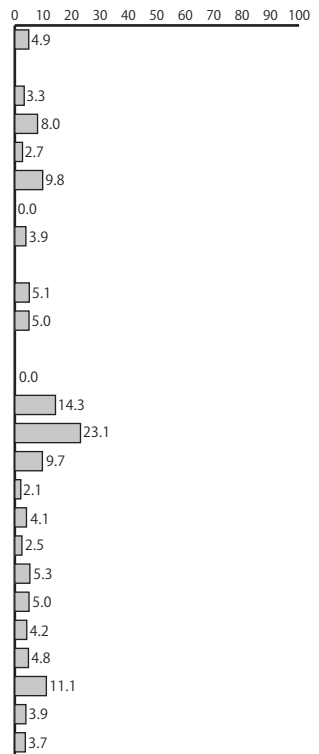
同和地区の人自身が差別を
受けないようにもっと努力する



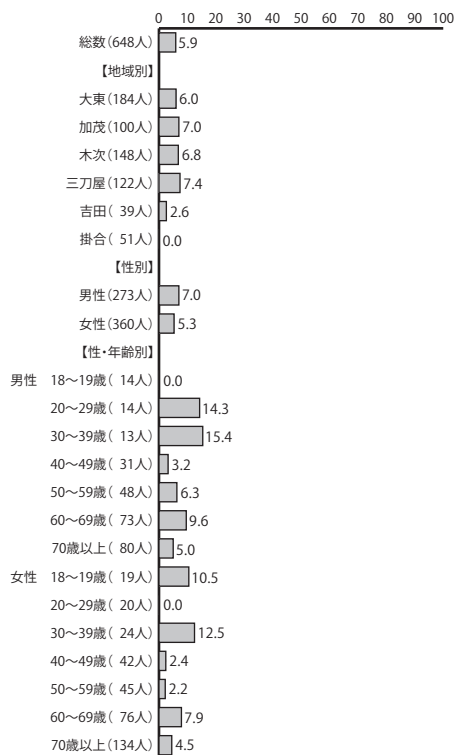
どのようにしても差別はなくなる



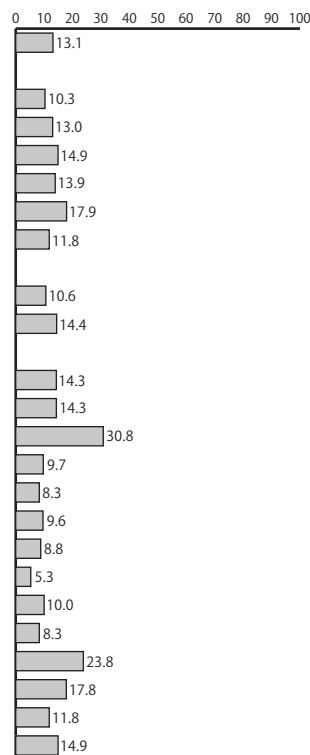
差別をした人を法律で処罰する



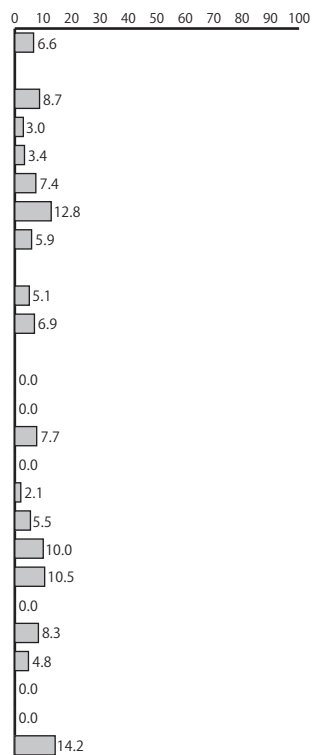
その他



わからない



無回答

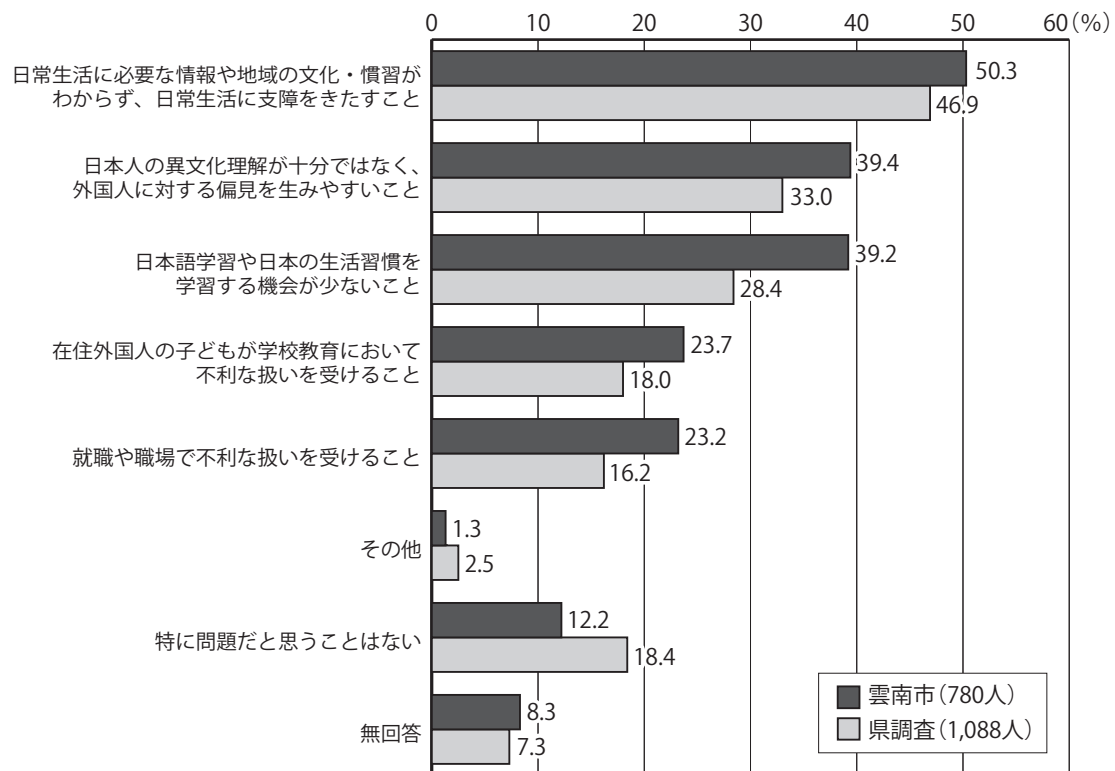


第9章 外国人の人権について

1. 外国人に関する人権上の問題

問19. 日本で生活する外国人の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。

(○はいくつでも)



■「日常生活に必要な情報や地域の文化・慣習がわからず、日常生活に支障をきたすこと」が5割超

この設問は、今回初めて調査した。

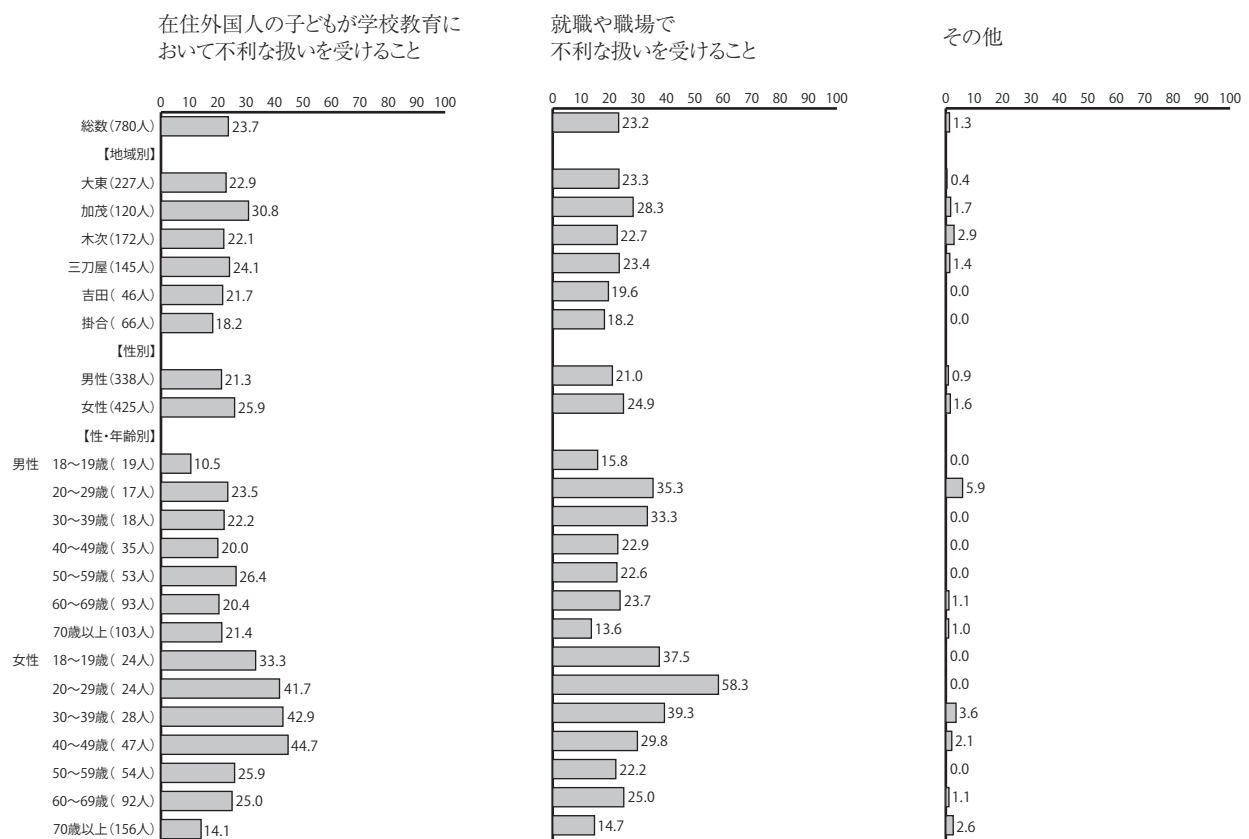
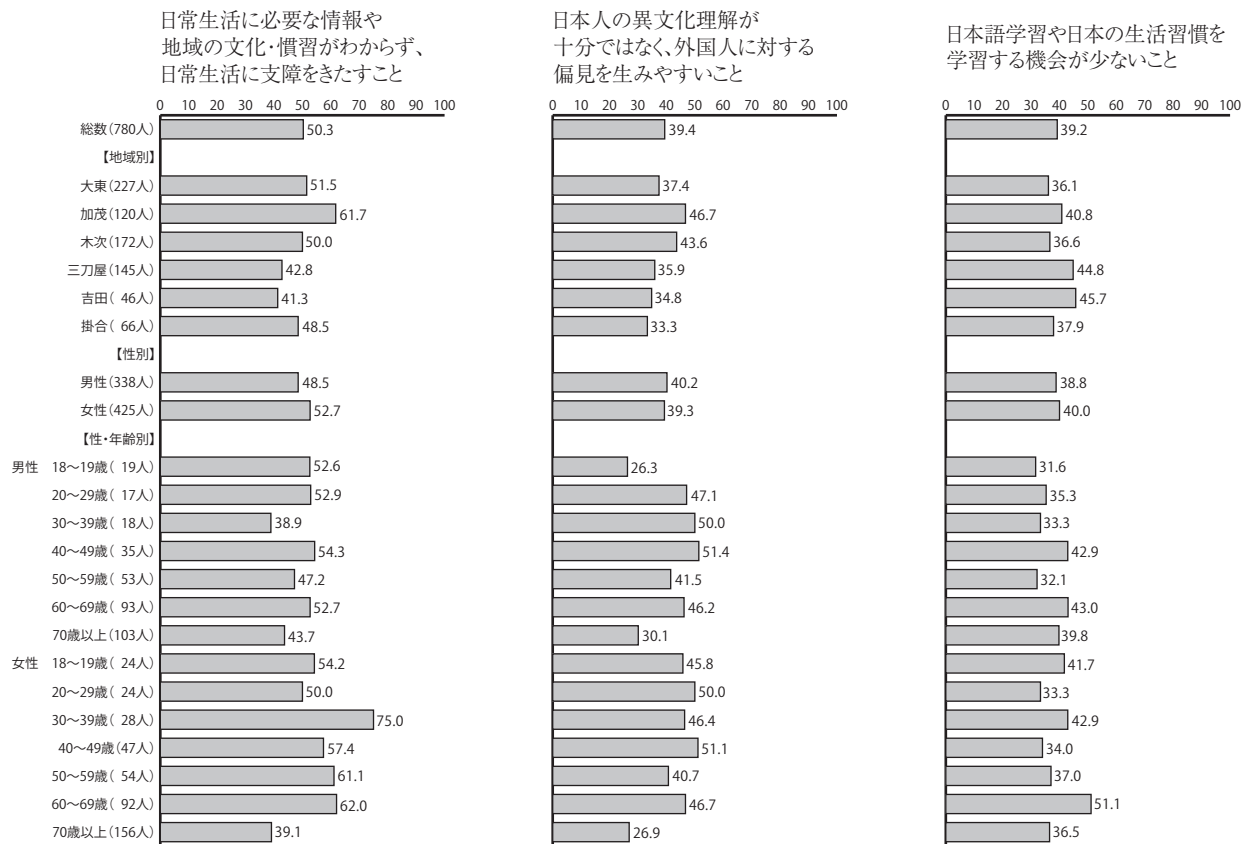
外国人の人権について、特にどのようなことが問題だと思うか聞いたところ、「日常生活に必要な情報や地域の文化・慣習がわからず、日常生活に支障をきたすこと」が50.3%と最も高く、次いで「日本人の異文化理解が十分ではなく、外国人に対する偏見を生みやすいこと」が39.4%、「日本語学習や日本の生活習慣を学習する機会が少ないこと」が39.2%となっている。

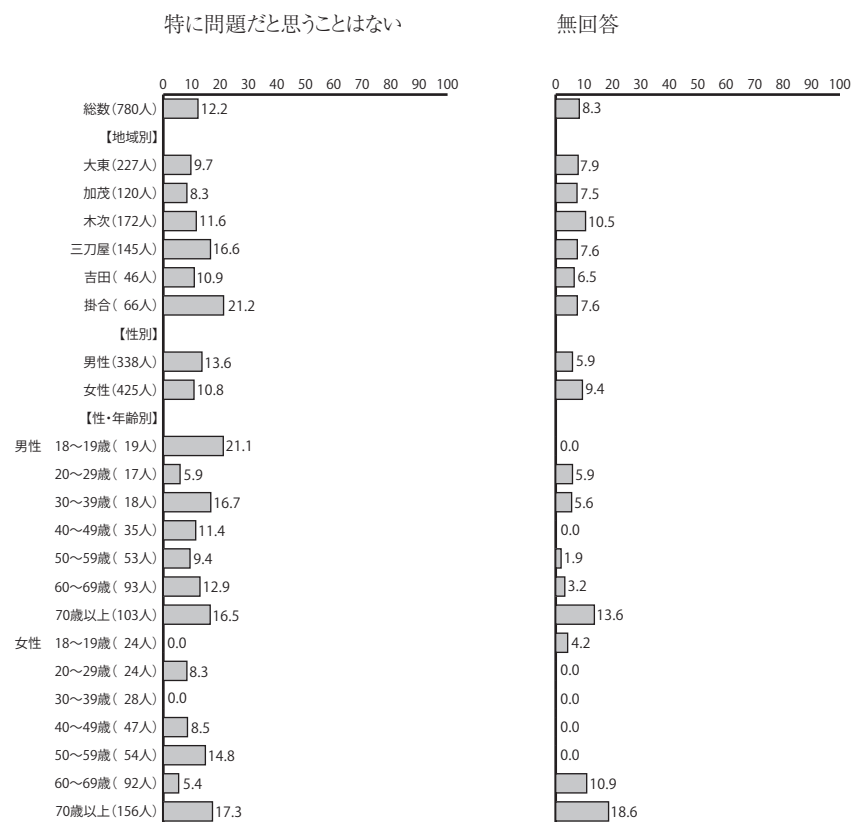
地域別では、「日常生活に必要な情報や地域の文化・慣習がわからず、日常生活に支障をきたすこと」は、加茂町（61.7%）で最も高くなっている。

性別では、「日本人の異文化理解が十分ではなく、外国人に対する偏見を生みやすいこと」と「特に問題だと思うことはない」以外は、いずれも女性が高くなっている。

性・年齢別でみると、「日常生活に必要な情報や地域の文化・慣習がわからず、日常生活に支障をきたすこと」は、女性では70歳以上（39.1%）で、男性では30歳代（38.9%）で低くなっている。

外国人に関する人権上の問題（特性別）

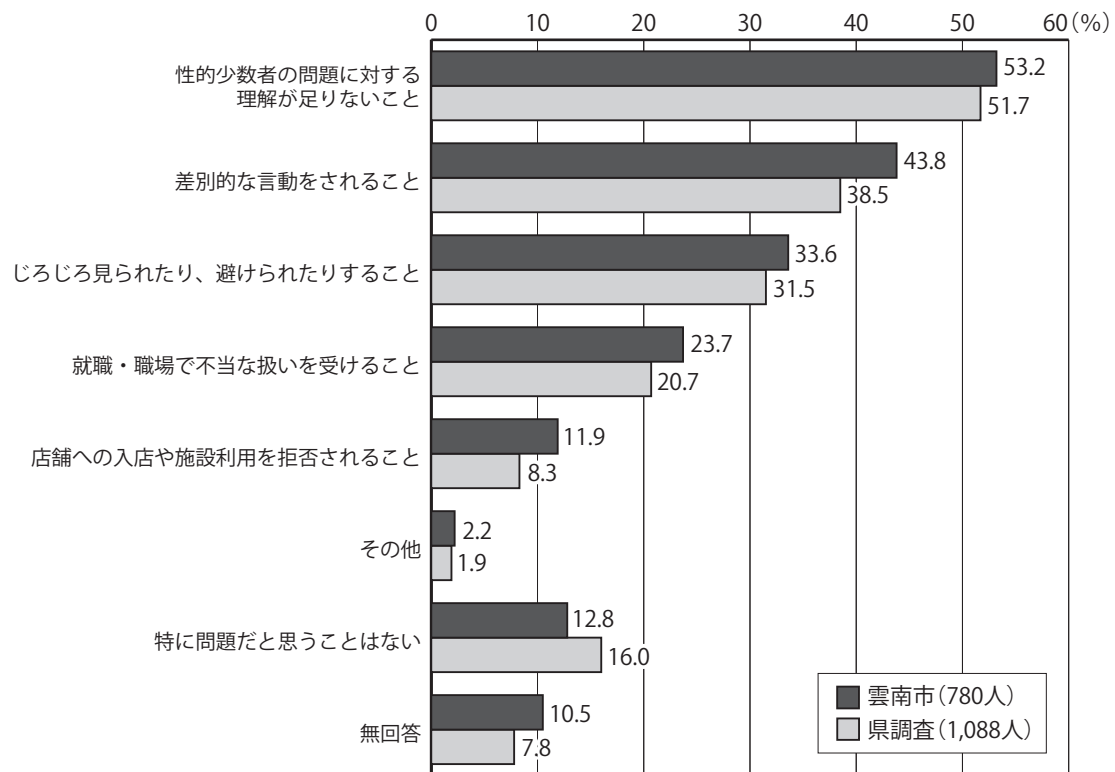




第10章 性的少数者(同性愛、性同一性障がいなど)の人権について

1. 性的少数者(同性愛、性同一性障がいなど)に関する人権上の問題

問20. 同性愛者や両性愛者、「こころの性」と「からだの性」が一致していない人達の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。(〇はいくつでも)



■「性的少数者の問題に対する理解が足りないこと」が5割超

平成27年度の前回調査では、「性同一性障がい者(「からだの性」と「こころの性」が一致しない状態の方)」の人権について調査した。

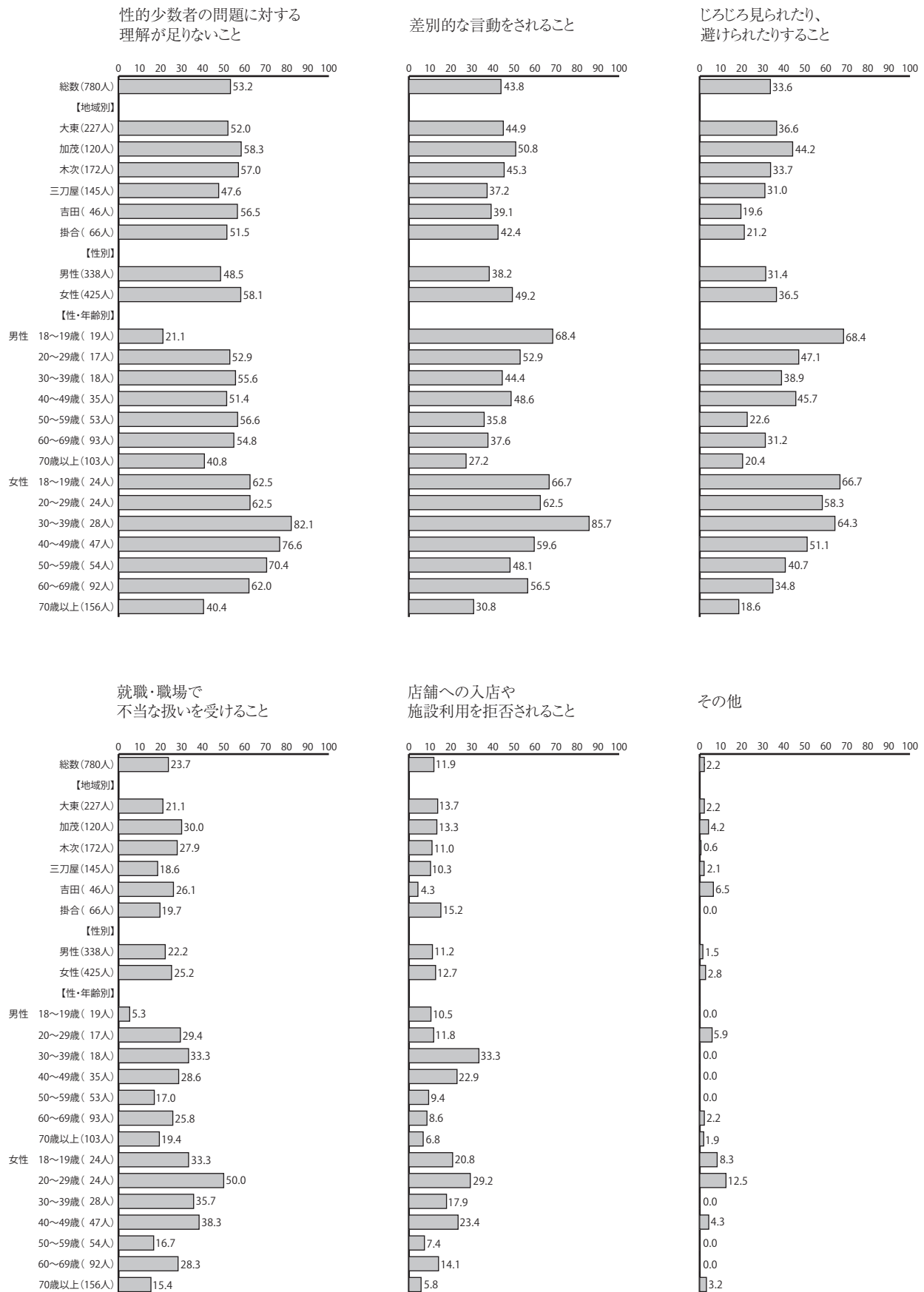
そして今回は、性的少数者(同性愛、性同一性障がいなど)の人権について、特にどのようなことが問題だと思うかを聞いたところ、「性的少数者の問題に対する理解が足りないこと」が53.2%と最も高く、次いで「差別的な言動をされること」が43.8%、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が33.6%となっている。

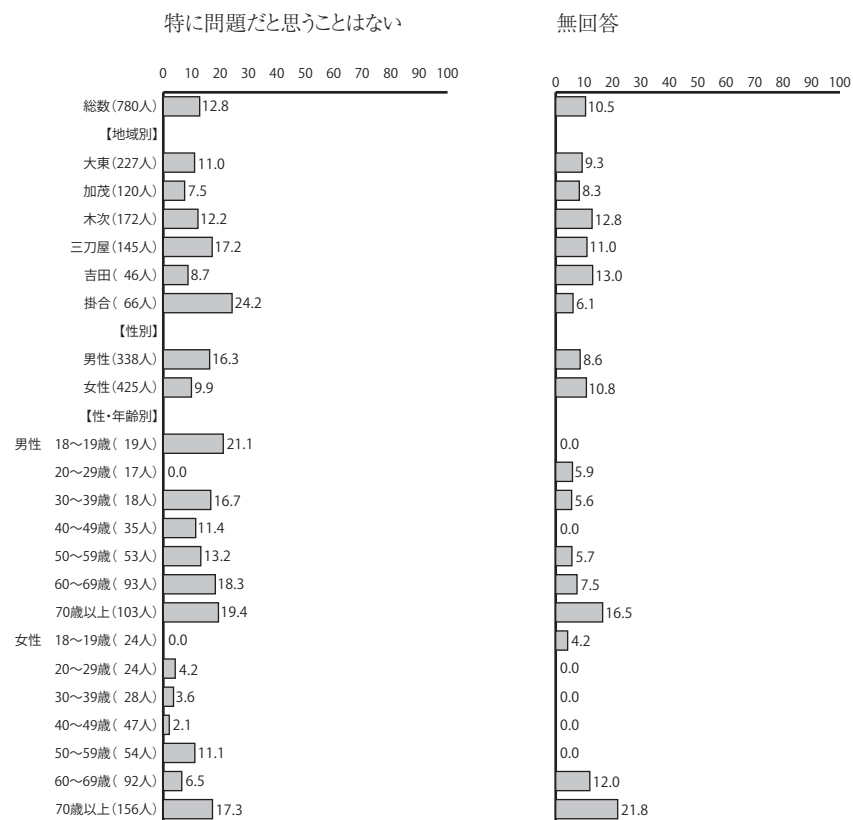
地域別にみると、「性的少数者の問題に対する理解が足りないこと」は、加茂町(58.3%)が最も高くなっている。

性別でみると、問題があるとする具体的な項目は、いずれも女性が男性よりも高くなっている。

性・年齢別でみると、「性的少数者の問題に対する理解が足りないこと」は、女性の30歳代～50歳代で、それぞれ7割を超えている。

性的少数者（同性愛、性同一性障がいなど）に関する人権上の問題（特性別）

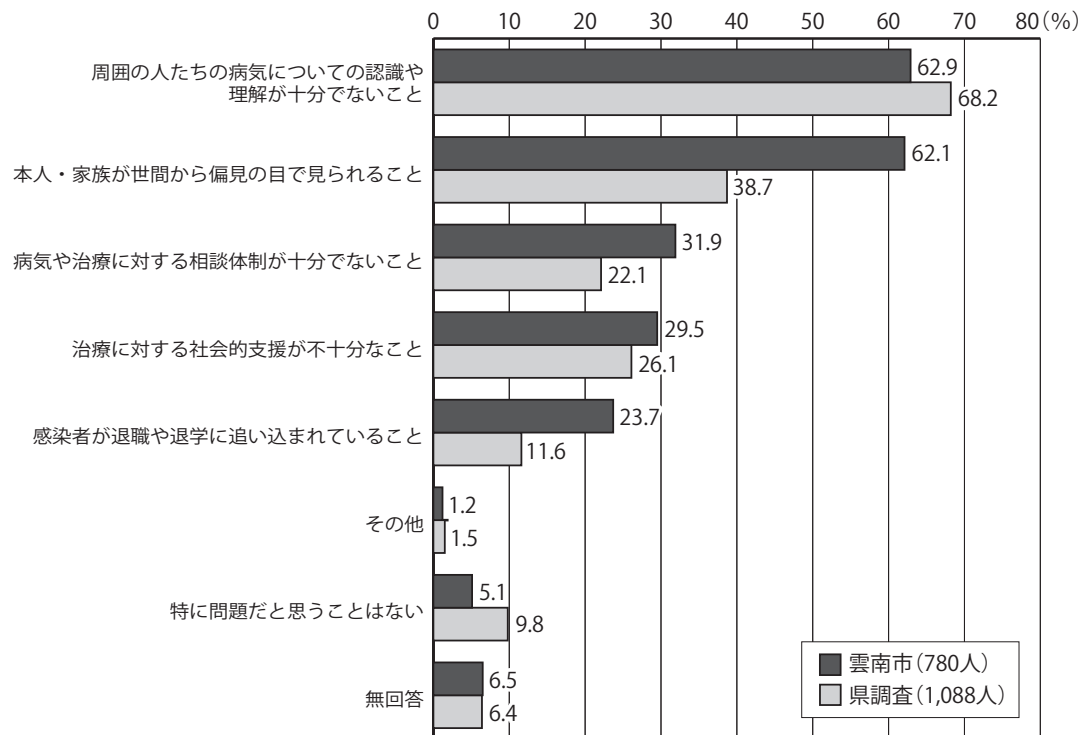




第11章 患者及び感染者等の人権について

1. HIV（エイズの原因ウイルス）感染者、肝炎ウイルス感染者および新型コロナウイルス感染症感染者等に関する人権上の問題

問21. HIV（エイズの原因ウイルス）感染者、肝炎ウイルス感染者および新型コロナウイルス感染症感染者等の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。（○はいくつでも）



■「周囲の人たちの病気についての認識や理解が十分でないこと」が7割弱

HIV（エイズの原因ウイルス）感染者、肝炎ウイルス感染者および新型コロナウイルス感染症感染者等に関する人権について、特にどのようなことが問題だと思うかを聞いたところ、「周囲の人たちの病気についての認識や理解が十分でないこと」が62.9%と高く、以下「本人・家族が世間から偏見の目で見られること」が62.1%、「病気や治療に対する相談体制が十分でないこと」が31.9%となっている。

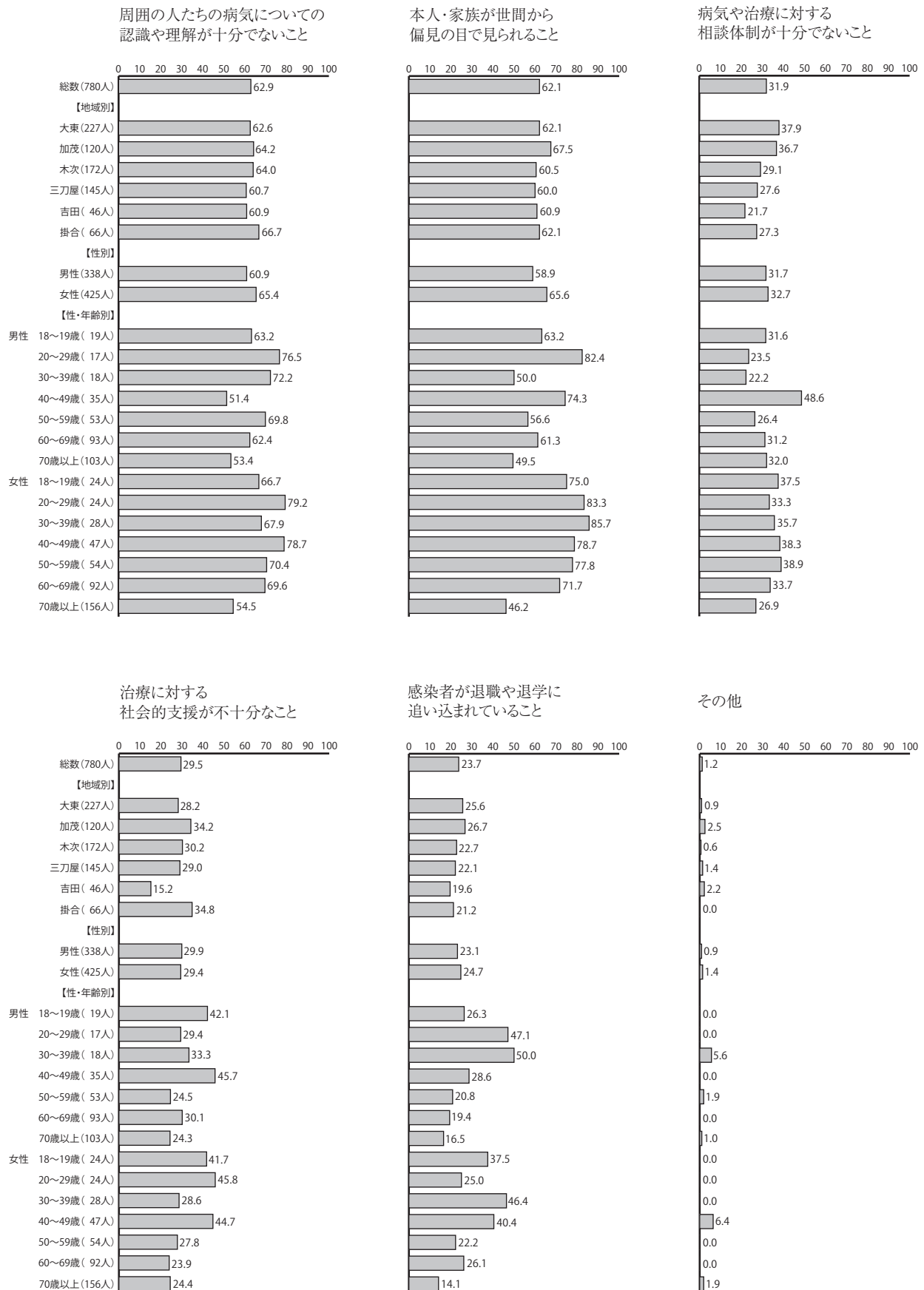
平成28年度県調査と比較すると、「本人・家族が世間から偏見の目で見られること」について、市の方が23.4ポイントも高くなっている。

地域別でみると、「周囲の人たちの病気についての認識や理解が十分でないこと」は、掛合町（66.7%）で最も高くなっている。

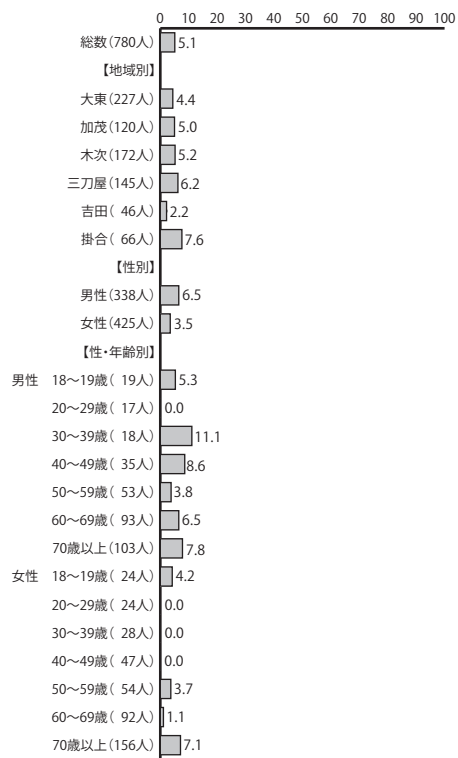
性別では、「周囲の人たちの病気についての認識や理解が十分でないこと」は女性（65.4%）が男性（60.9%）よりも高くなっている。

性・年齢別では、「周囲の人たちの病気についての認識や理解が十分でないこと」は男性の40歳代（51.4%）で最も低くなっている。

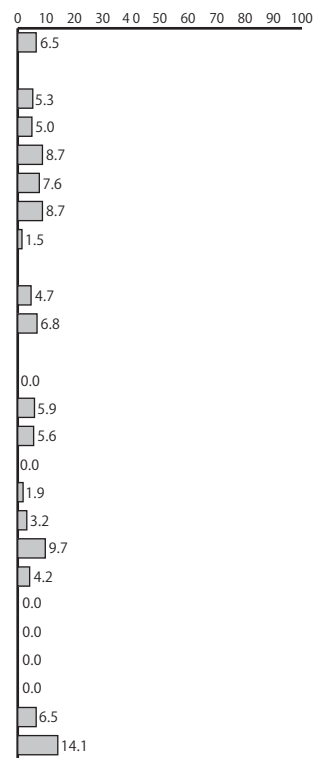
H I V（エイズの原因ウイルス）感染者、肝炎ウイルス感染者および新型コロナウイルス感染症感染者等に関する人権上の問題（特性別）



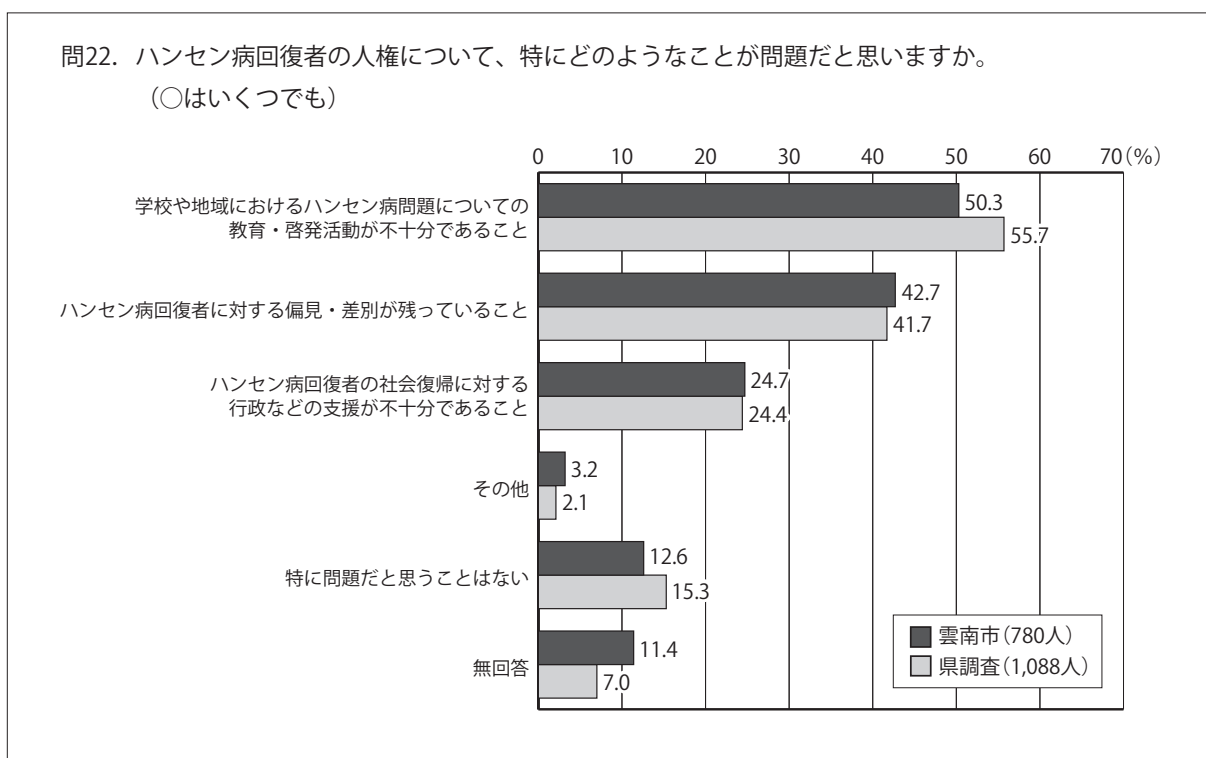
特に問題だと思わない



無回答



2. ハンセン病回復者に関する人権上の問題



■「学校や地域におけるハンセン病問題についての教育・啓発活動が不十分であること」が約5割

ハンセン病回復者の人権について、特にどのようなことが問題だと思うかを聞いたところ、「学校や地域におけるハンセン病問題についての教育・啓発活動が不十分であること」が50.3%と最も高く、次いで「ハンセン病回復者に対する偏見・差別が残っていること」が42.7%、「ハンセン病回復者の社会復帰に対する行政などの支援が不十分であること」が24.7%となっている。

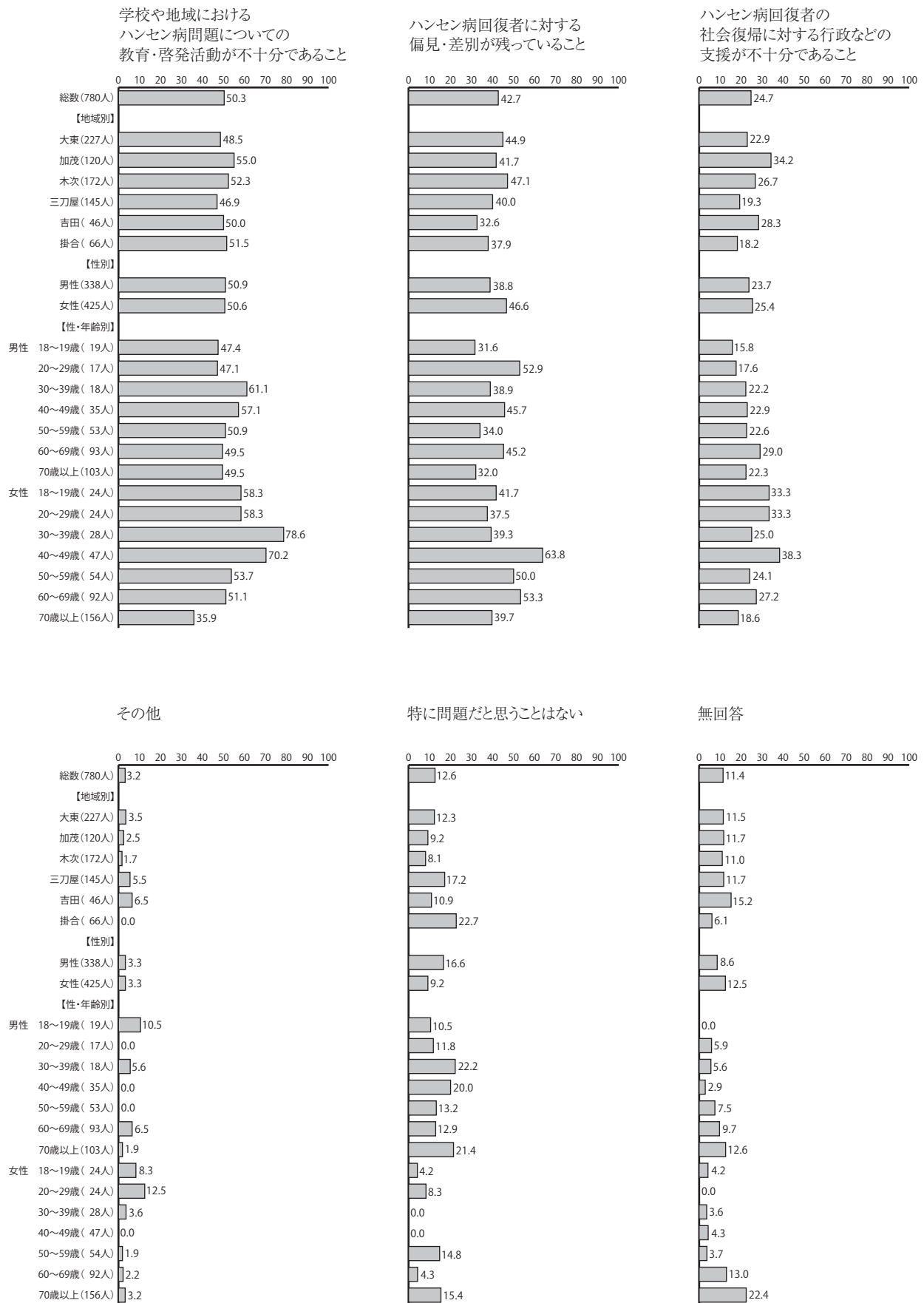
平成28年度調査結果と比較すると、上位3項目のうち「学校や地域におけるハンセン病問題についての教育・啓発活動が不十分であること」を除いて、いずれも市の方が高い。

地域別でみると、「学校や地域におけるハンセン病問題についての教育・啓発活動が不十分であること」は加茂町(55.0%)が最も高くなっている。

性別でみると、「学校や地域におけるハンセン病問題についての教育・啓発活動が不十分であること」は男女の差はほとんどない。

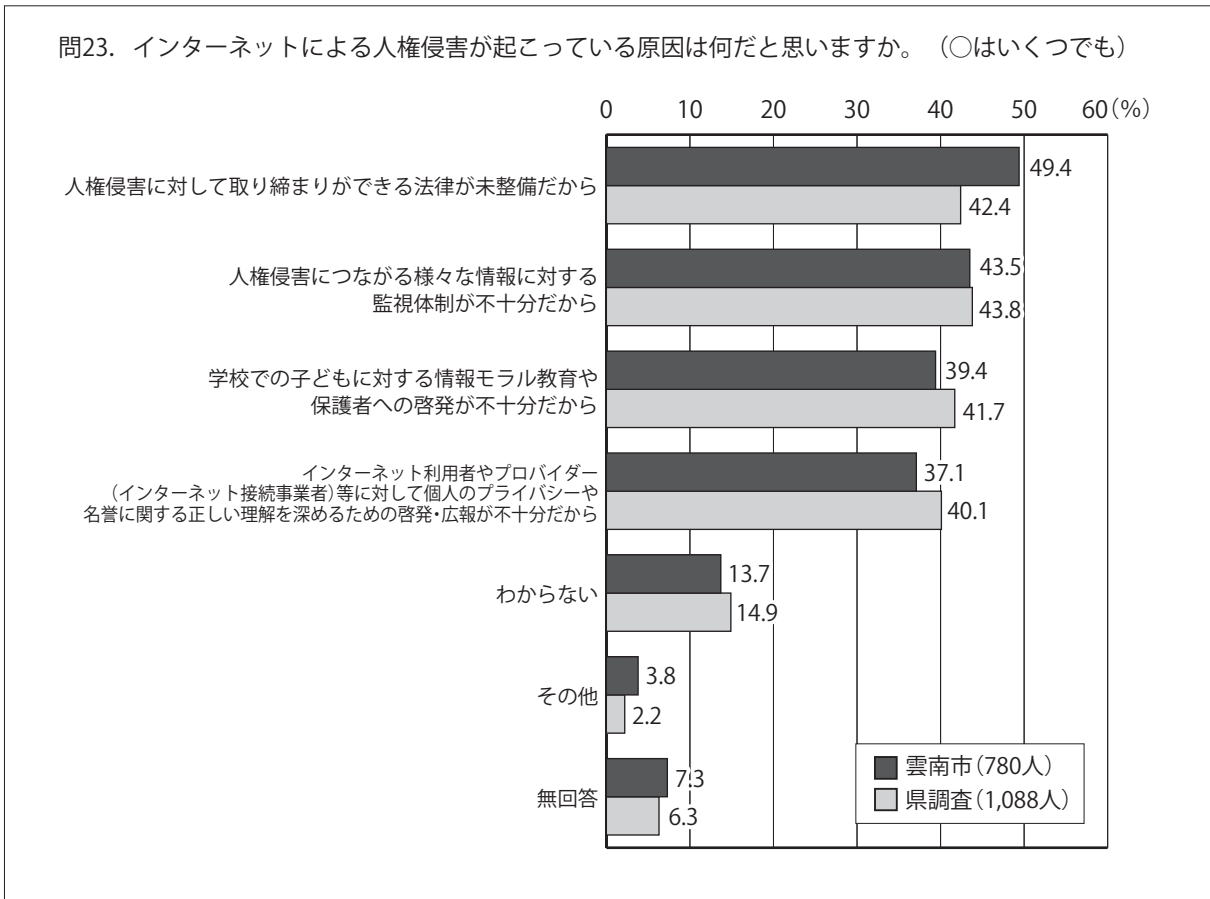
性・年齢別でみると、「学校や地域におけるハンセン病問題についての教育・啓発活動が不十分であること」は、男性では30歳代(61.1%)、女性では30歳代(78.6%)で高くなっている。

ハンセン病回復者に関する人権上の問題（特性別）



第12章 インターネットによる人権侵害について

1. インターネットによる人権侵害が起こっている原因



■具体的な項目についてはいずれも4割超

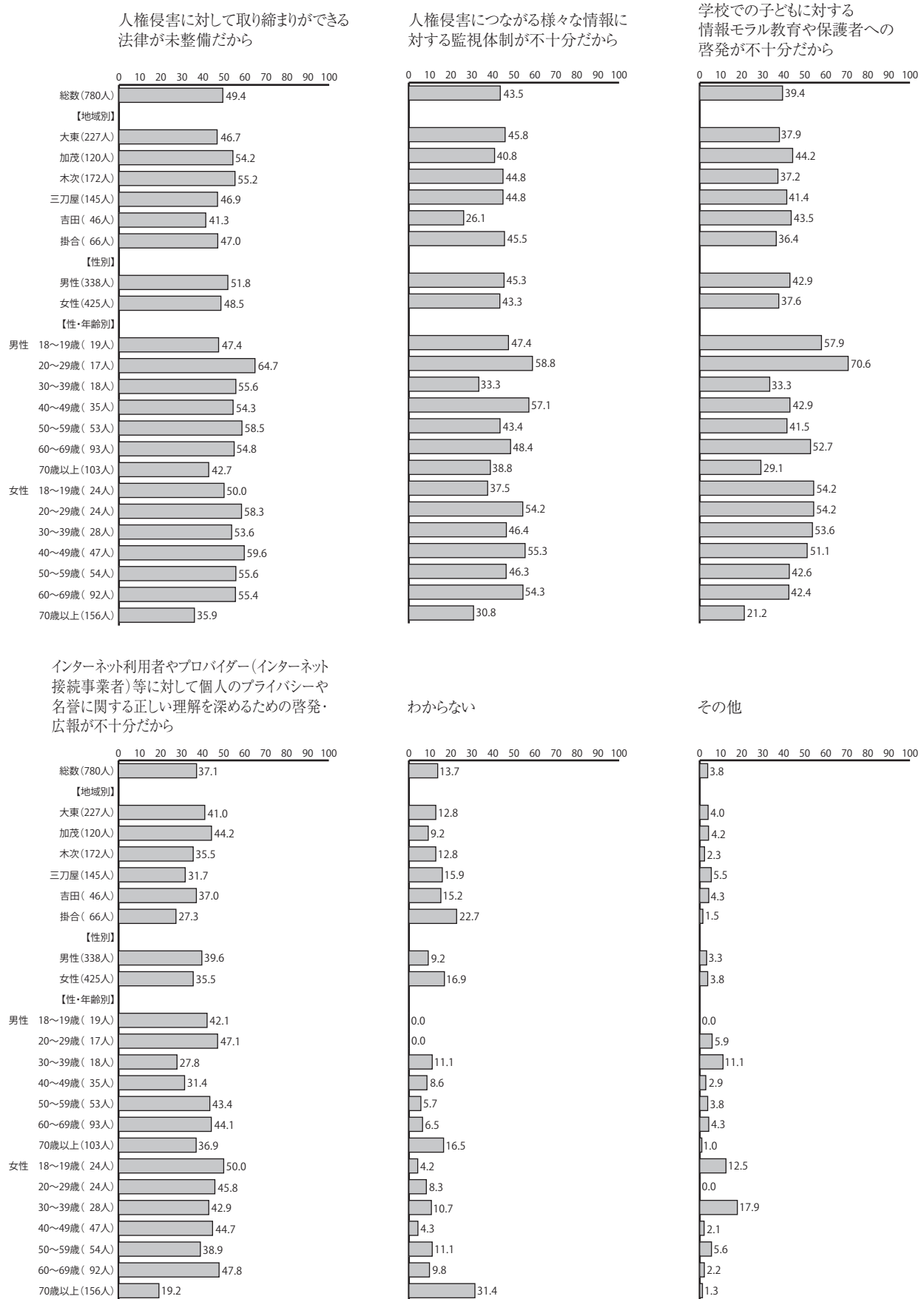
インターネットによる人権侵害が起こっていることについて、特にどのようなことが問題だと思いかを聞いたところ、「人権侵害に対して取り締まりができる法律が未整備だから」が49.4%と最も高く、次いで「人権侵害につながる様々な情報に対する監視体制が不十分だから」が43.5%、「学校での子どもに対する情報モラル教育や保護者への啓発が不十分だから」が39.4%となっている。

地域別でみると、「人権侵害に対して取り締まりができる法律が未整備だから」は木次町（55.2%）で最も高くなっている。

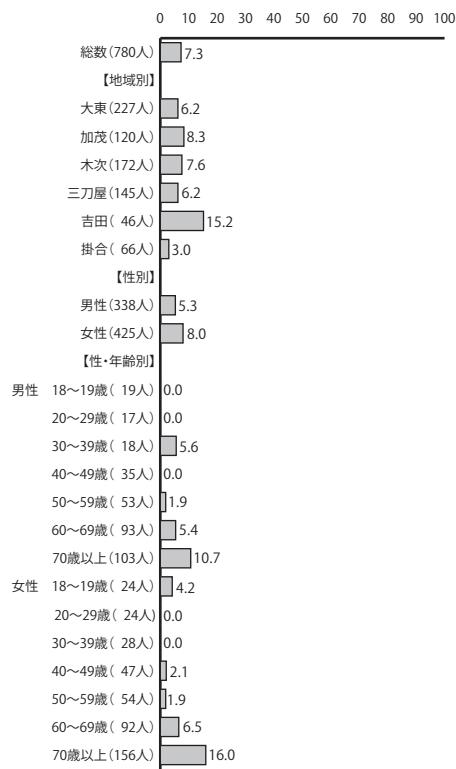
性別でみると、「人権侵害に対して取り締まりができる法律が未整備だから」、「人権侵害につながる様々な情報に対する監視体制が不十分だから」、「学校での子どもに対する情報モラル教育や保護者への啓発が不十分だから」、「インターネット利用者やプロバイダー（インターネット接続事業者）等に対して個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための啓発・広報が不十分だから」の4項目では男性が女性よりも高くなっている。

性・年齢別でみると、「人権侵害に対して取り締まりができる法律が未整備だから」は20歳代男性（64.7%）、40歳代女性（59.6%）が高くなっている。

インターネットによる人権侵害が起こっている原因（特性別）



無回答

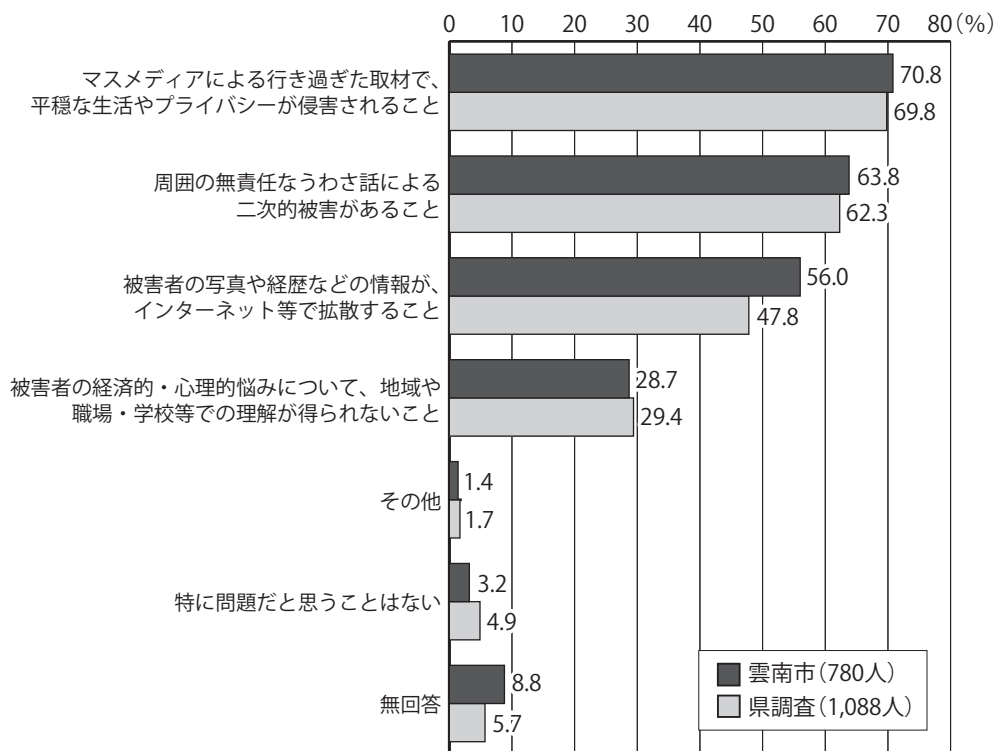


第13章 犯罪被害者とその家族の人権について

1. 犯罪被害者とその家族に関する人権上の問題

問24. 犯罪被害者とその家族の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。

(○はいくつでも)



■「マスメディアによる行き過ぎた取材で、平穏な生活やプライバシーが侵害されること」が7割超

犯罪被害者とその家族の人権について、特にどのようなことが問題だと思うかを聞いたところ、「マスメディアによる行き過ぎた取材で、平穏な生活やプライバシーが侵害されること」が70.8%と最も高く、次いで「周囲の無責任なうわさ話による二次的被害があること」が63.8%、「被害者の写真や経歴などの情報が、インターネット等で拡散すること」が56.0%となっている。

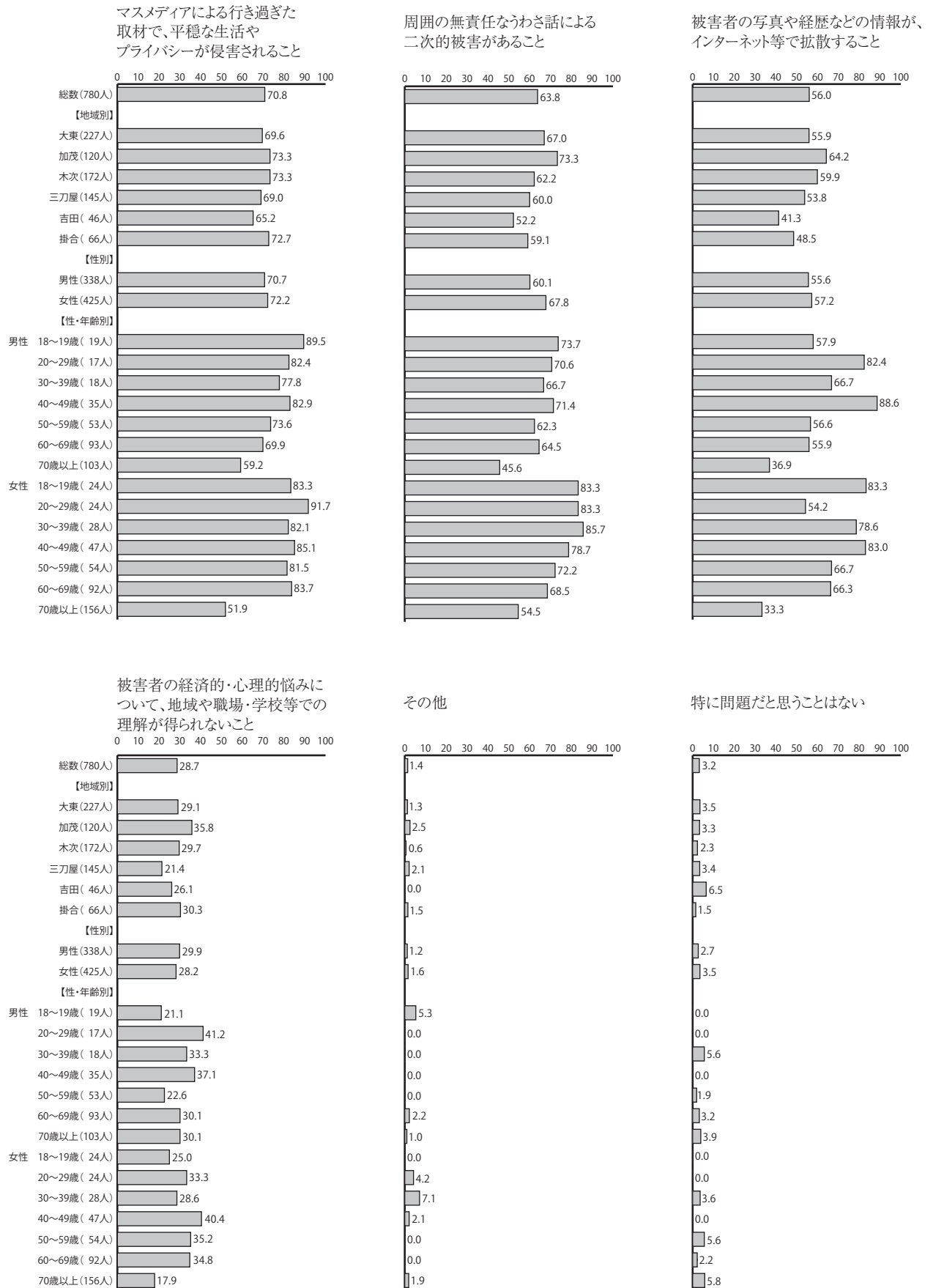
平成28年度県調査結果と比較すると、上位3項目について、いずれも市の方が高くなっている。

地域別でみると、「マスメディアによる行き過ぎた取材で、平穏な生活やプライバシーが侵害されること」は加茂町と木次町（73.3%）が最も高くなっている。

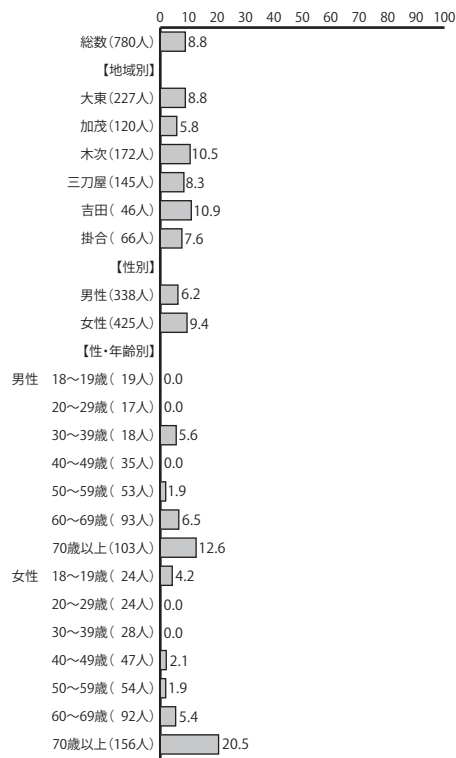
性別でみると、上位3項目はいずれも女性が男性より高くなっている。

性・年齢別でみると、「マスメディアによる行き過ぎた取材で、平穏な生活やプライバシーが侵害されること」は男性では18～19歳（89.5%）、女性では20歳代（91.7%）が高くなっている。

犯罪被害者とその家族に関する人権上の問題（特性別）



無回答

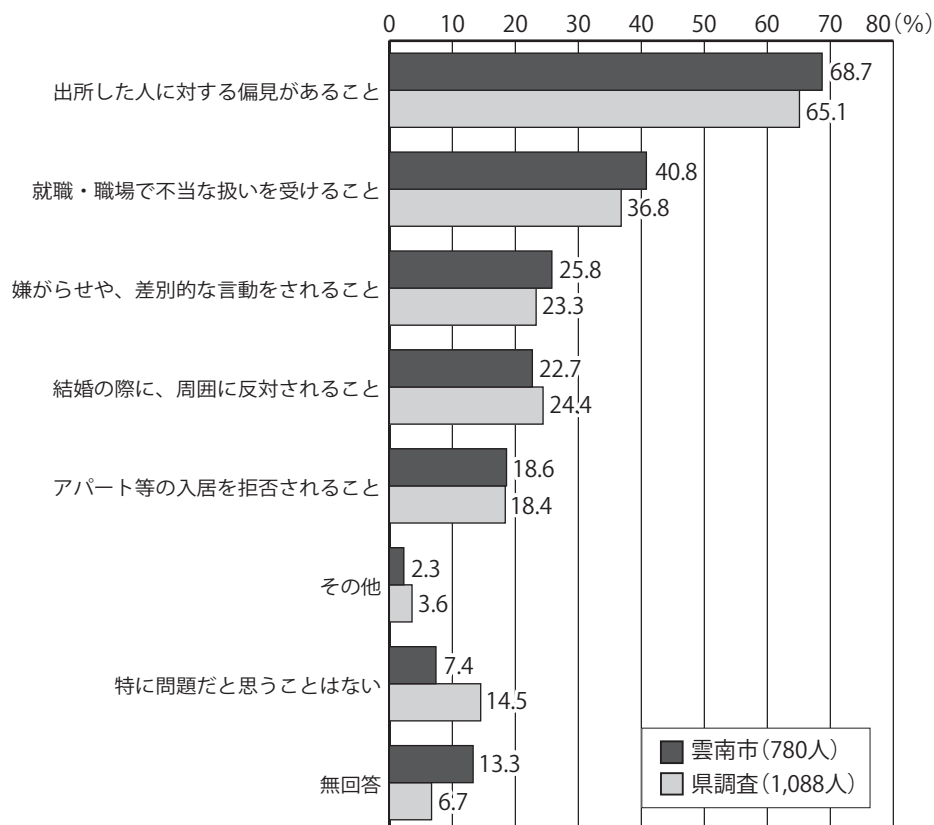


第14章 刑を終えて出所した人の人権について

1. 刑を終えて出所した人に関する人権上の問題

問25. 刑を終えて出所した人の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。

(○はいくつでも)



■「出所した人に対する偏見があること」が6割超

刑を終えて出所した人の人権について、特にどのようなことが問題だと思うかを聞いたところ、「出所した人に対する偏見があること」が68.7%と最も高く、次いで「就職・職場で不当な扱いを受けること」が40.8%、「嫌がらせや、差別的な言動をされること」が25.8%となっている。

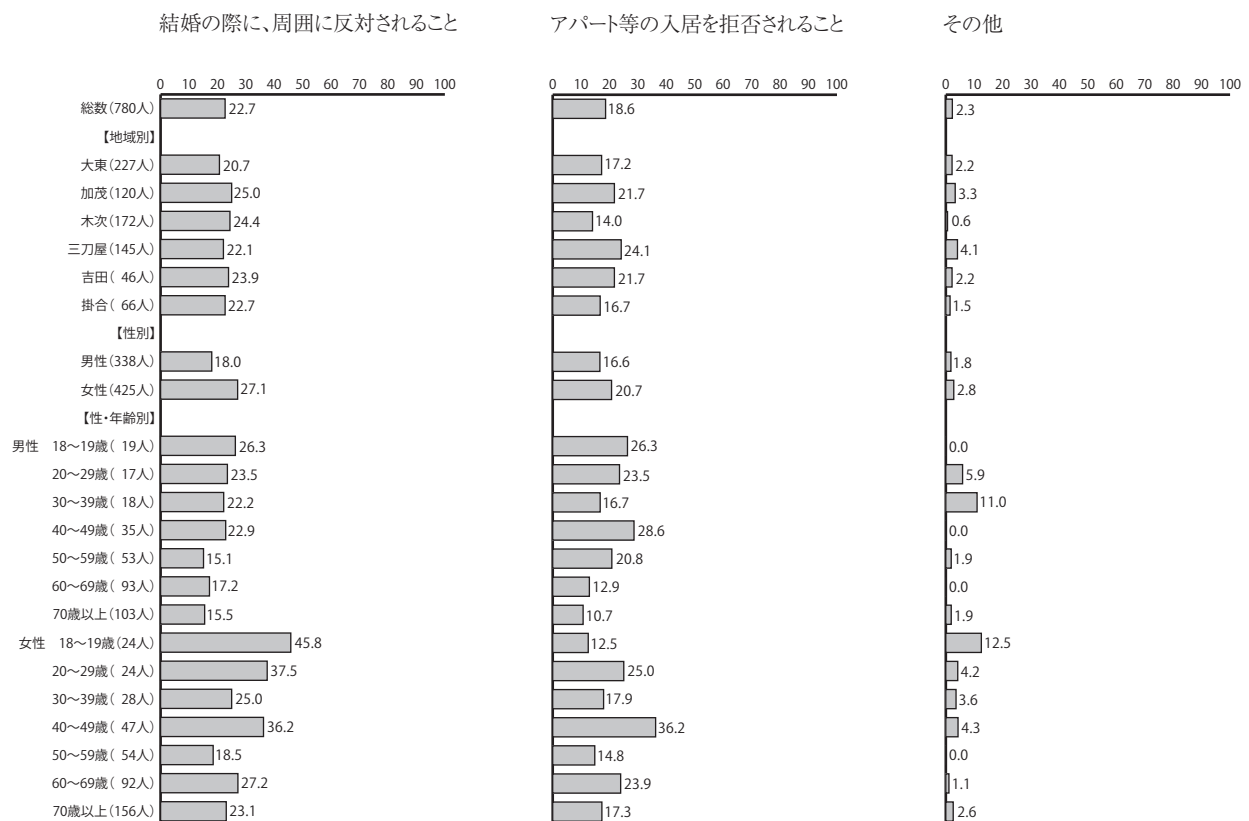
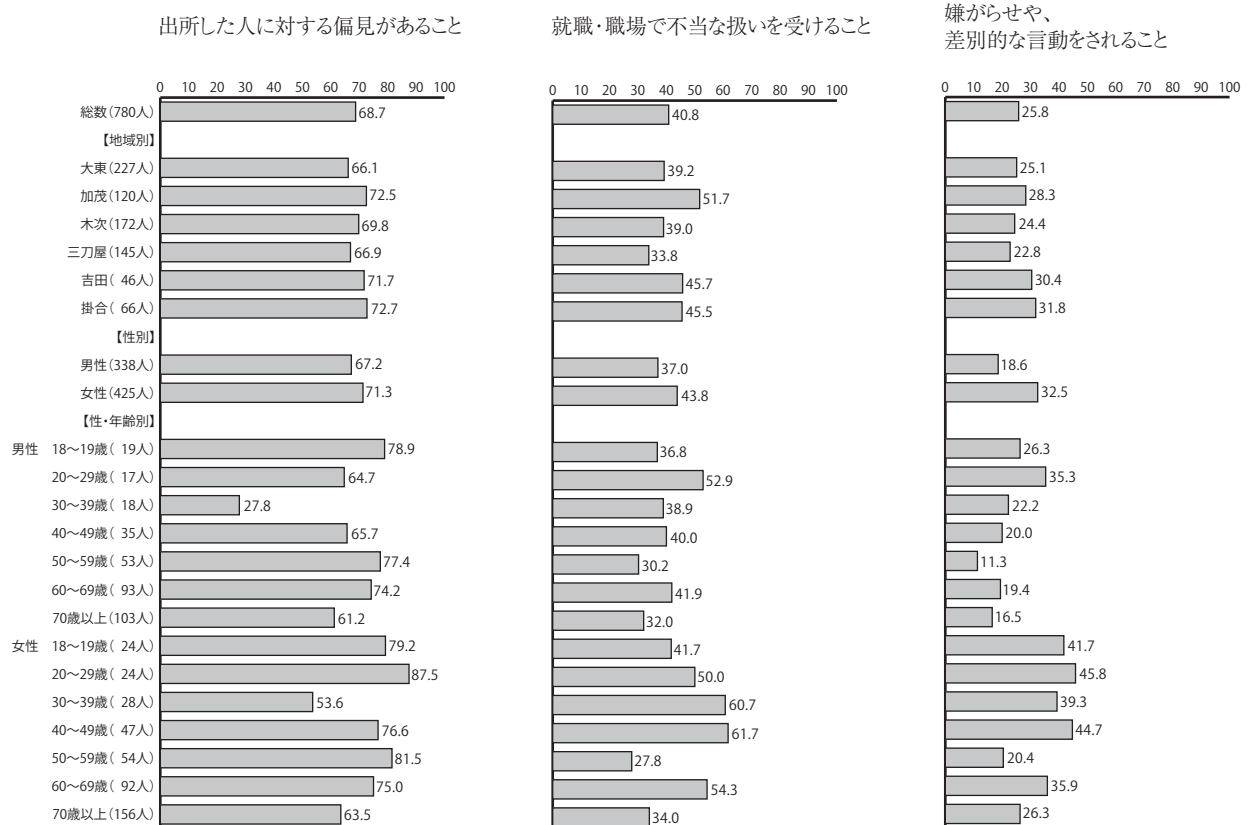
平成28年度調査結果と比較すると、上位3項目すべてで、市の方が高くなっている。

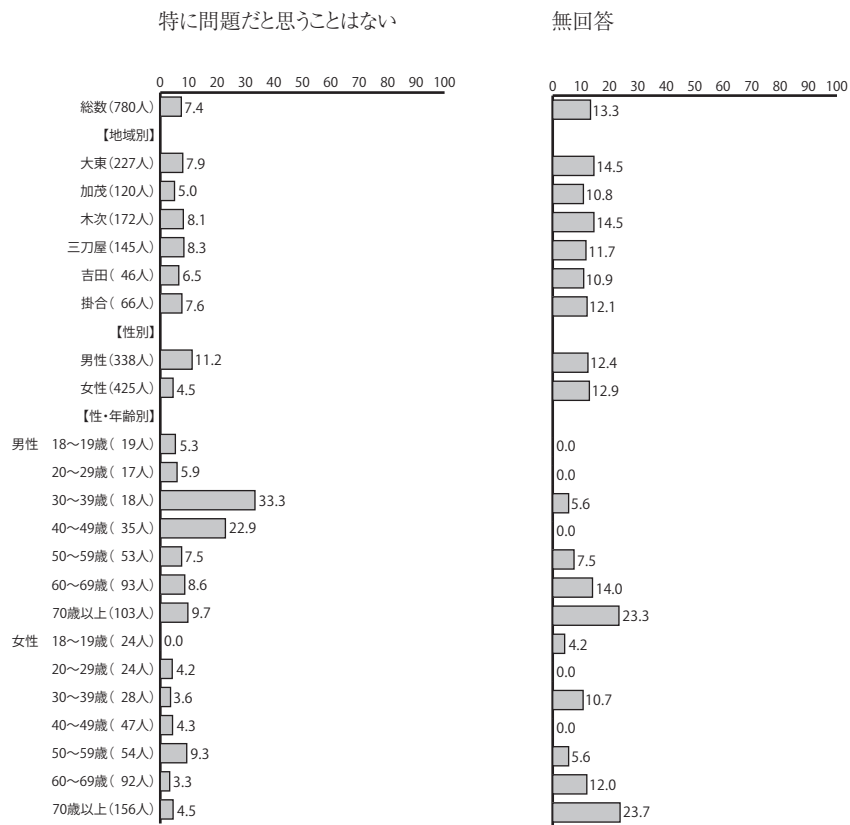
地域別では、「出所した人に対する偏見があること」は、掛合町(72.7%)が最も高くなっている。

性別でみると、問題があるとする具体的な項目についてはいずれも女性が男性よりも高くなっている。

性・年齢別では、「出所した人に対する偏見があること」は女性の20歳代(87.5%)で高く、男性では18～19歳(78.9%)で高くなっている。

刑を終えて出所した人に関する人権上の問題（特性別）

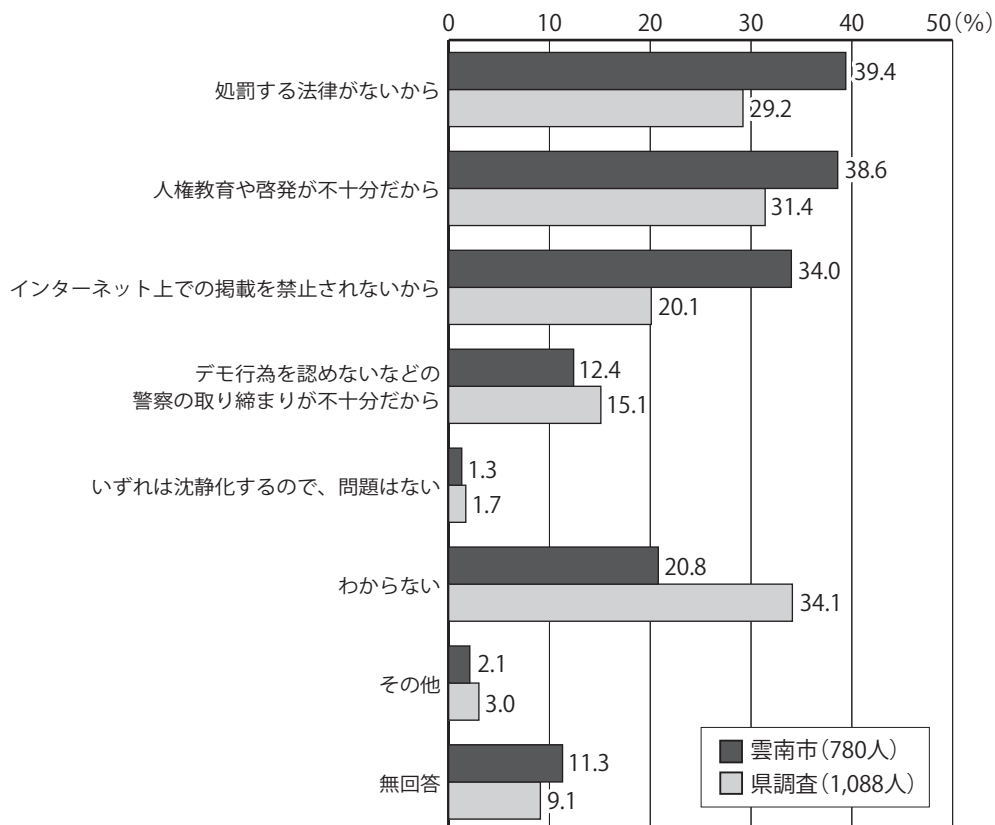




第15章 ヘイトスピーチ(差別をあおる憎悪表現)について

1. ヘイトスピーチがなくなる原因

問26. ヘイトスピーチ(差別をあおる憎悪表現)がなくなるのは、何が問題だと思いますか。
(〇はいくつでも)



■「処罰する法律がないから」、「人権教育や啓発が不十分だから」、「インターネット上での掲載を禁止されないから」が3割超

この設問は、今回初めて調査した。

ヘイトスピーチがなくなる原因について、特にどのようなことが問題だと思うかを聞いたところ、「処罰する法律がないから」が39.4%、次いで「人権教育や啓発が不十分だから」が38.6%、「インターネット上での掲載を禁止されないから」が34.0%となっている。

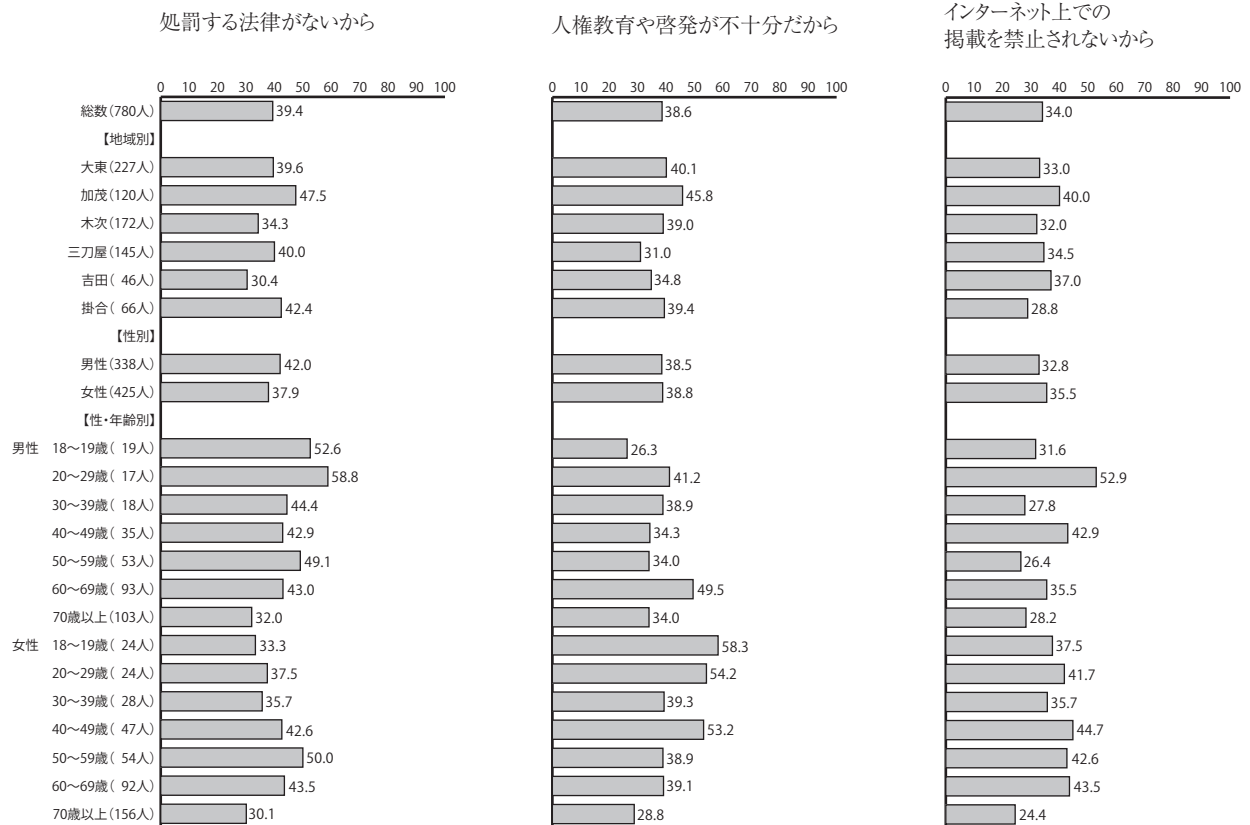
平成28年度県調査と比べると、上位3項目について、市の方がいずれも高くなっている。また「わからない」については、県の方が13.3%ポイント高くなっている。

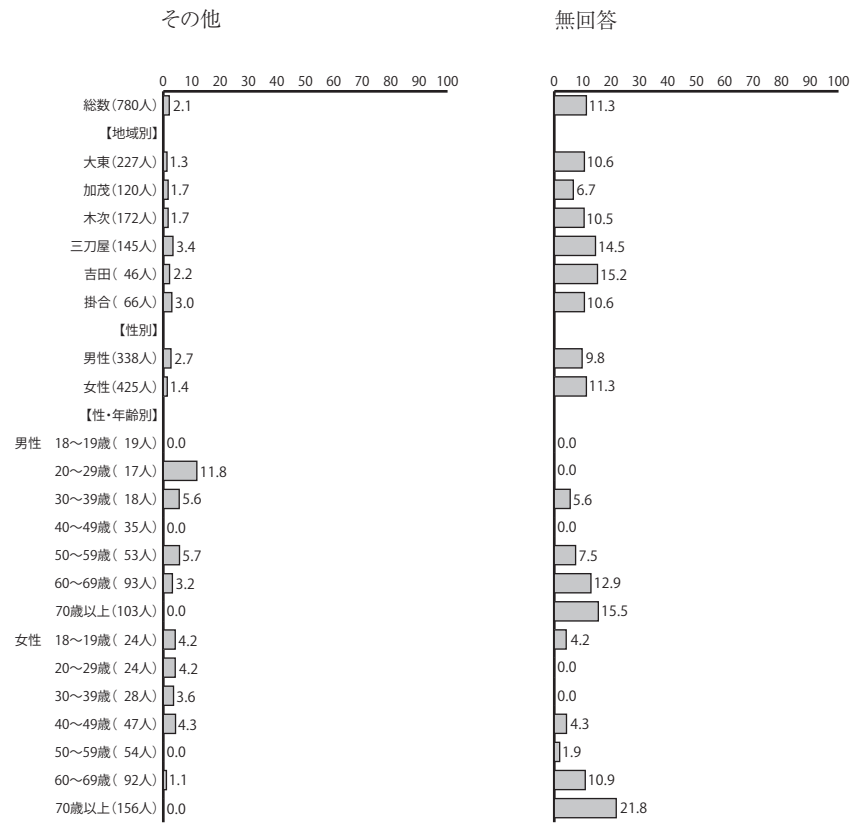
地域別でみると、「処罰する法律がないから」は、加茂町(47.5%)が最も高くなっている。

性別でみると、「処罰する法律がないから」は、女性よりも男性の方が4.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「処罰法律がないから」は、男性では20歳代(58.8%)、女性では50歳代(50.0%)で高くなっている。

ヘイトスピーチがなくなる原因（特性別）



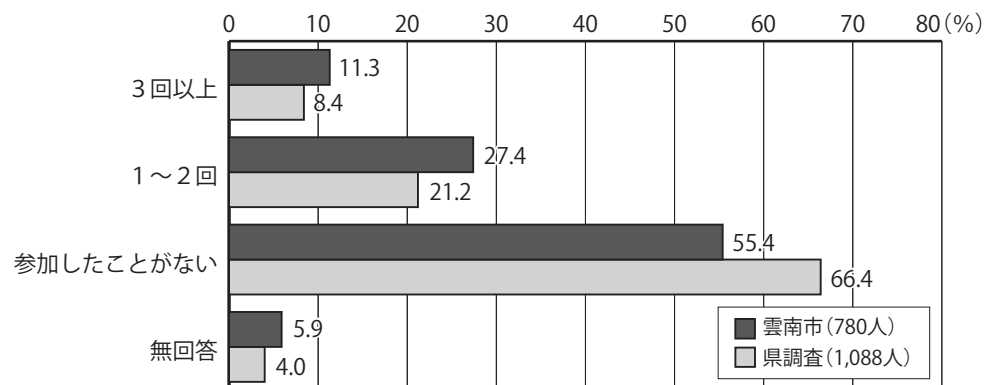


第16章 研修の参加状況について

1. 過去3年間における研修会等の参加回数

問27. あなたは、過去3年くらいの間に、人権問題に関する講演会や研修会に、何回くらい参加しましたか。（〇はひとつ）

過去3年間における研修会等の参加回数（県との比較）



■「参加したことがない」が5割超

この設問は、今回初めて調査した。

過去3年間における研修会等の参加回数を聞いたところ、「参加したことがない」が55.4%と最も高く、次いで「1～2回」が27.4%、「3回以上」が11.3%となっている。

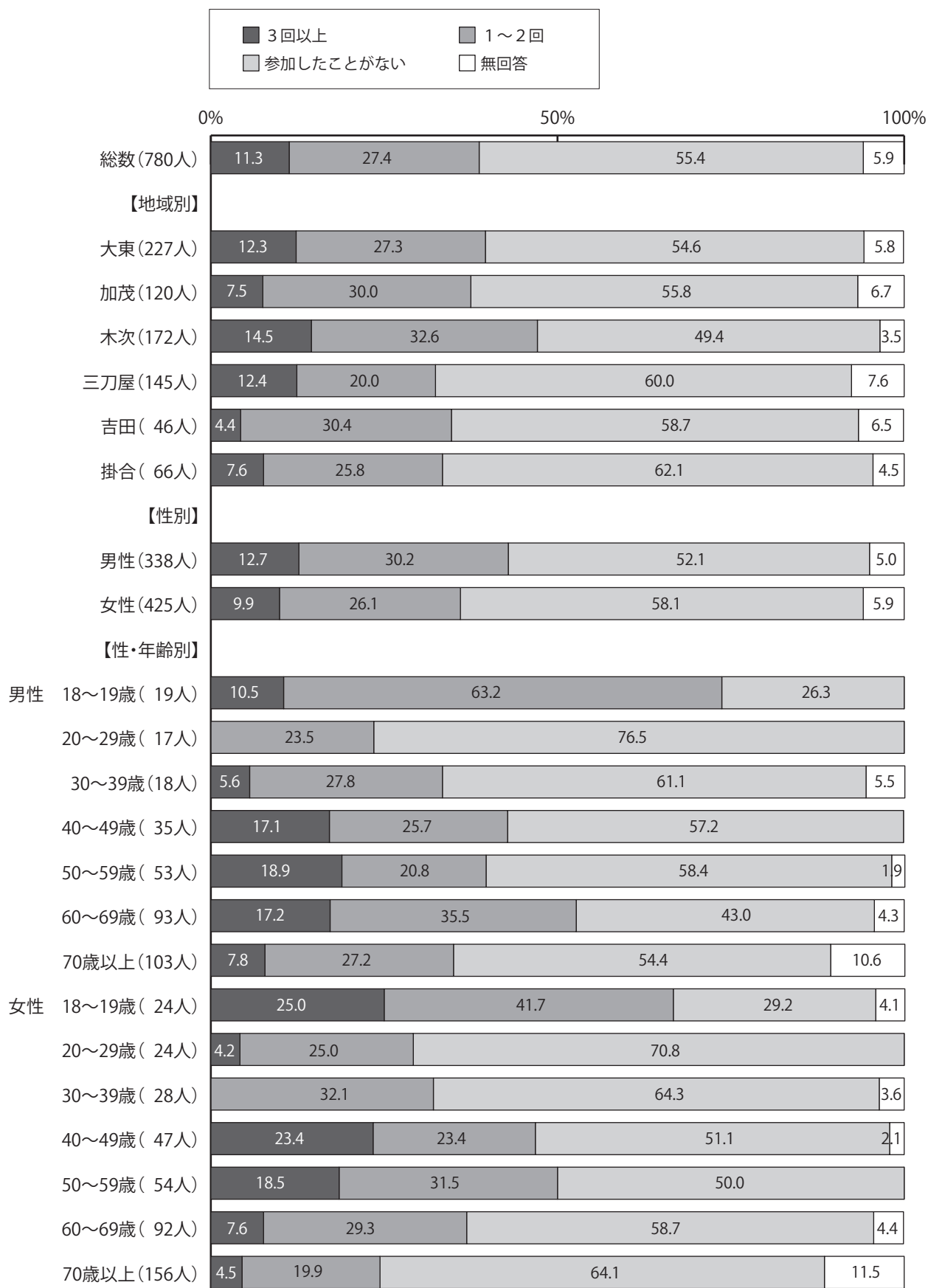
地域別でみると、「参加したことがない」は掛合町（62.1%）が最も高く、次いで三刀屋町（60.0%）となっている。

性別でみると「参加したことがない」は、男性より女性が6ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「参加したことがない」は男性の20歳代（76.5%）が最も高い。女性では20歳代（70.8%）で高くなっている。

平成28年度県調査と比較すると、研修会等へ参加した割合は、市の方が高い。

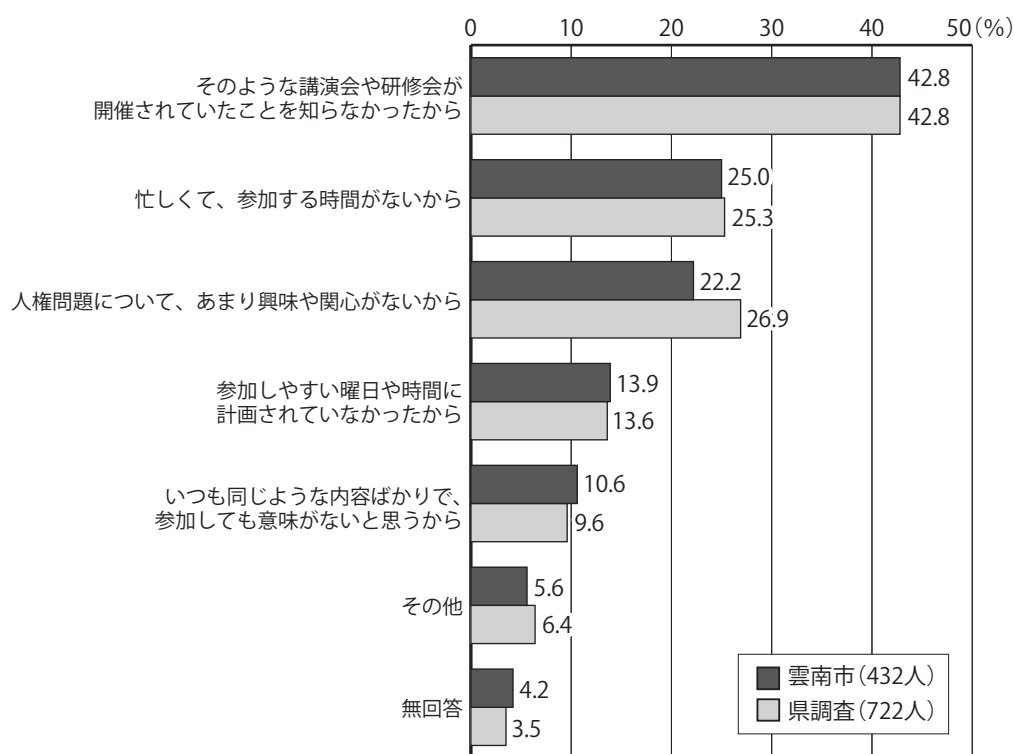
過去3年間における研修会等の参加回数（特性別）



2. 参加しなかった理由

問27の2. 問27で「参加したことがない」を選ばれた方におたずねします。

参加されなかった理由は何ですか。（○はいくつでも）



■「そのような講演会や研修会が開催されていたことを知らなかったから」が4割超

この設問は、今回初めて調査した。

問27で「参加したことがない」を選ばれた方に、参加しなかった理由について聞いたところ、「そのような講演会や研修会が開催されていたことを知らなかったから」が42.8%で最も高く、次いで「忙しくて参加する時間がないから」が25.0%、「人権問題について、あまり興味や関心がないから」が22.2%となっている。

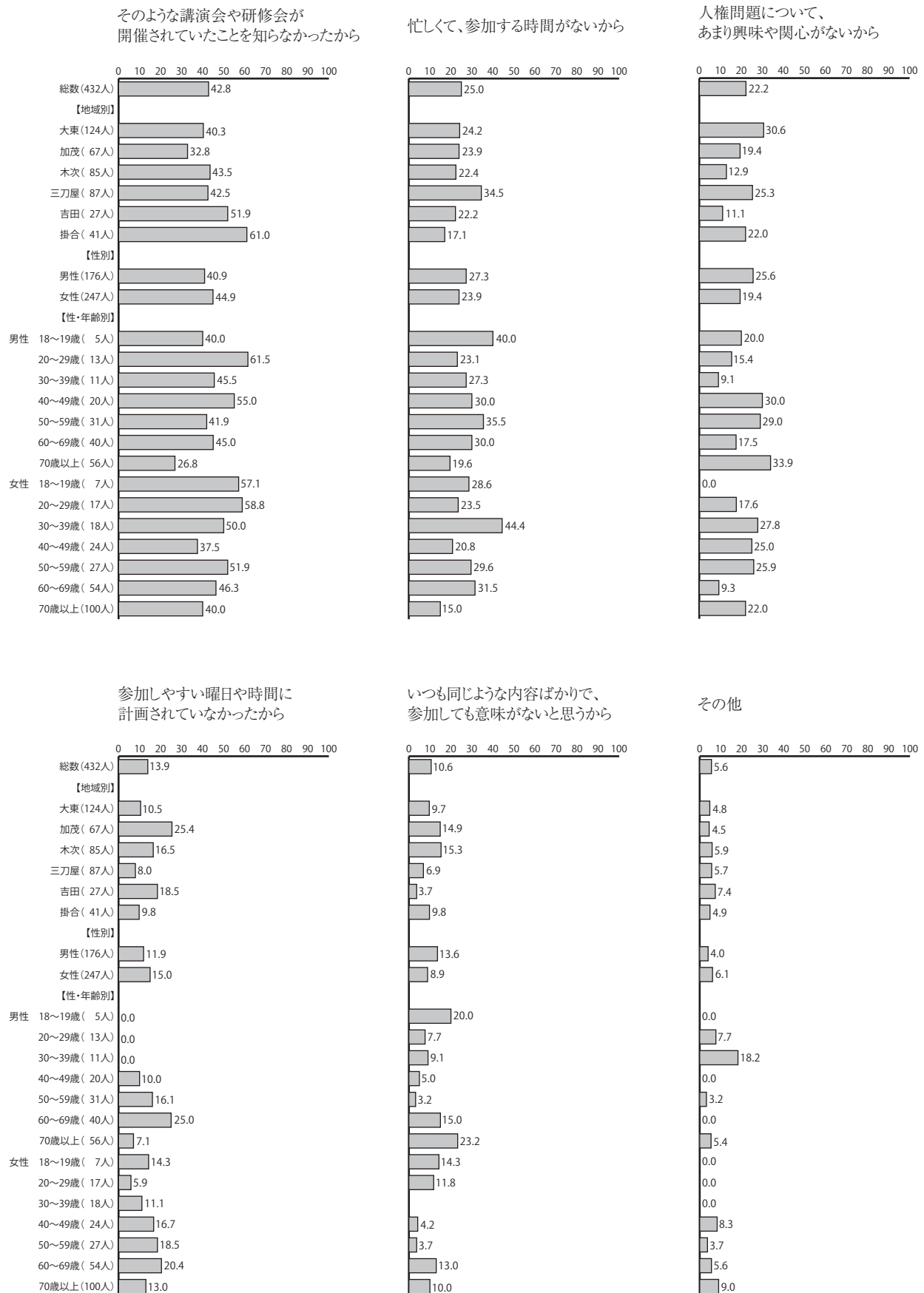
平成28年度県調査と比較すると、上位3項目のうち「人権問題について、あまり興味や関心がないから」を除く2つは、ほぼ同じ比率である。

地域別でみると、「そのような講演会や研修会が開催されていたことを知らなかったから」は掛合町（61.0%）が最も高く、次いで吉田町（51.9%）、木次町（43.5%）となっている。

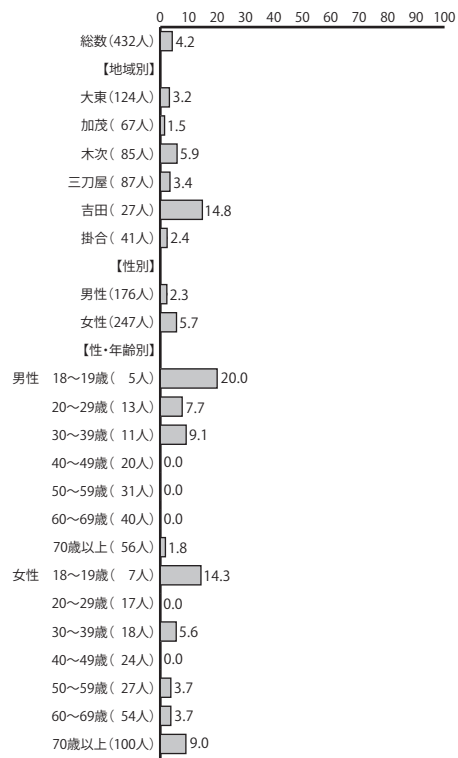
性別でみると、「そのような講演会や研修会が開催されていたことを知らなかったから」は女性（44.9%）が男性（40.9%）よりも高いが、「人権問題について、あまり興味や関心がないから」、「忙しくて、参加する時間がないから」は、男性がそれぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「そのような講演会や研修会が開催されていたことを知らなかったから」は男性では20歳代（61.5%）、女性では18～19歳（57.1%）、20歳代（58.8%）が高くなっている。

参加しなかった理由（特性別）



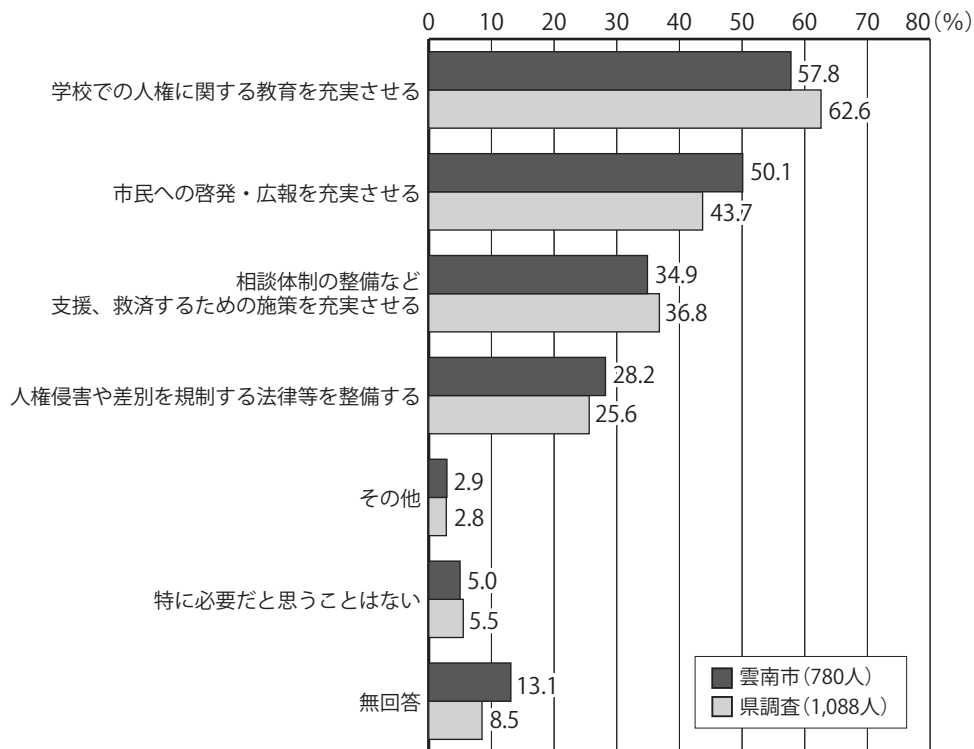
無回答



第17章 人権が尊重される社会に向けての取組について

1. 人権が尊重される社会に向けた行政の取組

問28. 人権が尊重される社会を実現するために、行政の施策として、特にどのような取組が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）



■「学校で人権に関する教育を充実させる」が5割超

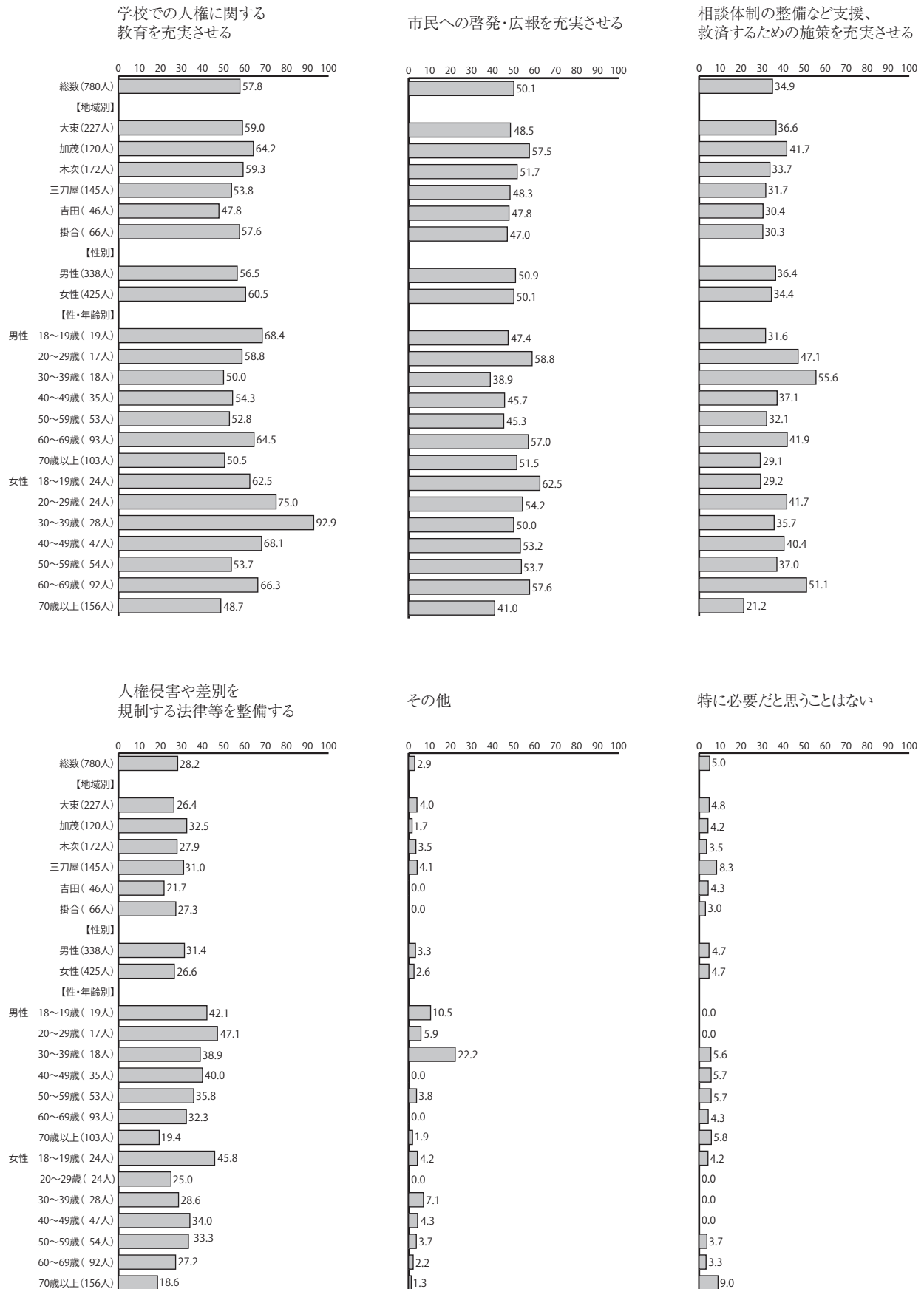
人権が尊重される社会を実現させるために、行政の施策として取組が必要だと思うものとしては、「学校での人権に関する教育を充実させる」が57.8%と最も高く、次いで「市民への啓発・広報を充実させる」が50.1%、「相談体制の整備など支援、救済するための施策を充実させる」が34.9%となっている。

地域別でみると、すべての具体的な問題項目で加茂町が最も高くなっている。

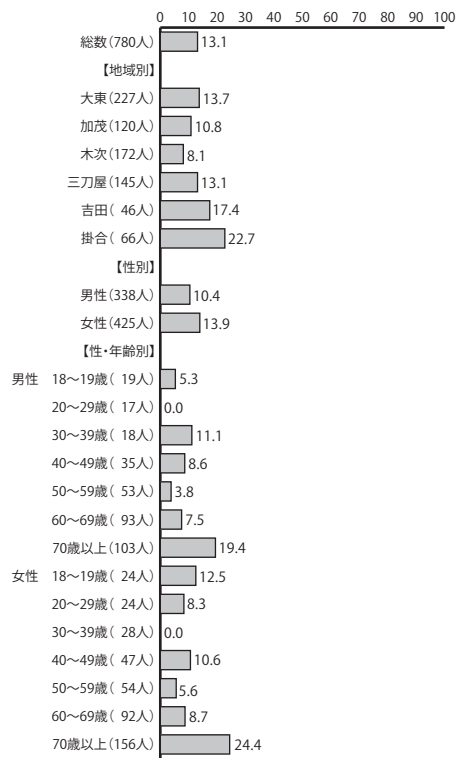
性別でみると、上位4項目のうち、「学校での人権に関する教育を充実させる」を除く3項目で男性の方が高くなっている。

性・年齢別でみると、「学校での人権に関する教育を充実させる」は、女性の30歳代（92.9%）が飛び抜けて高くなっている。

人権が尊重される社会に向けた行政の取組（特性別）



無回答



付録：調査に利用した依頼状および調査票

人権問題に関する市民意識調査のお願い

令和 2 年 7 月 8 日

雲南市長 速水雄一

【ご協力のお願い】

雲南市では、「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」に基づき、「雲南市人権施策推進基本方針」を策定し、この基本方針に基づいて人権・同和問題解決のための取組を推進してきました。

今後の人権施策のあり方や方向性等を考える基礎資料とするため、市民の皆さまを対象にアンケート調査を実施することにしました。

つきましては、大変お忙しいこととは思いますが、ご協力いただきますようお願いいたします。

【ご記入にあたってのお願い】

お答えはすべて数字になおして統計的に処理しますので、個々のお答えが外部に漏れたりすることは絶対にありません。どうぞありのままをお答えください。

- このアンケートは個人を対象にしていますので、封筒のあて名の方ご自身が記入してください。
- 回答は問 1 から順に質問ごとに用意してある答えの中から、あてはまる答えの**番号を○で囲んで**ください。なお、答えたくない問いは飛ばしてもらってもかまいません。
- 「その他」を選んだ場合は、その番号を○で囲んだ上で、() 内に具体的な内容をご記入ください。
- 質問によっては、矢印や指示がある場合があります。その際には、それに従って進んでください。
- 記入された調査票は、同封の返信用封筒に入れて、**7月31日(金)**までにご返送ください。
- お名前やご住所はお書きにならなくてけっこうです。切手は不用です。
- このアンケート調査についてお問い合わせなどありましたら、どうぞ下記までご連絡ください。

[お問合せ先]

雲南市人権センター

〒699 - 1334 雲南市木次町新市 3 番地

TEL (0854) 42-1767

FAX (0854) 42-1839

■質問に入る前に、あなたご自身のことについておたずねします。

F 1. あなたの性別を記入してください。

--

F 2. あなたの年齢（令和 2 年 4 月 1 日現在）はおいくつですか。（○は 1 つ）

1	18 歳～19 歳	5	50 歳～59 歳
2	20 歳～29 歳	6	60 歳～69 歳
3	30 歳～39 歳	7	70 歳以上
4	40 歳～49 歳		

F 3. あなたのお住まいはどこですか。（○は 1 つ）

1	大東町	4	三刀屋町
2	加茂町	5	吉田町
3	木次町	6	掛合町

■最初に、人権全般についてお聞きします。

問 1. 今の雲南市は、人権が尊重される社会になっていると思いますか。（○は 1 つ）

1	そう思う	}	問 2 へ
2	どちらかといえばそう思う		
3	どちらかといえばそうは思わない	}	問 1 の 2 へ
4	そうは思わない		

問 1 の 2. 問 1 で「3」又は「4」を選ばれた方におたずねします。

「3」又は「4」を選ばれた理由はなんですか。（○はいくつでも）

1	人権問題に関心な人や他人事意識の人がいるから
2	自分勝手に他人の事を考えない人がいるから
3	いろいろな差別があるから
4	地域や職場で、いじめや嫌がらせ、うわさ話などで人を傷つける人がいるから
5	女性、子ども、障がいのある人、高齢者などに対する虐待や暴力があるから
6	学校のいじめや教師による体罰などがあるから
7	その他（具体的に： _____）

問2. 日本にはいろいろな風習等がありますが、次にあげるものについて、あなたはどのように思いますか。次の(1)～(5)のそれぞれについて、あなたの考えに近いものに○をつけてください。

	当然のことと思う	仕方がないと思う	おかしいとは思いますが、自分だけ反対しても	間違っていると思う	その言い伝えや考え 方自体を知らない
〔記入例〕 ○○○という風習	1	②	3	4	
(1) 結婚式は「大安」の日でないとよくない、という風習	1	2	3	4	
(2) 葬式は「友引」の日を避ける風習	1	2	3	4	
(3) 結婚式場で「〇〇家、△△家披露宴」といった掲示をする風習	1	2	3	4	
(4) 家を建てるときに、家相や鬼門などを気にする風習	1	2	3	4	
(5) 結婚相手を決めるときに、相手方の身元調査をすること	1	2	3	4	

問3. 過去5年間ぐらいの間に、日常生活の中で、あなたご自身が差別や人権侵害を受けたと感じたことがありますか。(○は1つ)

- | |
|----------------|
| 1 ある → 問4へ |
| 2 ない → 問7へ |

問4. 問3で「1」と回答された方におたずねします。
それは、誰から(どこで)受けましたか。(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1 行政の人(公務員)から差別や人権侵害を受けた
2 職場において差別や人権侵害を受けた
3 学校において差別や人権侵害を受けた
4 近隣の人からなど地域社会において差別や人権侵害を受けた
5 家族や親せきなどから差別や人権侵害を受けた
6 報道によって差別や人権侵害を受けた
7 インターネットにおいて差別や人権侵害を受けた
8 その他(具体的に:) |
|--|

問5. 問3で「1」と回答された方におたずねします。

それは、どのような差別や人権侵害を受けましたか。(〇はいくつでも)

- | |
|---------------------------------------|
| 1 あらぬうわさや悪口などで名誉や信用が傷つけられた |
| 2 差別的な対応や言動を受けた |
| 3 脅迫や強要を受けた |
| 4 仲間はずれにされたり、いじめなどを受けた |
| 5 虐待や暴力を受けた |
| 6 プライバシーを侵害された |
| 7 セクシュアルハラスメントなどのハラスメント(いじめ、嫌がらせ)を受けた |
| 8 その他(具体的に:) |

問6. 問3で「1」と回答された方におたずねします。

そのとき、あなたはどのようにしましたか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 相手に抗議した | 5 警察に相談・通報した |
| 2 身近な人に相談した | 6 だまってがまんした |
| 3 国・県・市町村等に相談した | 7 その他(具体的に:) |
| 4 民間団体に相談した | |

問7. あなたは、現在どんな人権課題に関心を持っていますか。(〇はいくつでも)

- | |
|-------------------------------|
| 1 女性 |
| 2 子ども |
| 3 高齢者 |
| 4 障がいのある人 |
| 5 同和問題 |
| 6 外国人 |
| 7 性的指向・性自認に関する人権 |
| 8 患者及び感染者等(ハンセン病、HIV、肝炎ウイルス等) |
| 9 インターネットによる人権侵害 |
| 10 アイヌの人々 |
| 11 犯罪被害者とその家族 |
| 12 刑を終えて出所した人等 |
| 13 プライバシーの保護 |
| 14 北朝鮮による拉致問題 |
| 15 ホームレスとなっている人々 |
| 16 人身取引(トラフィッキング)事件の適切な対応 |
| 17 日本に帰国した中国残留邦人とその家族 |
| 18 セクシュアルハラスメントなどの様々なハラスメント |
| 19 その他(具体的に:) |

■障がいのある人の人権についてお聞きします。

問 11. 障がいのある人の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。
(○はいくつでも)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 障がいや障がいのある人への理解や認識が十分でないこと2 障がいを理由とする差別的取扱いがあること3 障がいのある人に対する合理的配慮(※)が不十分であること
(※) 合理的配慮：障がいのある人が日常生活や社会生活を送るうえで妨げとなる社会的障壁(利用しにくい施設、制度など)を取り除くために、状況に応じて行われる配慮4 道路や公共の施設のバリアフリー化が十分でなく、外出しづらいこと5 障がいのある人が働ける場所が少ないこと6 身近な地域での福祉サービスが十分でないこと7 障がいのある人が身近な地域で住宅を確保しにくいこと8 学校の受入体制が十分でないこと9 障がいのある人を虐待する、避ける、あるいは傷つける言葉を使うこと10 その他(具体的に：)11 特に問題だと思うことはない |
|---|

■同和問題についてお聞きします。

問 12. 同和問題について初めて知ったのは、どのようなことがきっかけでしたか。
(○は1つ)

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 家族、親せきの人から聞いた2 近所の人から聞いた3 学校の友だちから聞いた4 職場の人から聞いた5 学校の授業で教わった6 講演会、研究会などで聞いた7 県、市の広報誌などで読んだ8 テレビ、映画、新聞、本、インターネットなどで知った9 その他(具体的に：)10 覚えていない11 同和問題のことは知らない | <div style="font-size: 4em; vertical-align: middle; padding: 0 10px;">}</div> <div style="vertical-align: middle;">問 13 へ</div> |
| | → 問 19 へ |

問 13. 同和問題について、特にどのようなことが問題だと思いますか。
(○はいくつでも)

- 1 結婚のときに、家族や親せきなどが反対すること
- 2 家（住宅）を買ったり借りたりするときに同和地区を避けること
- 3 就職のときに、差別があること
- 4 差別的な言動をすること
- 5 差別的な落書きをすること
- 6 身元調査をすること
- 7 インターネットに差別的な情報を掲載すること
- 8 その他（具体的に： ）
- 9 特に問題だと思ふことはない
- 10 わからない

問 14. 結婚についておたずねします。【(1) (2) ともにお答えください】

(1) 仮に、あなたのお子さんが同和地区の人と知り合い、結婚しようとしたとき、あなたはどのようにしますか。(○は1つ)

- 1 子どもの意思を尊重する
- 2 親としては反対するが、子どもの意思が強ければ結婚を認める
- 3 家族の者や親せきの反対があれば、結婚を認めない
- 4 絶対に結婚を認めない

(2) 仮に、あなたが同和地区の人と知り合い、結婚しようとしたとき、親や親せきから強い反対を受けた場合、あなたはどのようにしますか。(○は1つ)

- 1 自分の意思を貫いて結婚する
- 2 親の説得に全力を尽くした後に、自分の意思を貫いて結婚する
- 3 家族の者や親せきの反対があれば、結婚しない
- 4 結婚をあきらめる

問 15. 仮に、あなたが家（住宅）を購入しようとした際に、価格や立地条件などが希望にあっても、その物件が同和地区にあるとわかったら、あなたはどのようにしますか。
(○は1つ)

- 1 避ける
- 2 どちらかといえば避ける
- 3 どちらかといえば避けない
- 4 全く気にしない
- 5 わからない

問 16. あなたの身近な人が、同和地区の人に対する差別的な言動をしたとしたら、あなたはどのようにしますか。(○は1つ)

- | |
|---------------------------------------|
| 1 差別的な言動であることをその場で指摘して、その人と話し合う |
| 2 後日、同和問題についてよく知っている人を交えて、その人と話し合う |
| 3 どう話してよいかわからず、気まずくなってしまうので、そのままにしておく |
| 4 指摘せずに、ほかの話題に変えるようにもっていく |
| 5 相手に合わせて自分も差別的な言動をしてしまう |
| 6 その他(具体的に:) |

問 17. 同和問題の解決に対するあなたの考えはどうか。(○は1つ)

- | |
|---|
| 1 同和地区以外の人には直接関係のない問題だ |
| 2 自分ではどうしようもない問題だから、成り行きにまかせるより仕方がない |
| 3 自分ではどうしようもない問題であり、誰か然るべき人が解決してくれる |
| 4 基本的人権に関わる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだ |
| 5 よく考えていない |

問 18. 同和問題を解決するためには、どうしたらよいと思いますか。(○はいくつでも)

- | |
|-----------------------------------|
| 1 差別をなくし人権を大切にする教育や啓発・広報を積極的に進める |
| 2 同和問題に関する相談体制を充実させる |
| 3 時がたてば差別は自然になくなるので、そっとしておく |
| 4 差別をした人を法律で処罰する |
| 5 同和地区の人が、同和地区にかたまって生活しないで、分散して住む |
| 6 同和地区の住宅環境や生活環境を整備・改善する |
| 7 同和地区内外の交流を進める |
| 8 同和地区の人自身が差別を受けないようにもっと努力する |
| 9 どのようなにしても差別はなくなる |
| 10 その他(具体的に:) |
| 11 わからない |

■外国人の人権についてお聞きします。

問 19. 日本で生活する外国人の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。
(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1 日常生活に必要な情報や地域の文化・慣習がわからず、日常生活に支障をきたすこと |
| 2 在住外国人の子どもが学校教育において不利な扱いを受けること |
| 3 就職や職場で不利な扱いを受けること |
| 4 日本語学習や日本の生活習慣を学習する機会が少ないこと |
| 5 日本人の異文化理解が十分ではなく、外国人に対する偏見を生みやすいこと |
| 6 その他（具体的に： _____） |
| 7 特に問題だと思うことはない |

■性的指向・性自認に関する人権についてお聞きします。

問 20. 同性愛者や両性愛者、「こころの性」と「からだの性」が一致していない人等の
人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。(○はいくつでも)

- | |
|-------------------------|
| 1 差別的な言動をされること |
| 2 就職・職場で不当な扱いを受けること |
| 3 店舗への入店や施設利用を拒否されること |
| 4 じろじろ見られたり、避けられたりすること |
| 5 性的少数者の問題に対する理解が足りないこと |
| 6 その他（具体的に： _____） |
| 7 特に問題だと思うことはない |

■患者及び感染者等の人権についてお聞きします。

問 21. HIV（エイズの原因ウイルス）感染者、肝炎ウイルス感染者および新型コロナウ
イルス感染症感染者等の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。
(○はいくつでも)

- | |
|-------------------------------|
| 1 周囲の人たちの病気についての認識や理解が十分でないこと |
| 2 病気や治療に対する相談体制が十分でないこと |
| 3 治療に対する社会的支援が不十分なこと |
| 4 感染者が退職や退学に追い込まれていること |
| 5 本人・家族が世間から偏見の目で見られること |
| 6 その他（具体的に： _____） |
| 7 特に問題だと思うことはない |

問 22. ハンセン病回復者の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。
(○はいくつでも)

- | |
|---|
| 1 学校や地域におけるハンセン病問題についての教育・啓発活動が不十分であること |
| 2 ハンセン病回復者の社会復帰に対する行政などの支援が不十分であること |
| 3 ハンセン病回復者に対する偏見・差別が残っていること |
| 4 その他（具体的に： _____） |
| 5 特に問題だと思うことはない |

■インターネットによる人権侵害についてお聞きします。

問 23. インターネットによる人権侵害が起こっている原因は何だと思いますか。
(○はいくつでも)

- | |
|---|
| 1 学校での子どもに対する情報モラル教育や保護者への啓発が不十分だから |
| 2 インターネット利用者やプロバイタ（インターネット接続事業者）等に対して個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための啓発・広報が不十分だから |
| 3 人権侵害につながる様々な情報に対する監視体制が不十分だから |
| 4 人権侵害に対して取り締まりができる法律が未整備だから |
| 5 わからない |
| 6 その他（具体的に： _____） |

■犯罪被害者の人権についてお聞きします。

問 24. 犯罪被害者とその家族の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。
(○はいくつでも)

- | |
|---|
| 1 マスメディアによる行き過ぎた取材で、平穏な生活やプライバシーが侵害されること |
| 2 周囲の無責任なうわさ話による二次的被害があること |
| 3 被害者の経済的・心理的悩みについて、地域や職場・学校等での理解が得られないこと |
| 4 被害者の写真や経歴などの情報が、インターネット等で拡散すること |
| 5 その他（具体的に： _____） |
| 6 特に問題だと思うことはない |

■ 刑を終えて出所した人の人権についてお聞きします。

問 25. 刑を終えて出所した人の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。
(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|---|
| 1 出所した人に対する偏見があること | |
| 2 嫌がらせや、差別的な言動をされること | |
| 3 就職・職場で不当な扱いを受けること | |
| 4 結婚の際に、周囲に反対されること | |
| 5 アパート等の入居を拒否されること | |
| 6 その他（具体的に： | ） |
| 7 特に問題だと思うことはない | |

■ ヘイトスピーチ（差別をあおる増悪表現）についてお聞きします。

問 26. ヘイトスピーチ（差別をあおる増悪表現）がなくなるのは、何が問題だと思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------|---|
| 1 処罰する法律がないから | |
| 2 デモ行為を認めないなどの警察の取り締まりが不十分だから | |
| 3 インターネット上での掲載を禁止されないから | |
| 4 人権教育や啓発が不十分だから | |
| 5 いずれは沈静化するので、問題はない | |
| 6 わからない | |
| 7 その他（具体的に： | ） |

■ 研修の参加状況についてお聞きします。

問 27. あなたは、過去3年くらいの間に、人権問題に関する講演会や研修会に、何回くらい参加しましたか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|----------|
| 1 3回以上 | } 問28へ |
| 2 1～2回 | |
| 3 参加したことがない | → 問27の2へ |

参加されなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- 人権が尊重される社会に向けての取組についてお聞きます。

- 1 市民への啓発・広報を充実させる
- 2 学校での人権に関する教育を充実させる
- 3 相談体制の整備や支援、救済するための施策を充実させる
- 4 人権侵害や差別を規制する法律等を整備する
- 5 その他（具体的に： _____）
- 6 特に必要だと思わない